

**IBM WebSphere Commerce Business
Edition
IBM WebSphere Commerce Professional
Edition**



**インストール・ガイド
(OS/400 用)**

バージョン 5.5

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、以下の製品のバージョン 5.5、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

- IBM WebSphere Commerce Business Edition for @server iSeries
- IBM WebSphere Commerce Professional Edition for @server iSeries

製品のレベルにあった版を使用していることをご確認ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM WebSphere Commerce Business Edition
IBM WebSphere Commerce Professional Edition
Installation Guide
for OS/400
Version 5.5

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2003.7

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2003

本書について

本書の内容

本書は、IBM WebSphere® Commerce Business Edition および IBM® WebSphere Commerce Professional Edition のメイン・コンポーネントを OS/400 プラットフォームにインストールして構成する方法について説明しています。その対象読者は、システム管理者や、インストールと構成の作業に携わるすべての担当者です。

変更の要約

このインストール・ガイドと、本書の更新版はすべて、WebSphere Commerce Technical Library Web サイト (<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>) に PDF ファイルで掲載されています。ご使用の版の WebSphere Commerce に関するその他の詳細は、以下の WebSphere Commerce Web サイトを参照してください。

- Business Edition
(http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/)
- Professional Edition
(http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/)

サポートに関するその他の詳細は、WebSphere Commerce のサポート・サイト (<http://www.ibm.com/software/commerce/support/>) を参照してください。

本製品に対して加えられた最新の変更について知りたい場合は、本製品の更新済みの README ファイルをお読みください。このファイルも、WebSphere Commerce Technical Library Web サイト (<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>) に掲載されています。旧バージョンの WebSphere Commerce とそのサポート製品がすでにあるシステムへのインストールの場合は、「*WebSphere Commerce* マイグレーション・ガイド」を参照してください。

本書での更新はすべて、この項に要約されています。

本書の表記規則

本書では、強調表示に対して次の規則が定められています。

太字体	フィールド名、アイコン、メニュー選択項目などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) コントロールを示します。
モノスペース (Monospace)	示されたとおりに入力するテキスト、ファイル名、ディレクトリー・パスおよび名前前の例を示します。
イタリック体	語を強調するために使用します。イタリックはまた、ご使用のシステムに合った値に置換しなければならない名前も示します。



このアイコンはヒントのマークであり、タスクの実行に役立つ追加情報が示されます。

重要

この項は、特に重要な情報を強調しています。

注意

この項は、データの保護を目的とした情報に重点を置いています。

Business

特に WebSphere Commerce Business Edition に関連した情報を示します。

Professional

特に WebSphere Commerce Professional Edition に関連した情報を示します。

本書の使用用語

本書では、以下の用語を使用しています。

セル セルとは、WebSphere Network Deployment Manager によってまとめて管理される WebSphere Application Server 分散ネットワーク内の 1 つ以上のノード上の任意の論理グループのことです。この定義におけるノードとは、WebSphere Application Server の単一の実在と、そのような WebSphere Application Server の実在のもとに稼働するアプリケーションをいいます。

クラスター

1 つの同じ企業アプリケーションを実行する WebSphere Application Server の実在の集まり。旧リリースではクラスターは、サーバー・グループまたは複製と呼ばれていました。クラスターを作成する作業をクラスター化 といいます。旧リリースではクラスター化は、複製 と呼ばれていました。

クラスター・メンバー

クラスター内の WebSphere Application Server の単一の実在。

連合 いくつかの WebSphere Application Server の単一の実在をセル内に集めて、複数の実在をまとめて管理すること。

ノード 本書では、ノードにはその用いられ方に応じて 2 とおりの意味があります。

WebSphere Commerce のインストールの場合

WebSphere Commerce のインストールの指示では、ノードは 1 つ以上の WebSphere Commerce コンポーネントのインストール先である単一のシステムまたはシステム区画のことです。

クラスター化の場合

クラスター化について述べている場合、ノードは WebSphere Application Server の単一の実在またはインスタンスと、そのような

WebSphere Application Server の実在のもとに稼働するアプリケーションを指します。セル内のノードは、同じセル内の他のノードと同じ企業アプリケーションを実行していることもしていないこともあります。

本書の使用変数

本書で使用している主な変数をいくつか以下に示します。

host_name

この変数は、 WebSphere Commerce サーバーの完全修飾ホスト名 (たとえば、server.mydomain.ibm.com という完全修飾名) を表します。

instance_name

この変数は、作業対象の WebSphere Commerce インスタンスの名前 (たとえば mall1) を表します。

WAS_instance_name

この変数は、作業している WebSphere Commerce インスタンスを関連付けられた WebSphere Application Server の名前を表します。

cell_name

この変数は、WebSphere Application Server セルの名前を表します。

payments_instance_name

この変数は、作業対象の WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前を表します。

パス変数

本書では、ディレクトリー・パスを表すのに次の変数を使用しています。

Payments_installdir

システム上の WebSphere Commerce Payments のインストール・ディレクトリー /QIBM/ProdData/CommercePayments/V55 です。

Payments_userdir

WebSphere Commerce Payments で使用されるすべてのデータ (ユーザーによる修正の可能なデータや構成を必要とするデータ) のディレクトリー /QIBM/UserData/CommercePayments/V55/instances/*payments_instance_name* です。

WAS_installdir

システム上の WebSphere Application Server のインストール・ディレクトリー /QIBM/ProdData/WebAS5/Base です。

WAS_ND_installdir

システム上の WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストール・ディレクトリー /QIBM/ProdData/WebAS5/ND です。

WAS_userdir

WebSphere Application Server で使用されるすべてのデータ (ユーザーによる修正の可能なデータや構成を必要とするデータ) のディレクトリー /QIBM/UserData/WebAS5/Base/*WAS_instance_name* です。

WC_installdir

WebSphere Commerce のインストール・ディレクトリー。この /QIBM/ProdData/CommerceServer55 には、システム上のすべての所有権付き WebSphere Commerce データが収容されます。

WC_userdir

WebSphere Commerce で使用されるすべてのデータ (ユーザーによる修正の可能なデータや構成を必要とするデータ) のディレクトリー /QIBM/UserData/CommerceServer55 です。

注: iSeries 上で、上記のデフォルト・インストール・パスを更新したり修正したりすることはできません。 WebSphere Commerce for iSeries 製品では、上記のディレクトリーは当然存在するものとみなされます。存在しない場合は、製品は正しく作動しません。

必要な知識

本書には、システム管理者や、WebSphere Commerce のインストールと構成に携わるすべての担当者が目を通す必要があります。

WebSphere Commerce のインストールと構成に携わる担当者には、以下の分野における知識が必要です。

- IBM @server iSeries™ および OS/400® オペレーティング・システム
- IBM DB2 Universal Database™ for iSeries
- コマンド言語の基本コマンド
- SQL の基本コマンド
- インターネット

ストアを作成してカスタマイズするには、以下の知識が必要です。

- WebSphere Application Server
- HTML および XML
- 構造化照会言語 (SQL)
- Java™ のプログラミング

ストアフロントとストア・データ資産の開発に関する詳細は、「*WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド」を参照してください。ビジネス・ロジック (またはバック・オフィスのビジネス・ロジック) の開発またはカスタマイズの詳細は、「*WebSphere Commerce* プログラミング・ガイドとチュートリアル」の資料を参照してください。

目次

本書について	iii
本書の内容	iii
変更の要約	iii
本書の表記規則	iii
本書の使用用語	iv
本書の使用変数	v
パス変数	v
必要な知識	vi

第 1 部 WebSphere Commerce のインストールの準備 1

第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ 3

WebSphere Commerce の付属製品	3
サポートされている Web ブラウザー	4
WebSphere Commerce で使用されるポート番号	4
WebSphere Commerce で使用されるロケール	6

第 2 章 プリインストール要件 7

前提条件となるハードウェア	7
前提条件となるソフトウェア	7
README ファイルの確認	8

第 3 章 iSeries 固有の概念の理解 11

WebSphere Commerce によって使用される OS/400 ファイル・システム	11
QSYS.LIB ファイル・システム	11
ルート・ファイル・システム	12
データベースのレイアウトの照会	13

第 2 部 WebSphere Commerce のインストール 15

第 4 章 WebSphere Commerce のインストール 17

インストール時に必要な ID	18
標準インストールの実行	18
標準インストールでのグラフィカル・インストールの使用 (推奨方法)	19
標準インストールでのコンソール・インストールの使用	20
標準インストールの検証	22

第 5 章 カスタム・インストールの実行 25

カスタム・インストールでのグラフィカル・インストール (推奨方法)	26
カスタム・インストールの場合のコンソール・インストールの実行	28

カスタム・インストールの検証	29
----------------	----

第 6 章 インストールの検証 33

WebSphere Application Server のインストール・ログ	33
WebSphere Commerce のインストール・ログ	33
WebSphere Commerce Payments のインストール	34
次のステップ	34

第 3 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成 35

第 7 章 構成マネージャーを使用したインスタンスの作成または変更の前に 37

構成マネージャー・クライアントのインストール	37
構成マネージャーの前提条件	38
リモート・データベースを使用したインスタンス 作成の要件	38
iSeries ユーザー・プロファイルの変更	39
構成マネージャーの開始	40
構成マネージャーの停止	42
次のステップ	42

第 8 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成 43

WebSphere Commerce インスタンスの作成時の考慮事項	43
新規の WebSphere Commerce インスタンスの作成	43
インスタンスの作成の検証	44
リモート・データベースの構成の完了	45
時間帯の設定	46
次のステップ	46

第 9 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成 47

WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成時の考慮事項	47
新規の WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成	48
リモート・データベースの構成の完了	49
インスタンスの作成の検証	49
次のステップ	50

第 4 部 最終ステップ 51

第 10 章 インスタンス作成後の必須タスク 53

Web サーバー作成後のタスク	53
-----------------	----

ローカル Web サーバーのインスタンス作成後のタスク	53
リモート Web サーバーのインスタンス作成後のタスク	53

第 11 章 インスタンス作成後の推奨タスク 55

第 5 部 拡張構成オプション 57

第 12 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成 59

前提条件	60
iSeries システムに別の IP アドレスを追加する	61
複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成	61
複数の WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成	62
複数インスタンスのテスト	63

第 13 章 WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments の連合 65

WebSphere Commerce の連合	65
WebSphere Commerce Payments の連合	67
セルからのアプリケーション・サーバー・ノードの除去	69

第 14 章 WebSphere Commerce のクラスタ化 71

水平複製のクラスタ化	73
垂直複製のクラスタ化	74
水平複製の準備	74
WebSphere Commerce クラスタの作成	75
JDBC プロバイダー・パスの検証	76
WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成	77
インスタンス情報のコピー	78
WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報のコピー	79
さらに別のクラスタ・メンバーの追加	80
WebSphere Commerce クラスタの開始または停止	81
クラスタ・メンバーの除去	82
WebSphere Commerce クラスタ内でのストアの発行	82
水平複製を使用したクラスタ内でのストアの発行	82
垂直複製を使用したクラスタ内でのストアの発行	83

第 6 部 インストールと管理のタスク 85

第 15 章 WebSphere Commerce のタスク 87

WebSphere Commerce インスタンスの開始または停止	87
WebSphere Commerce インスタンスの開始	87
WebSphere Commerce インスタンスの停止	88
WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始または停止	89
QShell セッションからの WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始または停止	89
WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更	90
WebSphere Commerce インスタンスの削除	90
WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除	92

第 16 章 WebSphere Application Server のタスク 93

アプリケーション・サーバーの開始または停止	93
WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止	95
WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止	95
WebSphere Application Server 管理コンソールの開始	96
WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのもとでのアプリケーション・サーバーの開始または停止	97
WebSphere Application Server のサブシステムの開始	98
QEJBAS5 サブシステムの開始	99
QEJBAS5 サブシステムの終了	99
WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのサブシステムの開始	100
WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成	100

第 17 章 リモート Web サーバーのタスク 103

Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー	103
WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ	103
ストアの発行後のタスク	105

第 18 章 パスワードの設定と変更 107

構成マネージャー・パスワードの変更	107
WebSphere Commerce サイト管理者パスワードの変更	107
サイト管理者パスワードのリセット	108
サイト管理者 ID のリカバリー	109

第 19 章 Web サーバーのタスク 111

IBM HTTP Server の開始および停止	111
IBM HTTP Server インスタンスの開始	111
IBM HTTP Web サーバー・インスタンスの停止	112
IBM HTTP administrator の開始および停止	113

第 20 章 WebSphere Commerce の管理に必要なユーザー ID	115
iSeries ユーザー・プロファイルの作成	116

第 7 部 付録 119

付録 A. 確認済みの問題と制限事項 . . . 121

Web サーバーの問題と制限事項	121
セキュア (HTTPS) URL が機能しない	121
WebSphere Commerce インスタンスの問題と制限事項	121
WebSphere Commerce インスタンスを正しく開始できない	121
コンソール・インストールの使用上の注意	123
WebSphere Commerce Payments インスタンスの問題と制限事項	124
リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが機能しない	124
WebSphere Commerce Payments インスタンスが始動しない	125

付録 B. WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール 127

WebSphere Commerce のアンインストール	127
WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントのアンインストール	128
WebSphere Application Server のアンインストール	128
WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのアンインストール	128
WebSphere Commerce とそのコンポーネントの再インストール	129

付録 C. 詳細情報の入手方法 131

WebSphere Commerce に関する情報	131
WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ	131
WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリ	131
WebSphere Commerce Payments に関する情報	131
IBM HTTP Server に関する情報	133
WebSphere Application Server に関する情報	133
DB2 Universal Database に関する情報	133
その他の IBM 資料	133

特記事項 135

商標	136
----	-----

第 1 部 WebSphere Commerce のインストールの準備

第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ

本書は、WebSphere Commerce 5.5 for IBM @server iSeries on OS/400 のインストールおよび構成方法について説明しています。その対象読者は、システム管理者や、インストールと構成の作業に携わるすべての担当者です。

WebSphere Commerce Suite バージョン 5.1 または WebSphere Commerce バージョン 5.4 をインストールしている場合、バージョン 5.1 の場合は「*WebSphere Commerce マイグレーション・ガイド*」に、バージョン 5.4 の場合は「*WebSphere Commerce マイグレーション・ガイド*」に説明されているマイグレーション・ステップをそれぞれ行ってください。「マイグレーション・ガイド」は、以下の WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

重要


WebSphere Commerce バージョン 5.4 をインストールしている場合、以下の 2 つのオプションを利用できます。

- WebSphere Commerce バージョン 5.4 製品を WebSphere Commerce バージョン 5.5 製品にマイグレーションする。
- WebSphere Commerce バージョン 5.5 をインストールする。同じ OS/400 システム上での WebSphere Commerce バージョン 5.4 と WebSphere Commerce バージョン 5.5 の共存はサポートされます。

WebSphere Commerce の付属製品

WebSphere Commerce には以下の製品がパッケージされています。

- WebSphere Commerce のコンポーネント
 - WebSphere Commerce サーバー
 - WebSphere Commerce Payments。これには、以下が組み込まれています。
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for VisaNet
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for BankServACH
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for Paymentech
 - WebSphere Commerce Payments CustomOffline Cassette
 - WebSphere Commerce Payments OfflineCard Cassette
 - WebSphere Commerce アクセラレーター
 - WebSphere Commerce 管理コンソール
 - WebSphere Commerce 組織管理コンソール
 - 商品アドバイザー
 - Blaze Rules Server バージョン 4.5.5 および Blaze Innovator Runtime バージョン 4.5.5

- LikeMinds クライアント
- WebSphere Application Server 5.0
- IBM WebSphere Commerce Analyzer 5.5
- WebSphere Commerce 5.5 Recommendation Engine powered by LikeMinds
-  IBM Lotus® QuickPlace® 3.0
- IBM Lotus Sametime® 3.0

サポートされている Web ブラウザー

WebSphere Commerce のツールとオンライン・ヘルプへのアクセスは、WebSphere Commerce のシステムと同じネットワーク上において Windows® オペレーティング・システムを実行しているマシンから、Microsoft® Internet Explorer 6.0 を使用するのが唯一の方法です。Internet Explorer は、フル・バージョン 6.0 のもの (別称は Internet Explorer 6.0 Service Pack 1 およびインターネット・ツール) であって、しかも Microsoft— 社製の最新の重要なセキュリティ上の更新を適用されているものを使用する必要があります。それより前のバージョンでは、WebSphere Commerce のツールの機能は完全にはサポートされていません。

ショッピングは、以下のいずれかの Web ブラウザーを使用して Web サイトにアクセスできます。これらは、すべて WebSphere Commerce でテスト済みです。

- Windows 用の AOL 7 以上
- 以下の Microsoft Internet Explorer:
 - Windows の場合はバージョン 6 以上
 - Macintosh の場合はバージョン 5 以上
- 以下の Netscape:
 - Windows の場合はバージョン 6.1 以上
 - Linux の場合はバージョン 6.2.3 以上
- 以下の Netscape Navigator:
 - Windows の場合はバージョン 4.51 以上
 - Linux の場合はバージョン 4.79 以上

WebSphere Commerce で使用されるポート番号

以下に、WebSphere Commerce またはそのコンポーネント製品によって使用されるデフォルトのポート番号のリストを示します。WebSphere Commerce 以外のアプリケーションでは、これらのポートを使用しないようにしてください。システムにファイアウォールが構成されている場合には、これらのポートがアクセス可能になっていることを確認してください。

どのポートが使用中かの判別に関する詳細は、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

重要

このセクションでは、WebSphere Commerce 付属のソフトウェアに必要なポートだけをリストしています。IBM 以外のソフトウェアに必要なポート番号については、IBM 以外のソフトウェアのパッケージ用の資料を参照してください。

ポート番号

使用するソフトウェア

- 21** FTP ポート。このポートは、リモート Web サーバーを使用する WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成するときに必要です。
- 80** IBM HTTP Server
- 389** Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) Directory Server
- 443** IBM HTTP Server - セキュア・ポート。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 1099** WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー。
- 2001** IBM HTTP Server 管理ポート。
- 2010** IBM HTTP Server 管理 SSL ポート。
- 2809** WebSphere Application Server ブートストラップ・アドレス。
- 5432** WebSphere Commerce Payments 非セキュア・サーバー。
- 5433** WebSphere Commerce Payments セキュア・サーバー。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 5557** WebSphere Application Server 内部 Java Messaging Service サーバー。
- 5558** WebSphere Application Server Java Messaging Service サーバーのキューに入れられたアドレス。
- 5559** WebSphere Application Server Java Messaging Service の直接アドレス。
- 7873** WebSphere Application Server DRS クライアント・アドレス。
- 8000** WebSphere Commerce Tools。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 8002** WebSphere Commerce 管理コンソール。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 8004** WebSphere Commerce 組織管理コンソール。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 8880** WebSphere Application Server SOAP Connector アドレス。
- 9043** WebSphere Application Server 管理コンソール・セキュア・ポート。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 9080** WebSphere Application Server HTTP トランスポート。
- 9090** WebSphere Application Server 管理コンソール・ポート。
- 9501** WebSphere Application Server セキュア・アソシエーション・サービス。

9502 WebSphere Application Server 共通セキュア・ポート。

9503 WebSphere Application Server 共通セキュア・ポート。

WebSphere Commerce で使用されるロケール

WebSphere Commerce では、有効な Java のロケールだけが使用されます。使用する言語に該当するロケールがシステムにインストールされていることを確認してください。また、ロケールに関係するすべての環境変数には、WebSphere Commerce でサポートされているロケールを使用して設定するようにしてください。

表 1. WebSphere Commerce でサポートされる OS/400 ロケール・コード

言語	ロケール・コード
ドイツ語	de_DE
英語	en_US
スペイン語	es_ES
フランス語	fr_FR
イタリア語	it_IT
日本語	ja_JP
韓国語	ko_KR
ブラジル・ポルトガル語	pt_BR
中国語 (簡体字)	zh_CN
中国語 (繁体字)	zh_TW

第 2 章 プリインストール要件

この章では、WebSphere Commerce をインストールする前に行う必要のあるステップについて説明します。

重要

インストールが必ず正常に完了するようにするには、以下のプリインストール・ステップを完了しておく必要があります。

前提条件となるハードウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低ハードウェア要件を必ず満たしておかなければなりません。

- 以下のサーバーのいずれか (推奨最低限)。
 - AS/400e™ Server モデル 170、プロセッサ・フィーチャー 2385
 - AS/400e Server 720 型、プロセッサ・フィーチャー 2062
 - @server iSeries Server モデル 270、プロセッサ・フィーチャー 2252
 - @server iSeries Server モデル 820、プロセッサ・フィーチャー 2396
- 1 GB のメモリー (それ以上を推奨)

注: サポートされるユーザーの数が限定されていて、サーバー初期化時間が長くてもかまわない環境では、これらの最低要件を満たさないシステムであっても使用できます。

さらに、以下のものがが必要です。

- Windows オペレーティング・システムを実行し、さらに Internet Explorer などの Web ブラウザーを実行することのできる、グラフィック対応モニターを備えたワークステーション
- マウスまたはその他のポインティング・デバイス
- TCP/IP プロトコルがサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター

前提条件となるソフトウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低ソフトウェア要件を必ず満たしておかなければなりません。

- OS/400 バージョン 5 リリース 2 (V5R2M0) 以降 (5722SS1)。以下に例を示します。
 - DB2 Universal Database for iSeries V5R2M0
 - ホスト・サーバー (5722SS1 オプション 12)。ホスト・サーバーを始動するには、ホスト・サーバーの始動 (STRHOSTSVR) コマンドを使用して、OS/400 コ

マンド行に STRHOSTSVR *ALL と入力します。QSERVER サブシステムが、iSeries システム上で稼働していなければなりません。

- QShell インタープリター (5722SS1 オプション 30)
- Portable App Solutions Environment (5722SS1 オプション 33)
- Digital Certificate Manager (5722SS1 オプション 34)
- International Components for Unicode (5722SS1 オプション 39)
- IBM Java Developer Kit バージョン 1.3 (5722JV1 オプション 5)
- IBM HTTP Server Powered by Apache (5722DG1)
- Crypto Access Provider 128-Bit for AS/400® (5722AC3)
- TCP/IP Connectivity Utilities (5722TC1)
- さらに、以下のオプション製品をインストールすることもできます。
 - iSeries Access (5722XW1 オプション *BASE および 1)
 - iSeries Access for Windows (5722XE1)
 - DB2® Query Manager および SQL Development Kit (5722ST1)
 - WebSphere Application Server Network Deployment (5733WS5 オプション 5)
 - LDAP ディレクトリー・サービス (5722SS1)。LDAP 製品は、OS/400 V5R2M0 に組み込まれており、iSeries システムにインストールされることとなります。

README ファイルの確認

README ファイルの内容の確認は、WebSphere Commerce のインストールにおける重要な前提条件です。README ファイルには、本製品に対する最新の変更に関する情報が記載されています。最新の変更には、WebSphere Commerce の使用の前にインストールする必要がある追加のフィックスが入っていることがあります。

README ファイルに一覧で示されているすべての最新のフィックスをインストールしないと、WebSphere Commerce が正しく機能しない原因になります。

README ファイルは、WebSphere Commerce ディスク 1 CD のルート・ディレクトリーに置かれています。README ファイルの名前は次のとおりです。

`readme_language_code.htm`

ただし `language_code` は以下のいずれかです。

言語	言語コード
ドイツ語	de_DE
英語	en_US
スペイン語	es_ES
フランス語	fr_FR
イタリア語	it_IT
日本語	ja_JP
韓国語	ko_KR
ブラジル・ポルトガル語	pt_BR
中国語 (簡体字)	zh_CN

言語	言語コード
中国語 (繁体字)	zh_TW

第 3 章 iSeries 固有の概念の理解

この章では、IBM @server iSeries および OS/400 オペレーティング・システム独自の概念について説明します。その内容は次のとおりです。

- 統合ファイル・システム (IFS) 内のさまざまなファイル・システムの説明
- WebSphere Commerce システムのファイル編成

WebSphere Commerce によって使用される OS/400 ファイル・システム

Web 資産 (JSP および HTML ファイルなど) の保管場所や、それに対応するファイル・サーバーの構成方法を決定するには、統合ファイル・システム (IFS) を理解していることが重要です。

ファイル・システムは、LU に編成されているストレージの個々のセグメントへのアクセスをサポートします。その LU は、ファイル、ディレクトリー、フォルダー、ライブラリー、およびオブジェクトです。

それぞれのファイル・システムには、ストレージ内の情報との対話に対する一連の論理構造とルールがあります。それらの構造とルールはファイル・システムごとに異なる場合があります。構造とルールの観点からは、ライブラリーを介してデータベース・ファイルおよびその他の各種のオブジェクト・タイプにアクセスするための OS/400 サポートは、1 つのファイル・システムと見なすことができます。同様に、フォルダー構造を介して文書 (実際にはストリーム・ファイル) にアクセスするための OS/400 サポートは、別個のファイル・システムとして動作します。

統合ファイル・システムは、ライブラリー・サポートおよびフォルダー・サポートを別個のファイル・システムとして扱います。その他のタイプの OS/400 ファイル管理サポートは独自の機能をすべて備えており、別個のファイル・システムとして機能します。WebSphere Commerce によって使用される iSeries ファイル・システムを以下に説明します。その他の OS/400 ファイル・システムについては、OS/400 の資料を参照してください。

WebSphere Commerce は統合ファイル・システム内の 2 つの異なるファイル・システムに情報を保管します。それは、*QSYS.LIB* ライブラリー・ファイル・システムとルート・ファイル・システムです。

QSYS.LIB ファイル・システム

QSYS.LIB ライブラリー・ファイル・システムは、iSeries ライブラリー構造をサポートします。このファイル・システムは、データベース・ファイル、およびライブラリー・サポートが管理するその他のすべての iSeries オブジェクト・タイプへのアクセスの手段になります。

インストールおよび構成プロセスによって、QSYS.LIB ファイル・システム内に QWEBCOMM55 ライブラリーが作成されます。これには、以下のタイプのオブジェクトが入っています。

- *MSGF (メッセージ・ファイル)

- *PRDDFN (製品定義オブジェクト)

ルート・ファイル・システム

ルート (つまり /) ファイル・システムは、統合ファイル・システムの階層ディレクトリ構造およびストリーム・ファイル・サポートを最大限に活用します。ルート・ファイル・システムには、DOS および OS/2[®] ファイル・システムの特徴があります。

WebSphere Commerce は分割ルート・ファイル構造を使用します。WebSphere Commerce が使用するデータのうち、ユーザーが変更できるものや構成する必要のあるものはすべて、UserData サブディレクトリに置かれます。また、すべての WebSphere Commerce の所有データは ProdData サブディレクトリに置かれます。これは、2 つのタイプの情報の区別を明らかにするために行われています。これにより、将来のマイグレーションができる限り単純化される、ファイルのサービス提供が容易になります。

注:

1. インスタンス・ルート・パスに入っているファイルのみ変更できます。このパスのデフォルトは次のとおりです。

`WC_userdir/instances/instance_name`

`WC_userdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

2. インスタンスのエンタープライズ・アプリケーションをデプロイすると、すべての JSP ファイルおよびその他の資産は以下の場所に保管されます。

`WAS_userdir/installedApps/cell_name/WC_instance_name.ear`

このディレクトリにあるファイルも変更可能です。`WAS_userdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

WebSphere Commerce が特定のインスタンス用に構成されると、構成マネージャーは選択された構成オプションの必須ファイルをすべて `WC_userdir` パスにコピーします。以下のパスにある元のファイルは変更しないでください。

`WC_installdir`

`WC_installdir` および `WC_userdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

重要: PTF を適用したり、製品を再インストールすると、ProdData ディレクトリー・パスにあるファイルが削除されたり、上書きされることがあります。そのため、ProdData ディレクトリー・パスにはカスタマイズ済みファイルを保管しないでください。

以下の表は、WebSphere Commerce のインストールおよび構成プロセスによって作成され、ルート・ファイル・システムに保管されるディレクトリーおよびストリーム・ファイルをリストしています。ディレクトリー・パス `/instance_root/` は、ディレクトリー・パス `WC_userdir/instances/instance_name` を指しています。ここで、`instance_name` は構成時にインスタンスに指定した名前です。

パス	意味
<code>/instance_root/xml/instance_name.xml</code>	インスタンス構成ファイル。このファイルには、WebSphere Commerce サーバーの構成設定が入っています。
<code>/instance_root/web</code>	IBM HTTP Server 文書ルート・ディレクトリー。
<code>/instance_root/conf</code>	IBM HTTP Server 構成ファイル (<code>httpd.conf</code>) が置かれているディレクトリー。
<code>WAS_userdir/installedApps/ cell_name/ WC_instance_name.ear</code>	インスタンス・プロパティ・ファイルが置かれるディレクトリー。カスタマイズ済み資産の正確な場所については、「 <i>WebSphere Commerce プログラミング・ガイドとチュートリアル</i> 」を参照してください。
<code>/instance_root/logs</code>	WebSphere Commerce ログ・ファイルが置かれているディレクトリー。
<code>/instance_root/xml</code>	WebSphere Commerce インスタンス構成 XML ファイルが置かれているディレクトリー。

`WAS_userdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

データベースのレイアウトの照会

SQL ステートメントを使用して、データベース・レイアウトに関する情報を照会することができます。DB2/400 Query Manager と SQL Development Kit を使用するか、または iSeries ナビゲーターを使用することができます。iSeries Access を使用してデータベース照会を実行するには、以下のようになります。

1. インストール先の PC から iSeries ナビゲーターを開始します。
2. 「**データベース (Databases)**」を展開してから該当するリレーショナル・データベースを右マウス・ボタンでクリックし、「**SQL スクリプトの実行 (Run SQL Scripts)**」を選択します。「**SQL スクリプトの実行 (Run SQL Scripts)**」ウィンドウがオープンします。
3. 必要な SQL ステートメントをウィンドウに入力します。たとえば、以下のようになります。
 - データベース内のすべてのテーブルのリストを表示するには、以下のように入力します (大文字のみで 1 行に入力します)。

```
SELECT TABLE_NAME FROM QSYS2.SYSTABLES WHERE
TABLE_SCHEMA='DB_SCHEMA_NAME'
```
 - 特定のテーブルにある列にリストを表示するには、以下のように入力します (1 行で)。

```
SELECT * FROM QSYS2.SYSCOLUMNS WHERE TABLE_SCHEMA='DB_SCHEMA_NAME'
AND TABLE_NAME='TABLE_NAME'
```
 - 特定のテーブルにあるレコードを表示するには、以下のように入力します。

```
SELECT * FROM 'DB_SCHEMA_NAME'.'TABLE_NAME'
```

詳細は次のとおりです。

'DB_SCHEMA_NAME'

インスタンス・データベースの名前。

'TABLE_NAME'

照会するデータベース・テーブルの名前。

これらの SQL ステートメントやそれ以外の SQL ステートメントに関する詳細は、以下の Web サイトに掲載されている「*DB2 Universal Database for iSeries SQL Reference*」を参照してください。

<http://publib.boulder.ibm.com/html/as400/infocenter.html>

第 2 部 WebSphere Commerce のインストール

第 4 章 WebSphere Commerce のインストール

この章の解説では、1 つのノードでの WebSphere Commerce のインストールと構成を順を追って説明しています。そのインストールには、次のような前提条件があります。

- 7 ページの『第 2 章 プリインストール要件』に概略されているハードウェアとソフトウェアのすべての前提条件がシステムで満たされている。

次のようなインストール・オプションを利用することができます。

クイック・インストール:

単一のノードにすべての WebSphere Commerce コンポーネントをインストールするには、クイック・インストールを実行します。そのノードには、WebSphere Commerce 5.5 のどのコンポーネントもインストールされていません。クイック・インストールの実行に関する説明は、「*WebSphere Commerce* クイック・スタート」に述べられています。

標準インストール:

WebSphere Commerce 5.5 ソフトウェアの一部がすでにインストールされている単一のノードにすべての WebSphere Commerce ソフトウェアをインストールするには、標準インストールを実行します。

この場合、すべての WebSphere Commerce ソフトウェアが 1 つのノードにインストールされます。これには、WebSphere Application Server、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce が含まれています。

標準インストールの実行方法は、18 ページの『標準インストールの実行』に説明されています。

カスタム・インストール:

カスタム・インストールを使用すると、複数のノードに WebSphere Commerce コンポーネントをインストールすることができます。WebSphere Commerce に対してリモート側で WebSphere Commerce Payments を実行する予定の場合、カスタム・インストールを実行します。

すべてのノードが、7 ページの『第 2 章 プリインストール要件』に一覧で示されているオペレーティング・システム要件を満たす同一のオペレーティング・システムを実行していなければなりません。

このインストールは、WebSphere Commerce に関する知識の豊富なユーザーだけが行うようにしてください。

カスタム・インストールの実行方法は、25 ページの『第 5 章 カスタム・インストールの実行』に説明されています。

ご注意!

ご使用の iSeries システムに WebSphere Application Server バージョン 5.0 がインストールされていない場合、標準インストール中およびいくつかのコンポーネントのカスタム・インストール中にインストールされます。 WebSphere Application Server 5.0 製品のインストールでは、ご使用の iSeries システムに WebSphere MQ classes for Java 製品 (5639C34) がインストールされていない場合、それもインストールします。

iSeries がサブシステム QMQM をアクティブにしている場合、製品番号 5639C34 のインストールは失敗します。 WebSphere Commerce および WebSphere Application Server のインストールを開始する前に、サブシステム QMQM が終了していることを確認してください。

インストール時に必要な ID

WebSphere Commerce をインストールして構成するためには、USRCLS(*SECOFR) iSeries ユーザー・プロファイルを使用するか、または QSECOFR ユーザー・プロファイルを使用する必要があります。 116 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』を参照して、以下のいずれかを行ってください。

- ユーザー・プロファイルを作成する。
- 既存の iSeries ユーザー・プロファイルが正しくローカライズ設定されていることを確認する。

標準インストールの実行

ご使用の iSeries システムに WebSphere Commerce 5.5 製品をインストールするには、次の 2 通りの方法があります。

- Windows 2000 マシンにおいて、または Universal Disk Format (UDF) CD をサポートする Windows マシン (推奨する方法) において、次のようにします。
 - Windows マシンは、CD ドライブを備えていて、しかも iSeries マシンと同じ TCP/IP ネットワークに接続されている必要があります。
 - GUI インストール・パネルに従って、インストール・プロセスを順にたどっていきます。ネットワークおよびご使用の iSeries マシンに応じて、インストールには最大 3 時間を要します。
 - この種子のインストールをグラフィカル・インストール と呼びます。
- iSeries 5250 セッション (代替方式):
 - OS/400 コマンド行のインストールによって、インストール・プロセスを順にたどっていきます。
 - ご使用の iSeries マシンによっては、インストールに 3 時間以上かかる場合があります。
 - この種子のインストールを コンソール・インストール と呼びます。

この 2 種類のインストールの詳細なステップについては、この後の項を参照してください。

標準インストールでのグラフィカル・インストールの使用 (推奨方法)

グラフィカル・インストールを使用して標準インストールを実行するには、次のようにします。

1. リモート Windows システムの CD-ROM ドライブに WebSphere Commerce CD 1 を挿入します。
2. CD-ROM ドライブにナビゲートして、iSeriesServer.bat をダブルクリックしてインストーラーを立ち上げます。
3. しばらくすると、「iSeries ログオン情報」ウィンドウが表示されます。WebSphere Commerce のインストール先となる iSeries システム用のシステム名、ユーザー・プロファイル、およびパスワードを入力します。必ず、SECOFR クラス権限をもったユーザーとして iSeries システムにログオンします。「次へ」をクリックします。
4. インストール言語を選択してから、「OK」をクリックします。
5. 「ウェルカム」パネルで「次へ」をクリックします。
6. 「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」パネルが表示されます。使用許諾契約書に目を通してください。

使用許諾契約書に同意する場合は「**使用許諾契約書に同意します (I accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「次へ」をクリックします。

使用許諾契約書に同意しない場合は「**使用許諾契約書に同意しません (I do not accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「次へ」をクリックします。「このライセンス情報に同意しない、で正しいですか?」というメッセージを示した確認ウィンドウが表示されます。「はい」をクリックしてインストール・プログラムを終了するか、または「いいえ」をクリックして「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」パネルに戻ります。

7. 使用許諾契約書に同意すると、インストール・タイプのパネルが表示されます。「**標準インストール (Typical Installation)**」を選択し、「次へ」をクリックします。

注: iSeries システムに WebSphere Commerceバージョン 5.4 がインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

以前のバージョンの WebSphere Commerce が検出されました。
両方のバージョンの WebSphere Commerce を共存させますか?

「はい」をクリックしてインストールを先に進めるか、または「いいえ」をクリックしてインストールを終了します。共存に関する詳細は、3 ページの『第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ』を参照してください。

8. WebSphere Commerce のデフォルトの宛先ディレクトリーが表示されます。「次へ」をクリックします。
9. インストールしようとしている文書の言語を選択してから、「次へ」をクリックします。
10. インストールの選択内容を確認し、「次へ」をクリックします。(選択内容を変更するには、「戻る」をクリックします。)

11. iSeries システムにすでに WebSphere Application Server 5.0 製品がインストールされている場合、ステップ 14 に進みます。インストールされていない場合、WebSphere Application Server for iSeries のディスク 1 CD をリモート Windows システムの CD-ROM ドライブに挿入してから、「次へ」をクリックします。

DOS ウィンドウがオープンします。 WebSphere Application Server 製品のインストールの詳細情報が表示されます。

12. その DOS ウィンドウで、WebSphere Application Server for iSeries ディスク 2 の CD を Windows システムの CD-ROM ドライブに挿入します。次のメッセージが表示されてから **Enter** キーを押します。

Insert disk 2 of 2. Please press Enter key when ready.

インストールが完了したら、以下のメッセージが表示されるはずです。

Installation completed successfully.
Please read the Installation and Initial Configuration documentation.
Please press the Enter key to end the installation program.

Enter キーを押すと、DOS ウィンドウはクローズします。

13. **WebSphere Commerce** インストール画面に戻ります。次のメッセージが画面に表示されるのをお待ちください。

Insert the IBM WebSphere Commerce CD 1 CD into the CD-ROM drive

WebSphere Application Server の CD をドライブから取り出し、WebSphere Commerce ディスク 1 の CD を CD-ROM ドライブに挿入します。「次へ」をクリックします。

14. WebSphere Commerce のインストールが開始します。完了のパーセントを示すウィンドウが、画面下部隅に示されます。
15. 「InstallShield ウィザード」パネルの「次へ」をクリックして先に進みます。
16. 「インストール完了」パネルから、WebSphere Commerce に関するさらに詳しい情報にアクセスするか、または「終了」をクリックして、インストール・ウィザードを終了することができます。

注: 標準インストールが完了したら、 WebSphere Application Server の PTF および適用可能な OS/400 製品の PTF を適用する必要があります。この PTF の適用に関する詳細は、 WebSphere Commerce 製品の README ファイルを参照してください。最新版の README ファイルは、WebSphere Commerce Technical Library Web サイト (<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>) に掲載されています。

標準インストールが完了したら、22 ページの『標準インストールの検証』へ進んでください。

標準インストールでのコンソール・インストールの使用

コンソール・インストールを開始する前に、123 ページの『コンソール・インストールの使用上の注意』に目を通してください。

標準インストールでのコンソール・インストールの実行

コンソール・インストールを使用して標準インストールを実行するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce のインストール先の iSeries システムにログオンします。その際、必ず、SECOFR クラス権限をもったユーザーとしてログオンします。
2. iSeries CD-ROM ドライブに WebSphere Commerce CD 1 を挿入します。
3. 以下のコマンドを使用して PASE シェルを入力します。
CALL QP2TERM
4. 次のコマンドを入力して、インストーラーを開始します。
/qopt/WC55/setup.qsh

注: 示されたとおりにのみ、コマンドを入力します。最初にディレクトリーにナビゲートしてからコマンドを入力すると、インストールが失敗する原因になります。

5. ウィザードで使用する言語を選択します。
6. 「ウェルカム」画面が表示されます。
7. 使用許諾契約書が表示されます。
8. 「標準インストール (Typical Installation)」を選択します。
WebSphere Commerce のインストール・ディレクトリーが表示されます。
9. インストールしたいオンライン・ヘルプ言語を選択します。
インストール・オプションの要約が表示されます。
10. ご使用の iSeries システムに WebSphere Application Server バージョン 5.0 がインストールされている場合は、ステップ 13 に進んでください。
iSeries システムに WebSphere Application Server バージョン 5.0 がインストールされていない場合、次のメッセージが画面に表示されます。
Insert the IBM WebSphere Application Server CD into the CD-ROM drive

WebSphere Application Server for iSeries ディスク 1 の CD を iSeries CD-ROM ドライブに挿入します。
11. 次のメッセージが表示される場合、ディスク 1 を CD-ROM ドライブから取り出し、WebSphere Application Server for iSeries ディスク 2 の CD を入力して **Enter** キーを押します。
Insert WebSphere Application Server disk 2 and press ENTER
12. WebSphere Application Server のインストールが完了すると、次のメッセージが表示されます。
Insert the IBM WebSphere Commerce Disk 1 CD into the CD-ROM drive

WebSphere Application Server の CD を CD-ROM ドライブから取り出し、WebSphere Commerce ディスク 1 の CD を挿入します。 **Enter** キーを押します。
13. WebSphere Commerce のインストールが開始します。画面には、インストールの進捗状況がパーセンテージで表示されます。
14. インストールが完了すると、次のメッセージが表示されます。
The InstallShield Wizard has successfully installed WebSphere Commerce.

15. ウィザードを閉じ、**F3** を押して QP2TERM セッションを終了します。

注: 標準インストールが完了したら、WebSphere Application Server の PTF および適用可能な OS/400 製品の PTF を適用する必要があります。この PTF の適用に関する詳細は、WebSphere Commerce 製品の README ファイルを参照してください。最新版の README ファイルは、WebSphere Commerce Technical Library Web サイト (<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>) に掲載されています。

標準インストールが完了したら、『標準インストールの検証』へ進んでください。

標準インストールの検証

WebSphere Commerce の標準インストールが正常に完了したかどうかを検証するには、次のようにします。

1. 以下のライブラリーが iSeries システムに存在しているはずです。
 - WebSphere Commerce Server 用 - ライブラリー QWEBCOMM55
 - WebSphere Commerce Payments 用 - ライブラリー QCPYMS および QCPYMS55
 - WebSphere Application Server 用 - ライブラリー QEJBAS5
2. iSeries システムの以下のディレクトリーの統合ファイル・システム (IFS) を検査します。
 - /QIBM/ProdData/CommerceServer55
 - /QIBM/ProdData/CommercePayments/V55
 - /QIBM/ProdData/WebAS5
3. iSeries ナビゲーターを使用して、iSeries システムにインストールされた製品を表示します。
 - a. iSeries ナビゲーターにアクセスできる PC では、「スタート」→「プログラム」→ IBM 「iSeries Access for Windows」→ 「iSeries ナビゲーター」をクリックします。
 - b. iSeries ナビゲーター・ウィンドウで、「マネージメント・セントラル」→ 「エンドポイント・システム (Endpoint Systems)」を拡張表示します。
 - c. 該当する iSeries システム上で右クリックし、「インベントリー (Inventory)」→ 「収集 (Collect)」をクリックします。
 - d. 新規のウィンドウが表示されます。「ソフトウェア」ボックスがチェックされていることを確認します。「OK」をクリックして収集を開始します。
 - e. 「マネージメント・セントラル」→ 「タスク・アクティビティー (Task Activity)」→ 「インベントリー (Inventory)」を拡張表示します。
 - f. 右のパネルに、iSeries システムのタスクがリストされます。「完了 (Completed)」が表示されるまで **F5** キー (最新表示) を押します。
 - g. 「マネージメント・セントラル」→ 「エンドポイント・システム (Endpoint Systems)」→ 「iSeries システム」→ 「構成およびサービス (Configuration and Service)」→ 「ソフトウェア・インベントリー (Software Inventory)」→ 「インストール済み製品 (Installed Products)」をクリックします。

- h. 右のパネルに製品のリストが表示されます。 WebSphere Commerce 製品が表示されるまで、下にスクロールします。

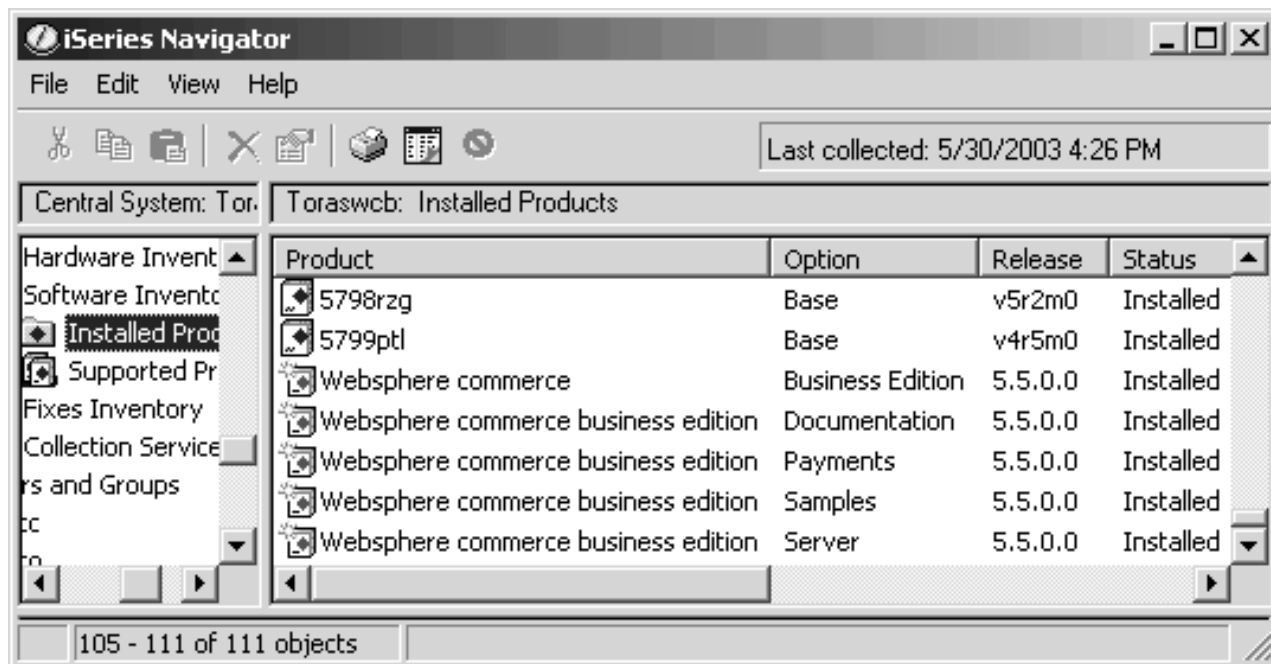


図1. WebSphere Commerce Business Edition のインストール済み製品

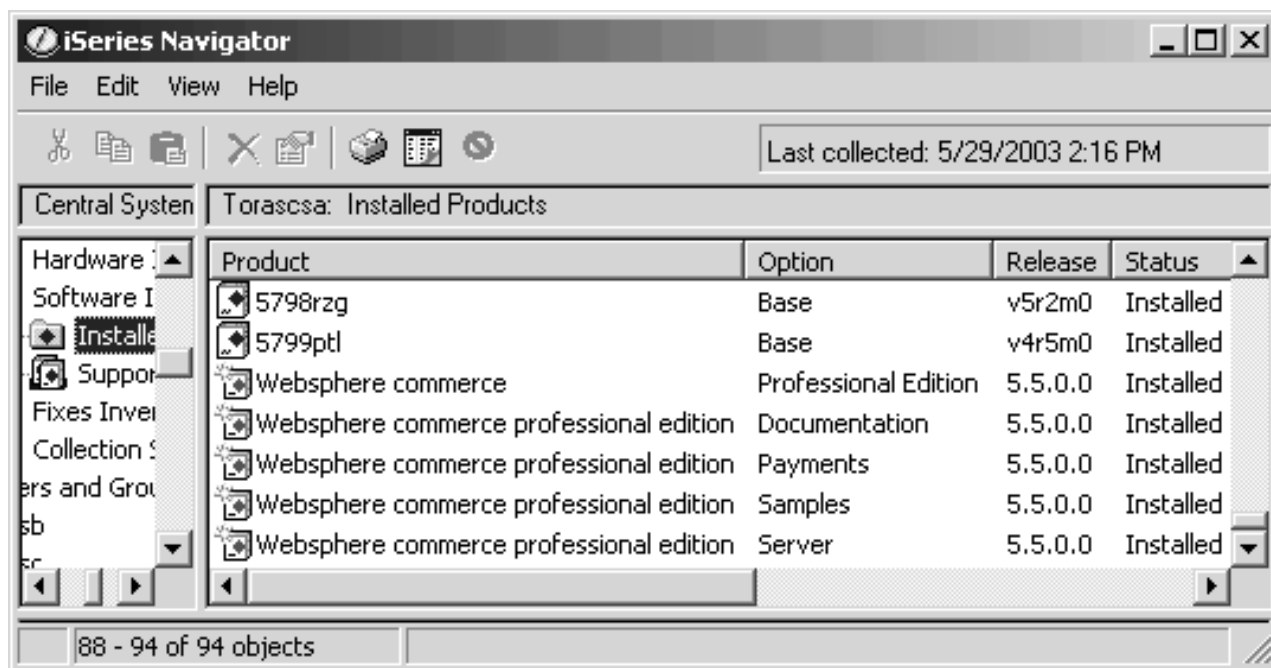


図2. WebSphere Commerce Professional Edition のインストール済み製品

同じパネルに、WebSphere Application Server 製品も表示されます。これは以下の図に示されています。

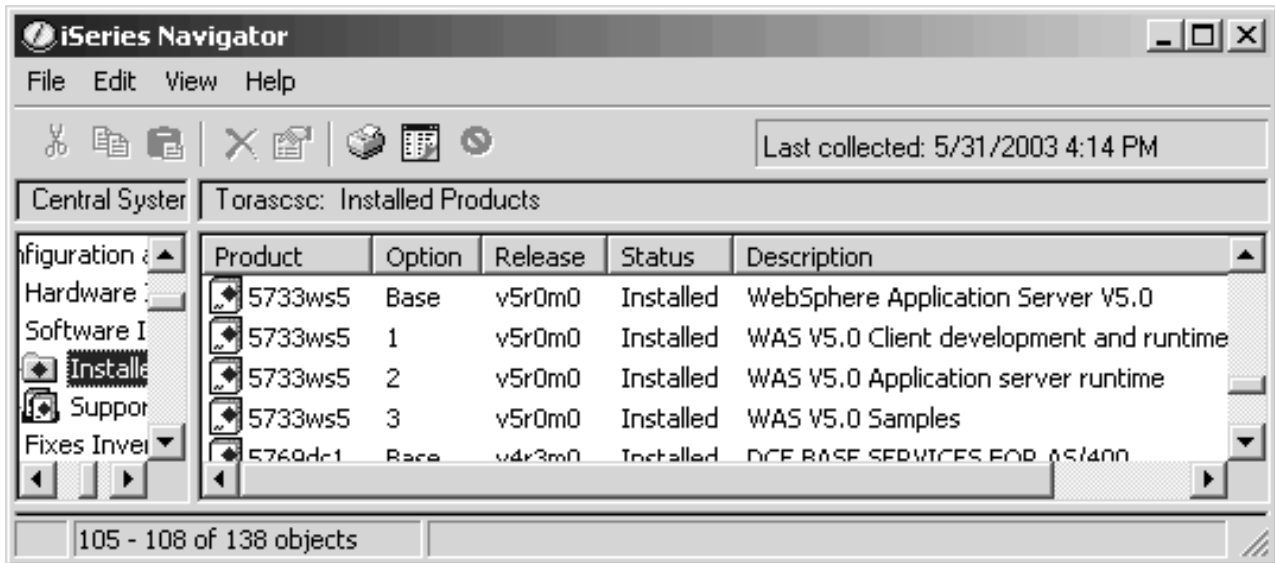


図3. WebSphere Application Server Base のインストール済み製品

33 ページの『第 6 章 インストールの検証』に進んでください。

第 5 章 カスタム・インストールの実行

カスタム・インストールは、WebSphere Commerce に関する知識の豊富なユーザーだけが行うようにしてください。たとえば、以下のような知識や経験が必要です。

- WebSphere Application Server 5.0 の構成と分散環境における運用についての豊富な知識。
- 分散環境での WebSphere Commerce インスタンス作成の経験。
- リモート・データベースの構成および管理の経験。
- リモート・アプリケーションと連動する Web サーバーの構成の経験。

カスタム・インストールを実行すると、以下のコンポーネントをそれぞれ別々のノードにインストールすることができます。

WebSphere Commerce のコンポーネント

WebSphere Commerce Server

このコンポーネントは、WebSphere Commerce Payments のものを除く WebSphere Commerce のすべての機能を備えています。

このコンポーネントを選択すると、以下のものがノードにインストールされます。

- WebSphere Commerce サーバー
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー
- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce サンプル・ストア
- WebSphere Application Server

WebSphere Commerce Server コンポーネントと一緒にリモートまたはローカルの DB2 Universal Database を使用する予定の場合、WebSphere Commerce Server コンポーネントのインストール時に追加のステップは必要ありません。

WebSphere Commerce のサンプル・ファイル

このコンポーネントには、商品アドバイザー、Web サービス、および Payments を初めとして、さまざまなサンプル・ファイルが用意されています。

このコンポーネントには、WebSphere Commerce サンプル・ストアは組み込まれていません。

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ

このコンポーネントは、WebSphere Commerce (WebSphere Commerce Payments も含む) のオンライン・ヘルプ・ファイルをインストールします。このコンポーネントをインストールすると、iSeries システムにオンライン・ヘルプ・ファイルがコピーされますが、HTTP を通じてファイルを見るための Web サーバーはインストールされません。ファイルは、ノードのファイル・システムからファイルを開いて初めて見るすることができます。

WebSphere Commerce Payments

このコンポーネントは、WebSphere Commerce Payments のすべての機能をインストールします。

このコンポーネントを選択すると、以下のものがノードにインストールされます。

- WebSphere Commerce Payments
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー
- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Application Server

WebSphere Commerce Payments コンポーネントと一緒にリモートまたはローカルの DB2 Universal Database を使用する予定の場合、WebSphere Commerce Payments コンポーネントのインストール時に追加のステップを行う必要はありません。

WebSphere Commerce 5.5 コンポーネントをインストールするには、以下の 2 通りの方法があります。

- Windows 2000 マシンにおいて、または Universal Disk Format (UDF) CD をサポートする Windows マシン (推奨する方法) において、次のようにします。
 - Windows マシンは、CD ドライブを備えていて、しかも @server iSeries マシンと同じ TCP/IP ネットワークに接続されている必要があります。
 - GUI インストール・パネルに従って、インストール・プロセスを順にたどっていきます。ネットワークおよびご使用の @server iSeries マシンに応じて、インストールには最大 3 時間を要します。
 - この種子のインストールをグラフィカル・インストール と呼びます。
- iSeries 5250 セッション (代替方式)
 - OS/400 コマンド行のインストールによって、インストール・プロセスを順にたどっていきます。
 - ご使用の @server iSeries マシンによっては、インストールに 3 時間以上かかる場合があります。
 - この種子のインストールをコンソール・インストール と呼びます。

これらのタイプのインストールの詳細なステップについては、この後の項を参照してください。

カスタム・インストールでのグラフィカル・インストール (推奨方法)

グラフィカル・インストールを使用してカスタム・インストールを実行するには、次のようにします。

1. リモート Windows システムの CD-ROM ドライブに WebSphere Commerce CD 1 を挿入します。
2. CD-ROM ドライブにナビゲートして、iSeriesServer.bat をダブルクリックしてインストーラーを立ち上げます。
3. しばらくすると、「@server iSeries ログオン情報」ウィンドウが表示されます。WebSphere Commerce コンポーネントのインストール先の @server iSeries システム用のシステム名、ユーザー・プロファイル、およびパスワード

を入力します。必ず、SECOFR クラス権限をもったユーザーとして @server iSeries システムにログオンします。「次へ」をクリックします。

4. インストール言語を選択してから、「OK」をクリックします。
5. 「ウェルカム」パネルで「次へ」をクリックします。
6. 「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」パネルが表示されます。使用許諾契約書に目を通してください。
使用許諾契約書に同意する場合は「**使用許諾契約書に同意します (I accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「次へ」をクリックして条件を受諾します。
使用許諾契約書に同意しない場合は「**使用許諾契約書に同意しません (I do not accept the terms in the license agreement)**」を選択し、「次へ」をクリックします。「このライセンス情報に同意しない、で正しいですか?」というメッセージを示した確認ウィンドウが表示されます。「はい」をクリックしてインストール・プログラムを終了するか、または「いいえ」をクリックして「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」パネルに戻ります。
7. 使用許諾契約書に同意すると、インストール・タイプのパネルが表示されます。「**Custom Installation (カスタム・インストール)**」を選択してから、「次へ」をクリックします。
8. ノードにインストールするコンポーネントを選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

注: 各コンポーネントの説明は、この章の冒頭に述べられています。

WebSphere Commerce のデフォルトの宛先ディレクトリが表示されます。「次へ」をクリックします。

9. WebSphere Commerce のサンプル・ファイルだけをインストールする場合は、ステップ 11 に進みます。
10. インストールしようとしている文書の言語を選択して、「次へ」をクリックします。
11. インストールの選択内容を確認し、「次へ」をクリックします。(選択内容を変更するには、「戻る」をクリックします。)
12. WebSphere Commerce のサンプル・ファイルまたは WebSphere Commerce オンライン・ヘルプだけをインストールする場合は、ステップ 16 (28 ページ) に進みます。
13. WebSphere Commerce Server コンポーネントまたは WebSphere Commerce Payments をインストールする場合で、@server iSeries システムにすでに WebSphere Application Server バージョン 5.0 製品がインストールされている場合は、16 (28 ページ) に進みます。それ以外の場合は、WebSphere Application Server for @server iSeries のディスク 1 CD を Windows システム CD-ROM ドライブに挿入してから、「次へ」をクリックします。DOS ウィンドウがオープンします。WebSphere Application Server 製品のインストールの詳細情報が表示されます。
14. 同じ DOS ウィンドウに以下のメッセージが表示されたら、WebSphere Application Server for @server iSeries ディスク 2 CD を Windows システムの CD-ROM ドライブに挿入してから、**Enter** キーを押します。

Insert disk 2 of 2. Please press Enter key when ready.

インストールが完了したら、以下のメッセージが表示されるはずですが。

Installation completed successfully.
Please read the Installation and Initial Configuration documentation.
Please press the Enter key to end the installation program.

Enter キーを押すと、DOS ウィンドウはクローズします。

15. WebSphere Commerce のインストール画面に戻ります。画面に以下のメッセージが表示されるまで待ちます。

Insert the IBM WebSphere Commerce CD 1 CD into the CD-ROM drive

WebSphere Application Server の CD をドライブから取り出し、WebSphere Commerce ディスク 1 の CD を CD-ROM ドライブに挿入します。「次へ」をクリックします。

16. WebSphere Commerce のインストールが開始します。完了のパーセントを示すウィンドウが、画面下部隅に示されます。
17. 「InstallShield ウィザード」パネルの「次へ」をクリックして先に進みます。
18. 「インストール完了」パネルから、WebSphere Commerce に関するさらに詳しい情報にアクセスするか、または「終了」をクリックして、インストール・ウィザードを終了することができます。

注: カスタム・インストールが完了したら、WebSphere Application Server の PTF および該当する OS/400 製品の PTF を適用する必要があります。この PTF の適用に関する詳細は、WebSphere Commerce 製品の README ファイルを参照してください。最新版の README ファイルは、WebSphere Commerce Technical Library Web サイト (<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>) に掲載されています。

カスタム・インストールが完了したら、29 ページの『カスタム・インストールの検証』に進みます。

カスタム・インストールの場合のコンソール・インストールの実行

コンソール・インストールを実行する前に、123 ページの『コンソール・インストールの使用上の注意』に目を通してください。

コンソール・インストールを使用してカスタム・インストールを実行するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce のインストール先の @server iSeries システムにログオンします。その際、必ず、SECOFR クラス権限をもったユーザーとしてログオンします。
2. WebSphere Commerce CD 1 を @server iSeries CD-ROM ドライブに挿入します。
3. 以下のコマンドを使用して PASE シェルを入力します。
CALL QP2TERM
4. 次のコマンドを入力して、インストーラーを開始します。
/qopt/WC55/setup.qsh

注: 示されたとおりにのみ、コマンドを入力します。最初にディレクトリーにナビゲートしてからコマンドを入力すると、インストールが失敗する原因になります。

5. ウィザードで使用する言語を選択します。
6. 「ウェルカム」画面が表示されます。
7. 使用許諾契約書が表示されます。
8. 「カスタム・インストール」を選択します。
9. インストールする 1 つ以上のコンポーネントを選択します。
10. WebSphere Commerce インストール・ディレクトリーが表示されます。
11. 選択したコンポーネントによって、表示される情報とプロンプトが異なります。表示される説明に従って、残りのパネルをナビゲートします。
12. インストールが完了すると、次のメッセージが表示されます。
The InstallShield Wizard has successfully installed WebSphere Commerce
13. ウィザードを閉じ、**F3** を押して QP2TERM セッションを終了します。

注: 標準インストールを完了したら、WebSphere Application Server の PTF および適用可能な OS/400 製品の PTF を適用する必要があります。この PTF の適用に関する詳細は、WebSphere Commerce 製品の README ファイルを参照してください。最新版の README ファイルは、WebSphere Commerce Technical Library Web サイト (<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>) に掲載されています。

カスタム・インストールが完了したら、『カスタム・インストールの検証』に進みます。

カスタム・インストールの検証

WebSphere Commerce のカスタム・インストールが成功したことを検証するには、以下を調べてください。

1. 以下のライブラリーが @server iSeries システムに存在しているはずです。
 - WebSphere Commerce Server 用の、WebSphere Commerce のサンプル・ファイルまたは WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプ - ライブラリー QWBCOMM55
 - WebSphere Commerce Payments 用 - ライブラリー QCPYMS および QCPYMS55
 - WebSphere Application Server 用 - ライブラリー QEJBAS5
2. インストールされているコンポーネントに基づいて、@server iSeries システム上の統合ファイル・システム (IFS) には、以下の 1 つ以上のディレクトリーがあります。
 - /QIBM/ProdData/CommerceServer55
 - /QIBM/ProdData/CommercePayments/V55
 - /QIBM/ProdData/WebAS5
3. iSeries ナビゲーターを使用して、@server iSeries システムにインストールされた製品を表示します。

- a. iSeries ナビゲーターにアクセスできる PC で、「スタート」 → 「プログラム」 → IBM 「iSeries Access for Windows」 → 「iSeries ナビゲーター」 をクリックします。
- b. iSeries ナビゲーター・ウィンドウで、「マネージメント・セントラル」 → 「エンドポイント・システム (Endpoint Systems)」 を拡張表示します。
- c. 該当する iSeries システム上で右クリックし、「インベントリー (Inventory)」 → 「収集 (Collect)」 をクリックします。
- d. 新規のウィンドウが表示されます。「ソフトウェア」ボックスがチェックされていることを確認します。「OK」 をクリックして収集を開始します。
- e. 「マネージメント・セントラル」 → 「タスク・アクティビティ (Task Activity)」 → 「インベントリー (Inventory)」 を拡張表示します。
- f. 右のパネルに、iSeries システムのタスクがリストされます。「完了 (Completed)」が表示されるまで F5 キー (最新表示) を押します。
- g. 「マネージメント・セントラル」 → 「エンドポイント・システム (Endpoint Systems)」 → 「iSeries システム (iSeries system)」 → 「構成およびサービス (Configuration and Service)」 → 「ソフトウェア・インベントリー (Software Inventory)」 → 「インストール済み製品 (Installed Products)」 をクリックします。
- h. 右のパネルに製品のリストが表示されます。WebSphere Commerce 製品が表示されるまで、下にスクロールします。

注: 以下の図はすべて、Business Edition インストールを示しています。
Professional Edition インストールでも、同じようなビューが表示されます。

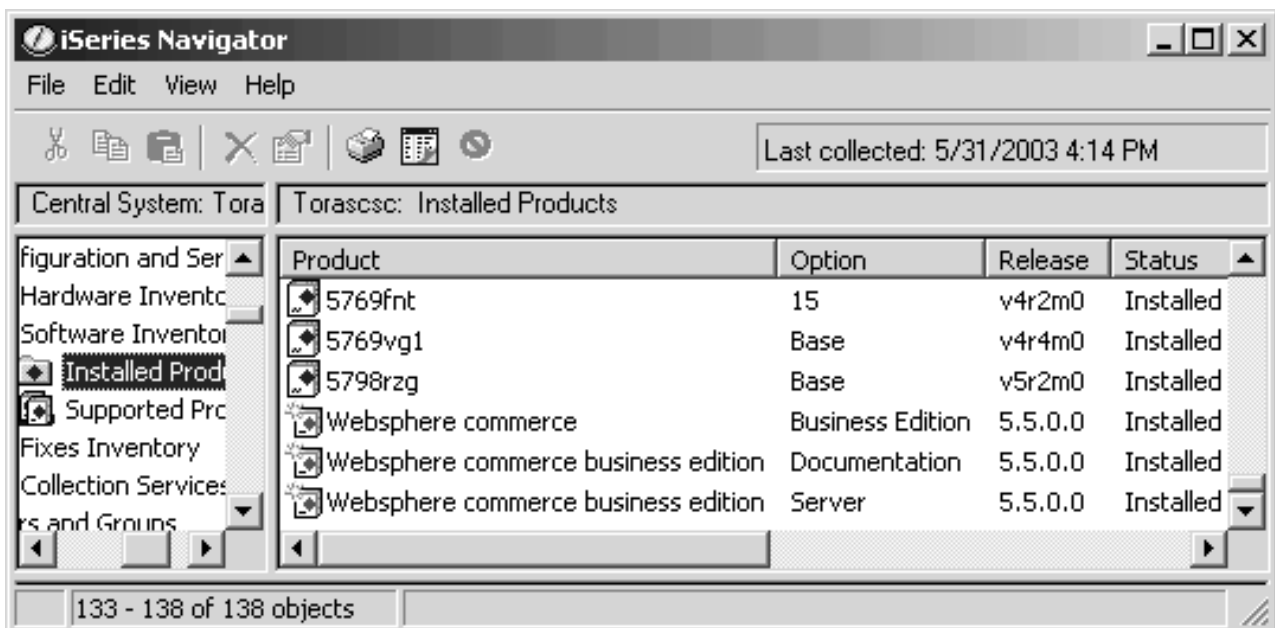


図 4. WebSphere Commerce Server をインストールした場合の製品

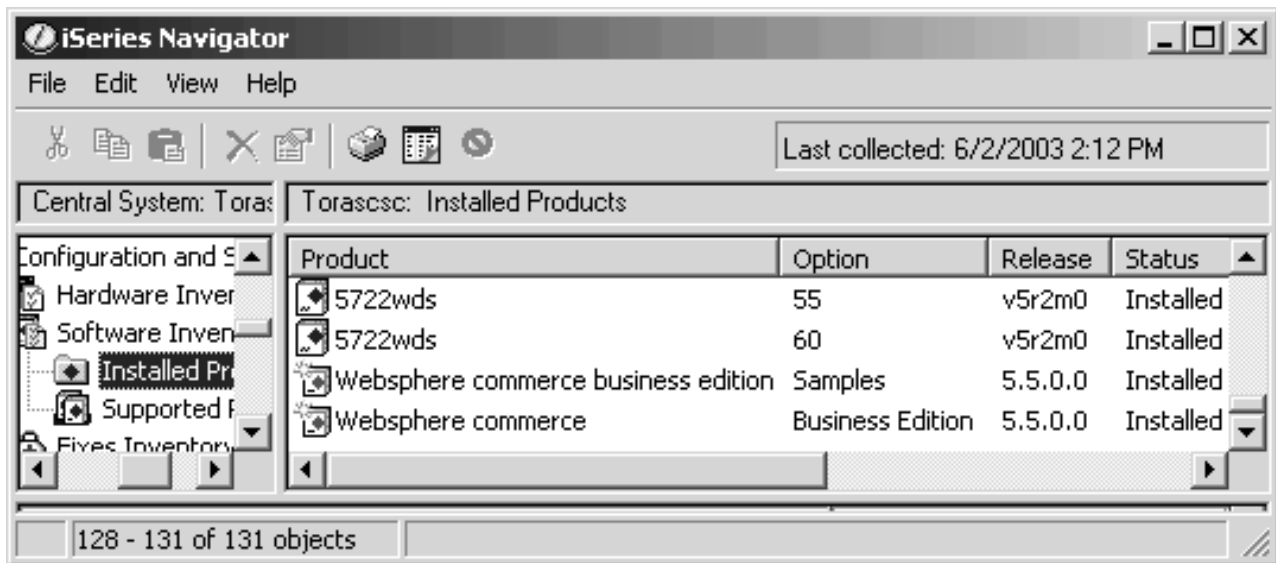


図5. WebSphere Commerce サンプル・ファイルをインストールした場合の製品

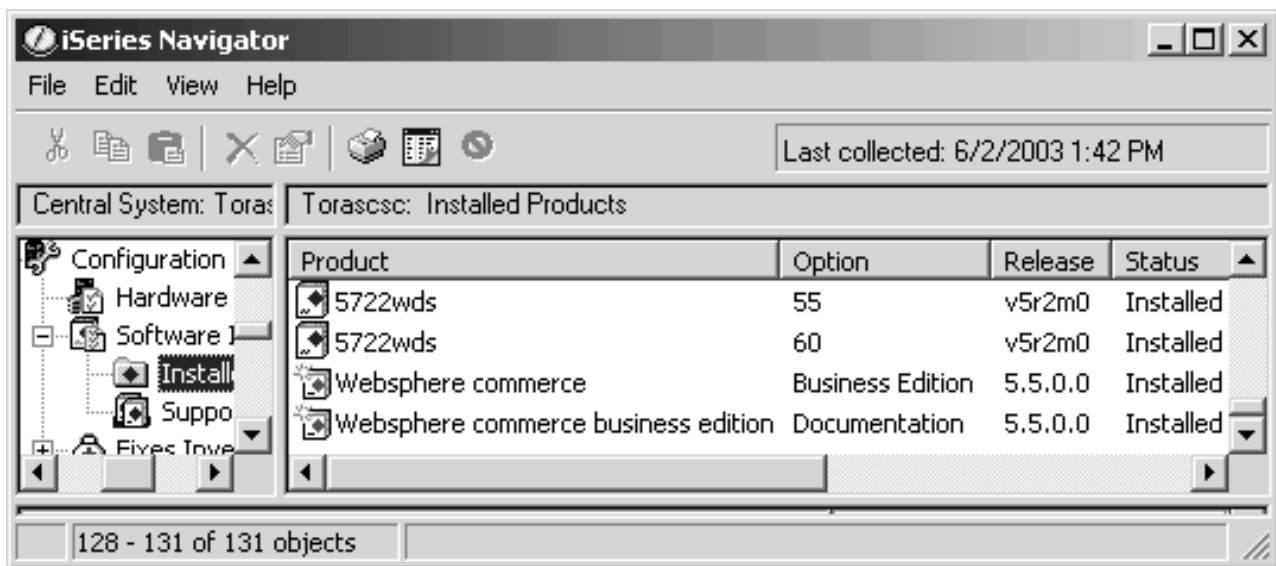


図6. WebSphere Commerce オンライン・ヘルプをインストールした場合の製品

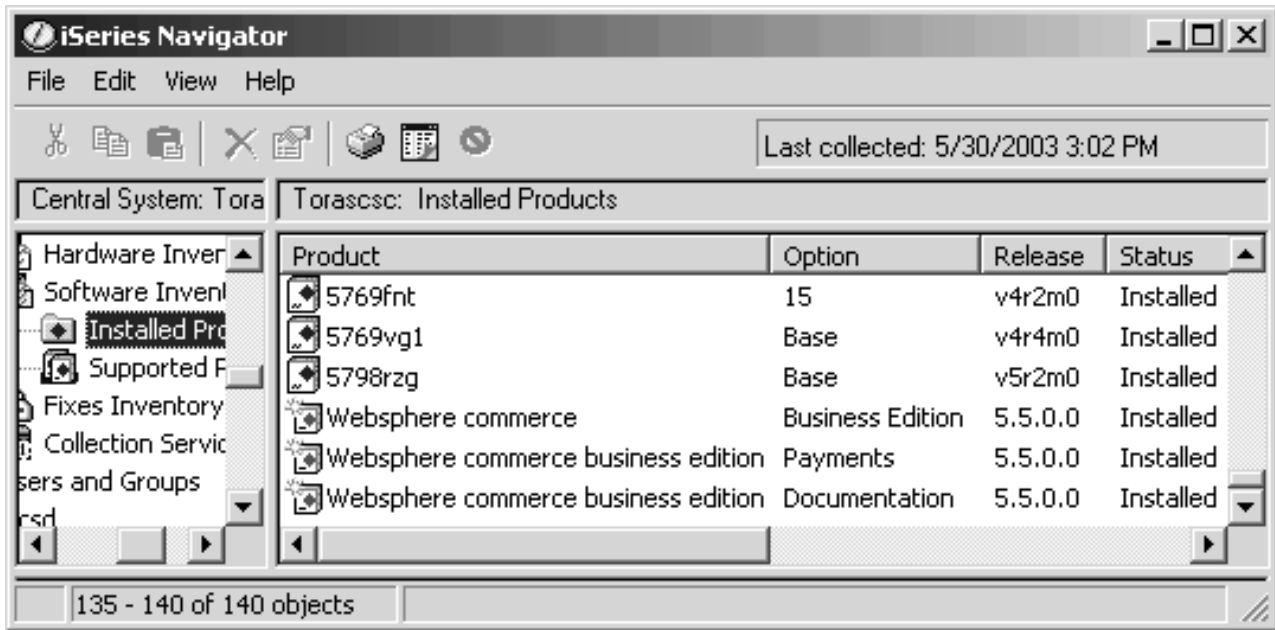


図7. WebSphere Commerce Payments をインストールした場合の製品

33 ページの『第 6 章 インストールの検証』に進んでください。

第 6 章 インストールの検証

WebSphere Commerce とそのコンポーネントのインストール時にはログ・ファイルが生成されます。以下のログ・ファイルを調べて、インストールが正常に完了したことを確認してください。

- 『WebSphere Application Server のインストール・ログ』
- 『WebSphere Commerce のインストール・ログ』

IBM 以外のソフトウェアのインストールを確認するには、そのソフトウェアのパッケージに添付されている資料を参照してください。

WebSphere Application Server のインストール・ログ

WebSphere Application Server インストール・ログ・ファイル (WS51STDOUT.LOG) は、以下のディレクトリーのいずれかに配置されています。

- グラフィカル・インストールの場合は、ログ・ファイルはインストールが完了した Windows PC 上に配置されます。ログ・ファイルは、インストール開始時にサインオンした PC ユーザーの一時フォルダーに配置されます。例えば、Windows 2000 PC では、ログ・ファイルは次のディレクトリーに配置されます。

`drive:/Documents and Settings/PC_user/Local Settings/Temp/WebSphere`

- コンソール・インストールの場合は、ログ・ファイルは iSeries システム上の次のディレクトリーに配置されます。

`/tmp/WebSphere`

ログ・ファイルに次のメッセージが示されていれば、WebSphere Application Server のインストールは完了したということです。

`Installation completed successfully`

WebSphere Commerce のインストール・ログ

このログには、WebSphere Commerce インストール・ウィザードで生成されたメッセージが示されます。このログ・ファイルのデフォルト・ロケーションは次のとおりです。

`/tmp/InstallLogs/install_datestamp_timestamp.log`

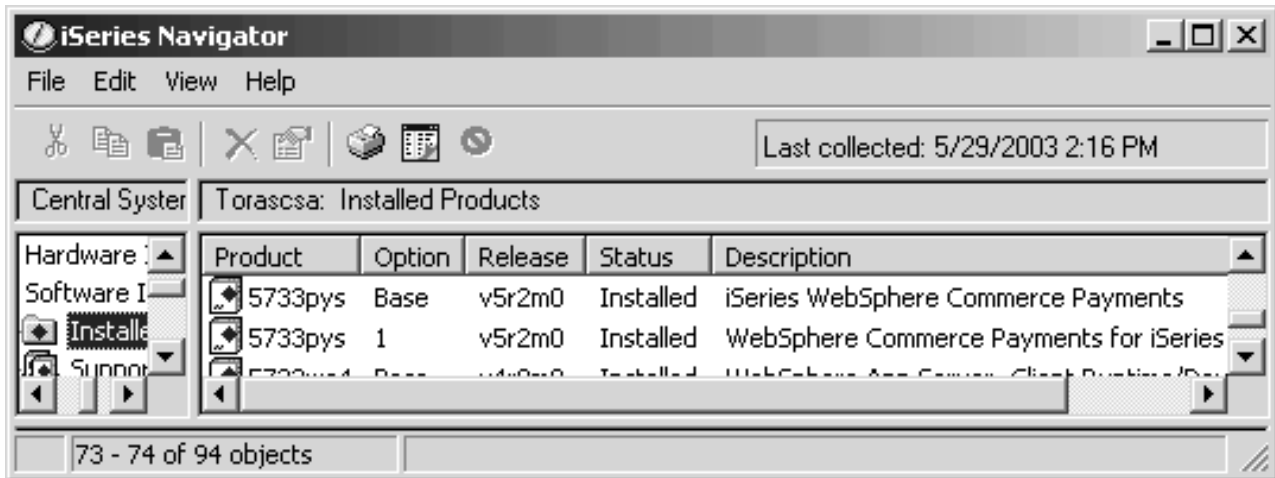
このログ・ファイルの最後尾までスクロールします。次のメッセージが表示されるはずですが (次のメッセージは表示の関係上、いくつかの行に分割されています)。

```
CMN7704S: IBM WebSphere Commerce Installer has successfully copied file
from %tmp%\InstallShield%\uninstall.qsh to
%qibm%\ProdData%\CommerceServer55%\uninst%\uninstall.qsh
```

```
CMN7720S: IBM WebSphere Commerce Installer internal Generic Catch Warning
caught: COMMAND ENDED NORMALLY WITH EXIT STATUS 0.
/QIBM/ProdData/CommerceServer55/bin/iSeriesFileAuth.sh
```

WebSphere Commerce Payments のインストール

標準インストールおよびいくつかのコンポーネントをカスタム・インストールする場合は、WebSphere Commerce Payments 製品は iSeries システム上にインストールされます。iSeries ナビゲーターを使用して、この製品がインストールされているかを確認できます。iSeries ナビゲーターへのアクセスに関する詳細は、22 ページの『標準インストールの検証』を参照してください。iSeries ナビゲーターには以下と同様の画面が表示されます。



次のステップ

インストールの検証が完了したら、35 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』の解説に従って、WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments のインスタンスの作成に進んでください。

第 3 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

必須のソフトウェアをすべてインストールし終わったら、WebSphere Commerce インスタンスと WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成することができます。これらのインスタンスは、構成マネージャーを使用して作成することができます。

第 3 部は、次の章で構成されています。

- 37 ページの『第 7 章 構成マネージャーを使用したインスタンスの作成または変更の前に』
- 43 ページの『第 8 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成』
- 47 ページの『第 9 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』

第 7 章 構成マネージャーを使用したインスタンスの作成または変更の前に

構成マネージャー・サーバーの開始や、構成マネージャーを使用したインスタンスの作成または修正の前には、次のようにします。

1. README ファイルに記載されているすべてのフィックスをインストールしたことを確認します。README ファイルの詳細は、8 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。
2. 構成マネージャーの開始のための前提条件が満たされていることを確認します。前提条件は、38 ページの『構成マネージャーの前提条件』に一覧で示されています。
3. 40 ページの『構成マネージャーの開始』の説明に従って、構成マネージャーを開始します。

重要

「商取引 (Commerce)」関連のプロパティと同様に、以下の Web サーバー・プロパティは、構成マネージャーの GUI (Web サーバーの GUI や WebSphere Application Server 管理コンソールではない) を介して修正しなければなりません。

- SSL (使用可能化または使用不可)
- Web サーバー・インスタンス名またはポート番号
- SSL ポート番号
- システムの IP アドレス (Payment Server のホスト)

そうすれば、Web サーバーの構成ファイルだけでなくすべての構成ファイルが、正しい情報に合わせて正しく更新されることになります。

構成マネージャー・クライアントのインストール

「構成マネージャー」を使用して WebSphere Commerce インスタンスを作成または変更するには、事前に WindowsPC 上に構成マネージャーをインストールしておく必要があります。

注: 構成マネージャー・クライアント・コードのインストールに使用する Windows 2000 マシンに Service Pack 3 がインストールされていることを確認します。

次のようにして、構成マネージャー・クライアントをインストールします。

1. リモート Windows システムの CD-ROM ドライブに WebSphere Commerce CD 1 を挿入します。
2. CD-ROM ドライブにナビゲートして、iSeriesClient.bat をダブルクリックして InstallShield ウィザードを開始します。
3. インストール言語を選択してから、「OK」をクリックします。

4. ウェルカム画面が表示されるので、「次へ」をクリックします。
5. 使用許諾契約書に目を通してください。使用許諾契約書に同意する場合は、条件の受諾を選択して、「次へ」をクリックします。
6. 必要に応じて、デフォルト宛先パス
(C:\Program Files\WebSphere\CommerceServer55) を選択するか、または「ブラウズ」を使用して別の宛先パスを選択します。宛先パスの選択が完了したら、「次へ」をクリックして先に進みます。
7. インストールの選択内容を確認してから、「次へ」をクリックします。(選択内容を変更するには、「戻る」を選択します。)
8. インストールが開始します。完了のパーセントを示すウィンドウが、画面下部隅に示されます。
9. 「InstallShield ウィザード」パネルの「次へ」を選択して先に進みます。
10. 「インストール完了」パネルから、WebSphere Commerce に関するさらに詳しい情報にアクセスするか、または「次へ」をクリックします。
11. インストールを完了するには、Windowsシステムを再始動する必要があります。今すぐ再始動するためのボタンか、後で再始動するためのボタンをクリックして、「終了」をクリックします。

注: 本書のこの後の項では、構成マネージャー・クライアント・コードのインストール先の Windows PC のディレクトリは、`cfgmgr_installdir` と示されています。

構成マネージャーの前提条件

WebSphere Commerce 構成マネージャーを始動する前に、以下を完了してください。

- DDM サーバーが iSeries システムで稼働していることを確認します。このサーバーを始動するには、以下の OS/400 コマンドを実行します。

```
STRTCPSVR SERVER(*DDM)
```

リモート・データベースを使用したインスタンス作成の要件

*LOCAL 以外のリレーショナル・データベースを使用する場合は、データベースをリモート・アクセス用に設定する必要があります。

リモート・データベースを使用するよう iSeries システムを構成するには、以下のようになります。

1. 以下のいずれかの方法で、リモート iSeries システム上の DDM TCP/IP サーバーを開始します。
 - リモート iSeries システムの iSeries ナビゲーターの「ネットワーク (Network)」オプション
 - 以下の OS/400 コマンド

```
STRTCPSVR SERVER(*DDM)
```

注: DDM サーバー・ジョブが iSeries で実行されているかどうかを確認するには、サブシステム QSYSWRK にジョブ QRWTLSTN があるかどうかを調べます。

- WebSphere Commerce 5.5 がインストールされている iSeries システムで WRKRDBDIRE コマンドを使用して、インスタンスのスキーマを作成するリモート・データベースのエントリーが存在することを確認します。
- WebSphere Commerce がインストールされている iSeries システムで、以下のコマンドを 1 行で実行します。

```
RUNJAVA CLASS(com.ibm.db2.jdbc.app.DB2PackageCreator)
  PARM('database_name' 'user' 'password')
```

database_name はインスタンスのスキーマが作成されるデータベースの名前、*user* はリモート iSeries システム上で新しいオブジェクトを作成する権限を付与されているプロファイル、*password* は *user* のパスワードです。

注: コマンドを実行すると、Java のシェル画面が開きます。コマンドの完了後に、「Java program completed」というメッセージが表示されます。

- ユーザー・プロファイルをリモート iSeries システム上に作成します。ユーザー・プロファイルの名前は、作成する予定のインスタンス名と同じでなければなりません。WebSphere Commerce インスタンスのデフォルト言語として使用する予定の言語と一致するように、ユーザー・プロファイルの言語設定を構成します。

このユーザー・プロファイルのパスワードは、*LOCAL システムのパスワードと同じにしなければなりません。これは、データベースの構成時に、構成マネージャーの「インスタンス・ログオン・パスワード」フィールドに入力するパスワードです。

iSeries ユーザー・プロファイルの作成方法についての詳細は、116 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』を参照してください。

- リモート iSeries システムで作成したインスタンス・ユーザー・プロファイルが、QGPL ライブラリーの *SQLPKG オブジェクトに対する権限を持っているかどうかを、次のコマンドを 1 行で実行して確認します。

```
GRTOBJAUT OBJ(QGPL/*ALL) OBJTYPE(*SQLPKG) USER(instance_user_profile)
  AUT(*CHANGE)
```

インスタンスの作成時に、WebSphere パネルで「iSeries ツールボックス・ドライバーの使用」を選択することをお勧めします。

iSeries ユーザー・プロファイルの変更

DSPUSRPRF コマンドを使用して、SECOFR ユーザー・プロファイルのホーム・ディレクトリー (HOMEDIR) を判別します。HOMEDIR が存在していることを確認します。HOMEDIR が存在しなければ、OS/400 コマンド MKDIR を使用して作成します。

HOMEDIR には、SystemDefault.properties という名前のファイルが置かれていなければなりません。このファイルには 819 というタグが付けられており、ASCII データが入っています。このファイルは、ユーザー・プロファイルに一致した file.encoding プロパティーを指定する必要があります。file.encoding プロパティーは 1 行に指定し、中でスペースを使用してはなりません。また、大文字小文字の区別があります。このファイルがすでに存在する場合、**EDTF** コマンドを使用して、file.encoding プロパティーを以下の値のいずれかに設定してください。

- 日本語:

```
file.encoding=SJIS
```

- 韓国語:
file.encoding=KSC5601
- 中国語 (簡体字) :
file.encoding=Cp1381
- 中国語 (繁体字):
file.encoding=Cp950
- 他のすべての言語:
file.encoding=ISO8859_1

このファイルが存在しない場合、以下のコマンドのいずれかを使用して、ファイルを HOMEDIR にコピーする必要があります。

- 中国語 (簡体字) :
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/CommerceServer55/config/SystemDefault_CN.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
TOCCSID(819)
- 韓国語:
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/CommerceServer55/config/SystemDefault_KR.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
TOCCSID(819)
- 中国語 (繁体字):
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/CommerceServer55/config/SystemDefault_TW.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
TOCCSID(819)
- 日本語:
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/CommerceServer55/config/SystemDefault_JP.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
TOCCSID(819)
- 他のすべての言語:
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/CommerceServer55/config/SystemDefault.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
TOCCSID(819)

新しいファイルが作成されたら、正しい ASCII データが入っていることを確認します。

構成マネージャーの開始

iSeries で WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始するには、次のようにします。

1. 次のようにして、構成マネージャー・サーバーを始動します。
 - a. プロファイルが *SECOFR ユーザー・クラスをもっていることを確認し、さらに、英語に固有の設定を使用するか、またはインスタンス用のデフォルト言語として選んだ言語に合った設定を使用して、そのプロファイルがセットアップされていることを確認したうえで、iSeries マシンにログオンします。
 - b. 次のコマンドを入力して QShell セッションを開始します。

```
STRQSH
```

次に、その QShell セッションで次のようにします。

- 1) 次のコマンドを実行して、WebSphere Commerce サーバーの bin ディレクトリーに切り替えます。

```
cd WC_installdir/bin
```

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

- 2) 次のコマンドを実行して、構成マネージャー・サーバー・プログラムを開始します。

```
config_server.sh [-port server_port_number]
```

port server_port_number パラメーターはオプションです。このパラメーターを指定しないと、デフォルト・ポート 1099 が使用されます。構成マネージャー・サーバーは、そのポート番号を使用して listen します。

server_port_number を指定する場合、その値は 1024~65535 でなければならず、しかも現在 iSeries システム上で使用されている番号であってはなりません。

注: インスタンスの作成に使用する言語が 1 次言語と同じでないシステムの場合には、ユーザー・プロファイルのライブラリー・リストの中に QSYSlanguage_feature_number ライブラリーを追加する必要があります。追加しないと、プロファイルは QSYS の下でその探索を試みます。言語フィーチャー・ライブラリーを追加するには、EDTLIBL コマンドを使用します。

- c. システムで初めて構成マネージャーを実行したときには、次のようなメッセージが示されます。

```
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommerceServer55/lib/ConfigManager.JAR.  
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommercePayments/V55/wc.mpf.ear/lib/ibmjssc.JAR.  
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommerceServer55/lib/Utilities.JAR.  
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommerceServer55/lib/Enablement-BaseComponentsLogic.JAR.  
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommerceServer55/lib/jtopen.JAR.  
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommerceServer55/lib/xerces.JAR.  
Attaching Java program to /QIBM/ProdData/CommerceServer55/lib/sslite.ZIP.
```

- d. 以下のメッセージが表示されます。

```
Registry created.  
CMServer bound in registry.
```

次のステップに進んでください。

2. 次のようにして、構成マネージャー・クライアント・コードのインストール先の Windows マシン上の構成マネージャー・クライアントを開始します。

注: 構成マネージャー・クライアント・コードのインストール後に、Windows マシンが再始動したことを確認してください。

- a. 構成マネージャーのクライアント・マシンのコマンド・プロンプトを使用して、`cfgmgr_installdir/bin` ディレクトリーに移動します。
- b. 次のコマンドを実行して、構成マネージャー・クライアントを開始します。

```
configClient.bat -hostname iSeries_Host_name [-port server_port_number]
```

詳細は次のとおりです。

iSeries_Host_name

サーバーの完全修飾ホスト名です (名前はすべて大文字で指定してください)。

server_port_number

構成マネージャーが listen する対象の iSeries サーバー上のポートの番号です。この値を指定する必要があるのは、サーバーがデフォルト以外のポートを listen する場合だけです。ポート・パラメーターはオプションですが、config_server.sh コマンドで指定した場合は、このコマンドで指定する必要があります。

- c. 構成マネージャーにログインします。初期 ID は **webadmin**、初期パスワードは **webibm** です。構成マネージャーに初めてログインしたときには、パスワードを変更するよう指示されます。
- d. パスワードが受け入れられたら、「構成マネージャー」ウィンドウが開きます。
- e. 『次のステップ』に進んでください。

構成マネージャーの停止

構成マネージャーを終了するには、以下のようにします。

1. 構成マネージャーの GUI で、「コンソール」をクリックして「終了」をクリックします。
2. 「セキュリティ上の理由で Config Manager Server を停止します」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
3. 構成マネージャー・クライアントを開始した DOS ウィンドウを終了します。
4. 構成マネージャーを開始した iSeries システムで、QSHELL セッションを終了します。

次のステップ

以下の項に進んでください。

- 43 ページの『第 8 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成』
- 47 ページの『第 9 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』

第 8 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成

この章では、WebSphere Commerce インスタンスの作成方法について説明します。WebSphere Commerce インスタンスの修正に関する詳細は、90 ページの『WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更』を参照してください。

WebSphere Commerce インスタンスの作成時の考慮事項

デフォルトの WebSphere Application Server インスタンス内に WebSphere Commerce インスタンスを作成するようお勧めします。WebSphere Commerce インスタンスを作成するときは、必ず該当する「構成マネージャー」パネルに完全修飾のホスト名を指定してください。

WebSphere Commerce インスタンスを、デフォルト以外の WebSphere Application Server インスタンスに作成できます。このようなインスタンスを作成すると、ポートの競合が発生して、WebSphere Commerce インスタンスを始動できなくなる場合があります。WebSphere Commerce インスタンスの始動に問題があると、以下のようなメッセージが表示されます。

EJB6121: Application server did not start.

WebSphere Commerce インスタンスの始動を試みたときに何らかの問題が起きたら、使用しているインスタンスがデフォルトのインスタンスか、デフォルト以外の WebSphere Application Server インスタンスかに関係なく、121 ページの『付録 A. 確認済みの問題と制限事項』を参照してください。

同一の WebSphere Application Server インスタンスの下での作成であるかぎり、構成マネージャー GUI がオープンしたときに複数の WebSphere Commerce インスタンスを作成することができます。異なる WebSphere Application Server インスタンスの下に WebSphere Commerce インスタンスを作成する場合、事前に構成マネージャーをいったん停止してから再始動する必要があります。

注: 構成マネージャーのクライアント・コードは複数の Windows PC にインストールできますが、WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成は、どんな場合にも 1 台の PC からしか行えません。インスタンスを同時に 2 つ以上の PC から作成することは、サポートされていません。

新規の WebSphere Commerce インスタンスの作成

新規の WebSphere Commerce インスタンスを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。詳細は、40 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
2. **WebSphere Commerce** の下の *hostname* を拡張表示します。
3. 「**商取引 (Commerce)**」を拡張表示します。

4. 「インスタンス・リスト」をマウスの右ボタンでクリックします。
5. 表示されたポップアップ・メニューで、「インスタンスの作成」を選択します。「インスタンス作成ウィザード」が開始します。
6. 「インスタンス作成ウィザード」の処理を完了します。



インスタンス作成ウィザード内のパネルとフィールドの処理の完了方法に関するヘルプは、インスタンス作成ウィザード上の「ヘルプ」をクリックしてください。「ヘルプ」ボタンは、ウィザードの各パネルにあります。「ヘルプ」パネルは、サポートされるすべての WebSphere Commerce プラットフォームに適用されます。以下のアイコンで示される iSeries 固有のヘルプに従ってください。

400

7. すべてのパネルに必要な情報を入力し終わったら、「終了」ボタンが使用可能になります。「終了」をクリックすると、WebSphere Commerce インスタンスが作成されます。
インスタンスの作成にかかる時間は、システムの数値によって異なります。プロセスが完了すると、インスタンスの作成を開始したときに表示される進行状況表示バーに通知が示されます。
 8. インスタンスの作成が完了したら、要約を示したダイアログが表示されます。「OK」をクリックしてダイアログ・ウィンドウをクローズします。
 9. 「コンソール」と「終了」をクリックして、構成マネージャーを終了します。
 10. 「セキュリティ上の理由で、Config Manager Server を停止します」というメッセージが表示されます。「OK」をクリックして、構成マネージャーをクローズします。
 11. 構成マネージャー・クライアントを開始した DOS ウィンドウを終了します。
 12. 構成マネージャーを開始した iSeries システムで、QShell セッションを終了します。
- 『インスタンスの作成の検証』の説明に従って、WebSphere Commerce インスタンスの作成を検証します。

インスタンスの作成の検証

新規の WebSphere Commerce インスタンスに関する構成情報は、以下のファイルに保管されます。

```
WC_userdir/instances/instance_name/xml/instance_name.xml
```

ただし、WC_userdir は v ページの『パス変数』に一覧で示されています。また、instance_name は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

このファイルが存在することを確認してから、インスタンスの作成中に作成されたログ・ファイルを検査します。

WebSphere Commerce インスタンスを作成すると、次のようなログ・ファイルが作成されます。

- auction.log
- createdb.log
- createdb.production.log
- GenPluginCfg.log
- messages.txt
- populatedb.err.log
- populatedb.log
- populatedb2.err.log
- populatedb2.log
- populatedbnl.err.log
- populatedbnl.log
- RESWCSID.txt
- Schema.log
- trace.txt
- WASConfig.log
- WASConfig.err.log

これらのファイルは、以下のディレクトリーに置かれています。

WC_userdir/instances/instance_name/logs

ただし、*WC_installdir* のデフォルト値は *v* ページの『パス変数』に一覧で示されています。また、*instance_name* は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

以下のログが空の場合は、インスタンス作成の一部であるデータベースへのデータの取り込みは正常に完了しています。

- populatedb.err.log
- populatedb2.err.log
- populatedbnl.err.log
- WASConfig.err.log

また、以下のログの内容を調べて、エラーが記載されていないことを確認します。

- createdb.log
- messages.txt

リモート・データベースの構成の完了

リモート・データベースを使用するようにインスタンスを構成したら、追加の構成を完了する必要があります。リモート・マシン上のインスタンスのユーザー・プロファイルを変更して、インスタンス・ライブラリーを現行ライブラリーに設定します。その変更を完了するには、次のコマンドを実行します。

```
CHGUSRPRF USRPRF(instance_name) CURLIB(instance_name)
```

instance_name は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

時間帯の設定

WebSphere Commerce インスタンスの作成を完了した後、WebSphere Commerce インスタンスの時間帯を設定する必要があります。

適切な時間帯がトレース・ファイル内に書き込まれていることを確認するには、`user.timezone` プロパティを設定します。プロパティの構文は以下のとおりです。

```
user.timezone=time_zone
```

ここで、`time_zone` は時間帯のコードです (たとえば、中部標準時の場合は `CST` です。その他の `time_zone` 値については、この項の最後に示されている Web サイトを参照してください)。

`instance_root/home` ディレクトリーにある `SystemDefault.properties` ファイルを編集します。デフォルトでは `instance_root` は、`WC_userdir/instances/instance_name` を指します。ただし `WC_userdir` は `v` ページの『パス変数』に定義します。また、`instance_name` は、構成時にインスタンスに指定した名前です。時間帯プロパティをこのように指定すると、WebSphere Application Server だけに影響を与えます。その他の詳細は、以下の Web サイトの『WebSphere Application Server for iSeries Information Center』のトピック『Setting the time zone』を参照してください。

```
http://publib.boulder.ibm.com/iseres/v1r1m0/websphere/ic2924/index.htm?info/rzaiz/50/trb/trctimez.htm
```

上記の行は、画面幅の制約のために 2 行に分かれていることに注意してください。

次のステップ

WebSphere Commerce インスタンスの構成が完了したら、WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成して先に進まなければなりません。WebSphere Commerce Payments の作成に関する解説は、47 ページの『第 9 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』に述べられています。

第 9 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

この章では、WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成方法について説明します。WebSphere Commerce Payments インスタンスの修正に関する詳細は、90 ページの『WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更』を参照してください。

特定の WebSphere Commerce Payments Cassette の使用方法についての詳細は、WebSphere Commerce Payments Cassette の補足を参照してください。WebSphere Commerce サンプル・ストアで WebSphere Commerce Payments Cassette を使用する場合は、「*WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド」を参照してください。

注: WebSphere Commerce Payments のポートを変更する場合は、WebSphere Application Server 管理コンソールを使用するのではなく、37 ページの『第 7 章 構成マネージャーを使用したインスタンスの作成または変更の前に』の説明に従って、WebSphere Commerce 構成マネージャーを使用してください。これで、すべてのプロパティとファイルが同じ情報で更新されるようになります。

WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成時の考慮事項

デフォルトの WebSphere Application Server インスタンス内に WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成するようお勧めします。WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成するときは、必ず該当する「構成マネージャー」パネルに完全修飾のホスト名を指定してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスを、デフォルト以外の WebSphere Application Server インスタンスに作成できます。このようなインスタンスを作成すると、ポートの競合が発生して、WebSphere Commerce Payments インスタンスを始動できなくなる場合があります。WebSphere Commerce Payments インスタンスの始動に問題があると、以下のようなメッセージが表示されます。

```
EJB6121: Application server did not start.
```

WebSphere Commerce Payments インスタンスの始動を試みたときに何らかの問題が起きたら、使用しているインスタンスがデフォルトのインスタンスか、デフォルト以外の WebSphere Application Server インスタンスかに関係なく、121 ページの『付録 A. 確認済みの問題と制限事項』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments のポートを変更するには、以下のようになります。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。詳細は、40 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
2. **WebSphere Commerce** の下の *hostname* を拡張表示します。
3. 「**Payments**」→「**インスタンス・リスト**」→「*payments_instance_name*」→「**インスタンス・プロパティ**」を拡張表示します。
4. 「**Web サーバー (Webserver)**」タブをクリックします。

5. 希望するポートを更新します。
6. 「適用」をクリックして、変更を適用します。

注: Payments のポートを変更する場合は、WebSphere Application Server 管理コンソールを使用するのではなく、37 ページの『第 7 章 構成マネージャーを使用したインスタンスの作成または変更の前に』の説明に従って、構成マネージャーを使用してください。これで、すべてのプロパティとファイルが同じ情報で更新されるようになります。

同一の WebSphere Application Server インスタンスの下での作成であるかぎり、WebSphere Commerce 構成マネージャーがオープンしたときに複数の WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成することができます。異なる WebSphere Application Server インスタンスの下に WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する場合、事前に構成マネージャーをいったん停止してから再始動する必要があります。

注: WebSphere Commerce 構成マネージャーのクライアントは複数の Windows システムにインストールできますが、WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成は、どんな場合にも 1 台の PC からしか行えません。インスタンスを同時に 2 つ以上のシステムから作成することは、サポートされていません。

新規の WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

新規の WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。詳細は、40 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
WebSphere Commerce Payments が WebSphere Commerce とは別のノード上にある場合は、WebSphere Commerce Payments ノード上の構成マネージャーを開始してください。
2. **WebSphere Commerce** の下の *hostname* を拡張表示します。
3. 「**Payments**」を拡張表示します。
4. 「**インスタンス・リスト**」をマウスの右ボタンでクリックします。
5. 表示されたポップアップ・メニューで、「**Payments インスタンスの作成**」を選択します。「Payments インスタンス作成ウィザード (Payments Instance Creation wizard)」が開始します。
6. Payments インスタンス作成ウィザードに情報を入力します。



Payments インスタンス作成ウィザード内のパネルとフィールドの処理の完了方法に関するヘルプは、インスタンス作成ウィザード上の「ヘルプ」をクリックしてください。「ヘルプ」ボタンは、ウィザードの各パネルにあります。「ヘルプ」パネルは、サポートされるすべての WebSphere Commerce プラットフォームに適用されます。以下のアイコンで示される iSeries 固有のヘルプに従ってください。

重要: WebSphere Commerce Payments インスタンス作成ウィザードを完了するときに、「**サイト管理者 ID (Site Admin ID)**」フィールドに入力する値が、WebSphere Commerce サイト管理者 ID であることを確認してください。WebSphere Commerce サイト管理者 ID は、WebSphere Commerce インスタンスの作成時に作成したもので、WebSphere Commerce インスタンス作成ウィザードの「**サイト管理者 ID (Site Admin ID)**」フィールドに入力した値です。

- すべてのパネルにすべての必要情報を入力し終わったら、「終了」ボタンが使用可能になります。「終了」をクリックすると、WebSphere Commerce Payments インスタンスが作成されます。

インスタンスの作成にかかる時間は、システムの数値によって異なります。プロセスが完了すると、インスタンスの作成を開始したときに表示される進行状況表示バーに通知が示されます。

- 「コンソール」と「終了」をクリックして、構成マネージャーを終了します。
- 「セキュリティ上の理由で Config Manager Server を停止します」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
- 構成マネージャー・クライアントを開始した DOS ウィンドウを終了します。
- 構成マネージャーを開始した iSeries システムで、QShell セッションを終了します。

『インスタンスの作成の検証』の説明に従って、WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成を検証します。

リモート・データベースの構成の完了

リモート・データベースを使用するように Payments インスタンスを構成したら、追加の構成を完了する必要があります。そのためには、リモート・マシン上のインスタンスのユーザー・プロファイルを変更して、インスタンス・ライブラリーを現行ライブラリーに設定します。その変更を完了するには、次のコマンドを実行します。

```
CHGUSRPRF USRPRF(payments_instance_name) CURLIB(payments_instance_name)
```

payments_instance_name は、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

インスタンスの作成の検証

新規の WebSphere Commerce Payments インスタンスに関する構成情報は、以下のファイルに保管されます。

```
WC_userdir/instances/payments_instance_name/xml/  
_payments_instance_name.xml
```

ただし、*WC_userdir* は *v* ページの『パス変数』に一覧で示されています。また、*payments_instance_name* は、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

このファイルが存在することを確認してから、インスタンスの作成中に作成されたログ・ファイルを検査します。

WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成すると、Configurator.1.log ファイルが *WC_userdir/instances* ディレクトリーに作成されます。 *WC_userdir* のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

Configurator.1.log ファイルが空の場合は、インスタンスの作成は正常に完了したということです。

次のステップ

WebSphere Commerce Payments インスタンスの構成が完了したら、51 ページの『第 4 部 最終ステップ』の解説を参考に、先に進むことができます。

リモート Web サーバーを使用している場合、53 ページの『第 10 章 インスタンス作成後の必須タスク』の説明に従ってください。

第 4 部 最終ステップ

第 4 部では、WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成後に実行する必要がある必須タスクを概略しています。ここではまた、実行するのが望ましいその他のタスクについても述べています。

第 10 章 インスタンス作成後の必須タスク

WebSphere Commerce トポグラフィーに応じて、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments のインスタンスを作成した後、以下のセクションのいずれかのタスクを実行します。

- 『Web サーバー作成後のタスク』
- 『ローカル Web サーバーのインスタンス作成後のタスク』
- 『リモート Web サーバーのインスタンス作成後のタスク』

Web サーバー作成後のタスク

WebSphere Commerce インスタンスの HTTP サーバーで Secure Sockets Layer (SSL) を使用可能にする方法について、「*WebSphere Commerce セキュリティー・ガイド*」を確認してください。SSL を使用可能にしないと、WebSphere Commerce インスタンスは正しく始動しません。

iSeries 上の Digital Certificate Manager (DCM) の HTTP サーバーに証明書を割り当てる必要があります。証明書を割り当てないと、WebSphere Commerce インスタンスは正しく作動しません。詳しくは、iSeries Information Center (<http://publib.boulder.ibm.com/html/as400/infocenter.html>) を参照してください。サイトにアクセスしたら、オペレーティング・システムのバージョンと言語を選択します。トピック「SSL 通信セッションのための公開インターネット証明書の管理」を検索してください。

ローカル Web サーバーのインスタンス作成後のタスク

Web サーバーが WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments と同じノードにインストールされている場合、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments のインスタンスを作成した後、Web サーバーを停止し、再始動する必要があります。

リモート Web サーバーのインスタンス作成後のタスク

WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments とは別のノードに Web サーバーがインストールされている場合、WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments のインスタンスの作成後に以下のようにしてください。

1. plugin-cfg.xml を WebSphere Commerce ノードから、Web サーバー・ノードにコピーします。詳細は、103 ページの『Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー』を参照してください。
2. WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments がそれぞれ別のノードにインストールされている場合、WebSphere Commerce Payments ノード上の plugin-cfg.xml ファイルの内容を、Web サーバー・ノード上の plugin-cfg.xml にマージします。詳細は、103 ページの『WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ』を参照してください。

3. このディレクトリが存在しない場合、 WebSphere Commerce ノード上の `WAS_installdir` ディレクトリに一致するディレクトリを Web サーバー・ノード上に作成します。
4. 以下のディレクトリを WebSphere Commerce ノードから、Web サーバー・ノードにコピーします。

`WAS_userdir/installedApps/cell_name/WC_instance_name.ear`

変数は以下のように定義されています。

WAS_userdir

この変数のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

cell_name

これは、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments のインストール先のマシンの短いホスト名です。

instance_name

これは、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

Web サーバー・ノードと WebSphere Commerce ノード上の絶対パスは同じであることを確認してください。

重要

Web サーバー上の `WC_Commerce_instance_name.ear` ディレクトリから JSP および JAR ファイルをすべて除去することをお勧めします。Web サーバー上の `WC_Commerce_instance_name.ear` ディレクトリには、静的内容のファイルのみが入ります。

5. WebSphere Application Server プラグインのパスが、Web サーバー・ノード上の `httpd.conf` ファイルに正しく示されていることを確認します。

パスを調べるには、`httpd.conf` ファイルをテキスト・エディターでオープンして、以下を探します。

WebSpherePluginConfig

このエントリには、Web サーバー・ノード上の `plugin-cfg.xml` ファイルの絶対パスが入っているはずですが、パスが誤っている場合、パスを変更してから `httpd.conf` ファイルを保存して、Web サーバーを再始動します。

6. Web サーバーを停止してから、再始動します。

第 11 章 インスタンス作成後の推奨タスク

インスタンス作成後の必須タスクを実行し終わったら、以下のタスクを実行して、WebSphere Commerce のインストールと構成を先に進めることができます。

WebSphere Commerce インストールのセキュリティの検討

セキュリティは、実働 WebSphere Commerce サイトの重要コンポーネントです。Secure Sockets Layer (SSL)、WebSphere Application Server のセキュリティの使用可能化、およびインストールに応じたシングル・サインオンおよびその他のセキュリティ・オプションの構成に関する詳細は、「*WebSphere Commerce セキュリティ・ガイド*」を参照してください。この資料は、WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーから入手することができます。詳しくは、131 ページの『*WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー*』を参照してください。

WebSphere Commerce サンプル・ストアの発行

WebSphere Commerce には、WebSphere Commerce において各種機能を例示するいくつかのサンプル・ストアが用意されています。WebSphere Commerce サンプル・ストアは、WebSphere Commerce を習得するために使用したり、カスタマイズ・ストアの開発のベースとして使用したりすることができます。

WebSphere Commerce サンプル・ストアの発行に関する詳細は、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプの「ストア・アーカイブの発行」の項を参照してください。

WebSphere Commerce でのストアの開発の詳細は、「*WebSphere Commerce ストア開発者ガイド*」を参照してください。この資料は、WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーから入手することができます。詳しくは、131 ページの『*WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー*』を参照してください。

注: WebSphere Commerce 5.5 では、サンプル・ストアの発行は一部、WebSphere Commerce 管理コンソールによって行われます。

WebSphere Commerce のその他の付属ソフトウェアのインストール

WebSphere Commerce には、WebSphere Commerce の拡張と機能の追加のためのいくつかの追加のソフトウェア・パッケージが備えられています。WebSphere Commerce のその他の付属ソフトウェアに関する詳細は、「*WebSphere Commerce 追加ソフトウェア・ガイド*」を参照してください。この資料は、WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーから入手することができます。詳しくは、131 ページの『*WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー*』を参照してください。

拡張構成タスクの実行

WebSphere Commerce の拡張構成には、連合、クラスター化、および複数インスタンスが関係します。拡張構成については、57 ページの『*第 5 部 拡張構成オプション*』に説明されています。

第 5 部 拡張構成オプション

第 5 部では、以下の WebSphere Commerce のオプションの拡張構成について解説します。

- 59 ページの『第 12 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』
- 65 ページの『第 13 章 WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments の連合』
- 71 ページの『第 14 章 WebSphere Commerce のクラスター化』

第 12 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

WebSphere Commerce は、複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成をサポートしています。つまり、WebSphere Commerce では、各 WebSphere Commerce インスタンスごとに別々のホスト名を使用することで、複数の WebSphere Commerce インスタンスを同時に実行することができます。この場合、顧客は *host1.domain* および *host2.domain* にアクセスできます。この方法は、仮想ホスト名 の使用を伴います。

WebSphere Commerce Payments を使用して WebSphere Commerce で支払いを処理する場合、WebSphere Commerce の各インスタンスは、その独自の WebSphere Commerce Payments インスタンスを必要とします。作成するすべての新規 WebSphere Commerce インスタンスごとに、新規 WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する必要もあります。

この章で説明するように、複数インスタンスの主な使用目的は、情報を共有しない異なる実在の WebSphere Commerce を設けることにあります。インスタンスはそれぞれ固有になります。同じ WebSphere Commerce インスタンスの実在をクローンによって複数設けるには、71 ページの『第 14 章 WebSphere Commerce のクラスター化』を参照してください。

複数インスタンスは WebSphere Commerce コンポーネントのどの構成でも作成できますが、この章の情報は、WebSphere Commerce インスタンスとその関連 WebSphere Commerce Payments インスタンスが同じノードに存在することを前提としています。リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスを使用する複数の WebSphere Commerce インスタンスについては説明されていません。加えて、この章の指示は、Web サーバーが WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments と同じノードに存在することも前提とします。

また、この章の情報は、WebSphere Commerce インスタンスと WebSphere Commerce Payments インスタンスがすでに存在することも前提とします。この章の説明は、追加の WebSphere Commerce インスタンス、および追加の WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成に焦点を当てています。

この章では、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments の複数インスタンスの作成について説明する際、仮想ホスト名を使用する以下の変数が使用されます。

	元のインスタンス	新規インスタンス
WebSphere Commerce インスタンス名	<i>WC_instance_1</i>	<i>WC_instance_2</i>
WebSphere Commerce Payments インスタンス名	<i>Payments_instance_1</i>	<i>Payments_instance_2</i>
IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	yyy.yyy.yyy.yyy
ホスト名	<i>host1</i>	<i>host2</i>

	元のインスタンス	新規インスタンス
ドメイン・ネーム	<i>domain</i>	<i>domain</i>
完全修飾ホスト名	<i>host1.domain</i>	<i>host2.domain</i>
WebSphere Commerce スキーマ名	<i>WC_schema1</i>	<i>WC_schema2</i>
WebSphere Commerce Payments スキーマ名	<i>Payments_schema1</i>	<i>Payments_schema2</i>

これらの変数は 1 番目と 2 番目のインスタンスのパラメーター値を表しており、これらの値がインスタンス間で固有値となる場所、または共通値となる場所を示すことを目的としています。

通常は操作可能な既存の WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスがあるので、追加のインスタンスを作成するだけで済みます。既存のインスタンスがある場合、他のインスタンスを追加するためにそのインスタンスのパラメーター値を変更する必要はありません。ただし判断次第で、マルチインスタンス環境の編成を改善するために、最初のインスタンスのパラメーターの一部を変更することもできます。

前提条件

仮想ホスト名を使用する WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments の複数インスタンスを作成する各ノードが、以下の要件を満たすようにしてください。

- WebSphere Commerce インスタンスごとに独自のホスト名が必要です。このホスト名は、関連 WebSphere Commerce Payments インスタンスによっても使用されます。
- 各インスタンスのホスト名ごとに独自の IP アドレスが必要です。IP アドレスはネットワーク上で有効であり、関連するホスト名が DNS サーバーに存在しなければなりません。IP アドレスは、元のインスタンスの IP アドレスと同じ VLAN に存在する必要もあります。



- 1 つのインスタンスのノード IP アドレスとホスト名を使用することもできます。この場合、2 つのインスタンスに対しちょうど 2 つの IP アドレスが必要です。
- WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの各セットごとに独自のホスト名が必要です。

注: IBM HTTP Server では、ホスト名に下線文字 (_) を使用できません。

マシンに対する別の IP アドレスの追加についての詳細は、61 ページの『iSeries システムに別の IP アドレスを追加する』を参照してください。

- 各インスタンスのホスト名は、完全に別々の IP アドレスに対し解決されなければなりません。たとえば、WebSphere Commerce 構成マネージャーを実行して複数のインスタンスを作成できることを確認するために、各インスタンスごとにホスト名と IP アドレスの両方に対して iSeries セッションから nslookup コマンドを実行することができます。ホスト名は正しい IP アドレスに対し解決して、IP アドレスは正しいホスト名に対し解決するはずですが。

```
nslookup 'host1.domain'  
nslookup 'xxx.xxx.xxx.xxx'
```

```
nslookup 'host2.domain'  
nslookup 'yyy.yyy.yyy.yyy'
```

- システム上の追加 WebSphere Commerce インスタンスおよびその関連 WebSphere Commerce Payments インスタンスごとにそれぞれ、システムのメモリーを 1GB から 1.5GB 単位で増やしてください。

iSeries システムに別の IP アドレスを追加する

iSeries マシンに別の IP アドレスを追加してから、そのアドレスを開始するには、iSeries セッションに次のコマンドを入力します。

```
ADDTCPIFC INTNETADR('intnetadr') LIND(lind) SUBNETMASK('subnetmask')  
STRCTCPIFC INTNETADR('intnetadr')
```

詳細は次のとおりです。

- *intnetadr* は新規の IP アドレスです。
- *lind* は、新規のインターフェースに関連した回線記述名です。この回線記述は、IP インターフェースの追加の前に定義しておかなければなりません。
- *subnetmask* はこの IP アドレスのサブネット・マスクです。

たとえば、アドレス 129.42.16.99 を追加してから、このアドレスを開始したい場合は、次のコマンドを入力します。

```
ADDTCPIFC INTNETADR('129.42.16.99') LIND(LANETH) SUBNETMASK('255.255.255.0')  
STRCTCPIFC INTNETADR('129.42.16.99')
```

ADDTCPIFC や STRCTCPIFC などの TCP/IP コマンドに関する詳細は、iSeries 製品の資料を参照してください。

複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成

最初の WebSphere Commerce インスタンスをすでに作成したと想定した場合、43 ページの『第 8 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成』の指示に従って、必要な追加のインスタンスを 1 つずつ作成できます。以下の表で、既存のインスタンスは**元のインスタンス**で表され、新規のインスタンスは**新規インスタンス**で表されます。既存のインスタンスの値を変更する必要はありません。

複数の WebSphere Commerce インスタンスは同じ WebSphere Commerce 構成マネージャー・セッションに作成することができます。ただしそれは、インスタンスが同じ WebSphere Application Server インスタンスに作成される場合に限りです。別の WebSphere Application Server インスタンスに WebSphere Commerce インスタンスを作成するには、WebSphere Commerce 構成マネージャーを停止した後、再始動する必要があります。

以下の表は、新しいインスタンスの変更済みデフォルト値をリストしています。これらの値を、インスタンスのために使用したい実際の値で置き換えてください。

構成マネージャーのフィールド	元のインスタンス	新規インスタンス
インスタンス - インスタンス名	WC_instance_1	WC_instance_2

構成マネージャーのフィールド	元のインスタンス	新規インスタンス
インスタンス - インスタンスのルート・パス	<i>WC_userdir/instances/ WC_instance_1</i>	<i>WC_userdir/instances/ WC_instance_2</i>
スキーマ - 名前	<i>WC_schema1</i>	<i>WC_schema2</i>
Web サーバー - ホスト名	<i>host1.domain</i>	<i>host2.domain</i>
Web サーバー - 1 次文書ルート	<i>WC_userdir/instances/ instance_name/web</i>	<i>WC_userdir/instances/ instance_name/web</i>
WebSphere Commerce Payments - ホスト名	<i>host1.domain.com</i>	<i>host2.domain.com</i>

WC_userdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧されています。

44 ページの『インスタンスの作成の検証』の説明に従って、インスタンスの作成を検証します。

WebSphere Commerce Payments を使用して WebSphere Commerce で支払いを処理する場合、各追加 WebSphere Commerce インスタンスごとに WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する必要があります。

複数の WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

最初の WebSphere Commerce Payments インスタンスをすでに作成したと想定した場合、47 ページの『第 9 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』の指示に従って、必要な追加のインスタンスを 1 つずつ作成できます。以下の表で、既存のインスタンスは**元のインスタンス**で表され、新規のインスタンスは**新規インスタンス**で表されます。既存のインスタンスの値を変更する必要はありません。

複数の WebSphere Commerce Payments インスタンスは同じ WebSphere Commerce 構成マネージャー・セッションに作成することができます。ただしそれは、インスタンスが同じ WebSphere Application Server インスタンスに作成される場合に限りです。別の WebSphere Application Server インスタンスに WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成するには、WebSphere Commerce 構成マネージャーを停止した後、再始動する必要があります。

以下の表は、新しいインスタンスの変更済みデフォルト値をリストしています。これらの値を、インスタンスのために使用したい実際の値で置き換えてください。

構成マネージャーのフィールド	元のインスタンス	新規インスタンス
インスタンス - インスタンス名	<i>WC_instance_1</i>	<i>WC_instance_2</i>
スキーマ - 名前	<i>Payments_schema1</i>	<i>Payments_schema2</i>
Web サーバー - ホスト名	<i>host1.domain</i>	<i>host2.domain</i>
WebSphere Commerce - ホスト名	<i>host1.domain</i>	<i>host2.domain</i>

49 ページの『インスタンスの作成の検証』の説明に従って、インスタンスの作成を検証します。

追加の WebSphere Commerce Payments インスタンスを検証した後、インスタンスをテストします。

複数インスタンスのテスト

元のインスタンスと新規インスタンスをテストするには、以下のようにします。

1. すべての WebSphere Commerce インスタンスを開始する。詳細は、87 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始または停止』を参照してください。
2. すべての WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始する。詳細は、89 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始または停止』を参照してください。
3. 以下の URL をテストする。

元のインスタンス	新規インスタンス
<ul style="list-style-type: none">• <code>http://host1.domain</code>• <code>http://host1.domain:5432/webapp/PaymentManager</code>• <code>https://host1.domain</code>• <code>https://host1.domain:5433/webapp/PaymentManager</code>• <code>https://host1.domain:8000/accelerator</code>• <code>https://host1.domain:8002/adminconsole</code>• <code>https://host1.domain:8004/orgadminconsole</code>	<ul style="list-style-type: none">• <code>http://host2.domain</code>• <code>https://host2.domain:5432/webapp/PaymentManager</code>• <code>https://host2.domain</code>• <code>https://host2.domain:5433/webapp/PaymentManager</code>• <code>https://host2.domain:8000/accelerator</code>• <code>https://host2.domain:8002/adminconsole</code>• <code>https://host2.domain:8004/orgadminconsole</code>

第 13 章 WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments の連合

WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments は、WebSphere Application Server の基本製品と一緒にインストールされます。WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments はどちらも、WebSphere Application Server の基本ノードとみなすことができます。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントは、アプリケーション・サーバーを WebSphere Application Server 管理コンソールから開始するためのメカニズムを備えています。そのメカニズムを、アプリケーション・サーバー・ノードの連合 と呼びます。アプリケーション・サーバー・ノードは、セルに連合されますが、セル内のすべてのアプリケーション・サーバーは、デプロイメント・マネージャーによって管理されます。デプロイメント・マネージャーは、アプリケーション・サーバーも兼任します。セルを、デプロイメント・マネージャー・セル と呼ぶこともできます。

WebSphere Commerce ノードと WebSphere Commerce Payments ノードを 1 つのデプロイメント・マネージャー・セルに連合すれば、WebSphere Application Server 管理コンソールから、この両方のアプリケーション・サーバーを開始、停止、および管理することができます。WebSphere Application Server 管理コンソールは、ブラウザ・ベースのアプリケーションであるため、これには、Web ブラウザーを持ったセルと同じネットワーク上のどのマシンからでもアクセスすることができます。WebSphere Application Server 管理コンソールでの Web ブラウザーの要件の詳細は、WebSphere Application Server の資料を参照してください。

重要

WebSphere Commerce を連合する前に、WebSphere Application Server 管理構成をバックアップするよう強くお勧めします。管理構成をバックアップしておくこと、連合の処理中に連合に失敗した場合でも、元の構成を復元できます。詳細は、以下の URL でアクセス可能な WebSphere Application Server InfoCenter の『Backing up and restoring administrative configurations』を参照してください。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

WebSphere Commerce の連合

WebSphere Commerce をデプロイメント・マネージャー・セルに連合するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、データベース、および Web サーバーのインストール先とは別のマシンに WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント製品をインストールします。今後このマシンは、デプロイメント・マネージャーに対するホストになります。

デプロイメント・マネージャーに対するホストとなるのは、1つのシステムだけです。そのシステムは、アプリケーション・サーバーへの連合時に、その管理下のセルを拡張します。デプロイメント・マネージャーと同じマシン上に他のアプリケーション・サーバーをインストールすることができますが、この2つの製品をホスティングするだけの容量を備えたマシンでない限り、通常はそのようなインストールは行いません。デプロイメント・マネージャーは、中央管理のマネージャーだからです。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストールに関する解説は、「*IBM WebSphere Application Server Network Deployment Getting started*」に述べられています。この資料は、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント CD の docs ディレクトリーに PDF ファイルで収められています。

重要: WebSphere Commerce README ファイルに説明されている WebSphere Application Server フィックスを、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストールに必ず適用してください。

README ファイルの詳細は、8ページの『README ファイルの確認』を参照してください。

これらのフィックスを適用しないと、連合後に WebSphere Commerce が正しく機能しません。

2. WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのマシン上で、デプロイメント・マネージャーを開始します。詳しくは、95ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
3. 次のコマンドを実行して、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連合します。

```
WAS_installdir/bin/addNode
  deployment_manager_machine_name deployment_manager_port [-includeapps]
  -instance WAS_instance_name
```

表示上の制限のためにコマンドは複数行に分けて示されていますが、このコマンドは1行に入力してください。

変数とパラメーターは、以下のように定義されています。

WAS_installdir

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

deployment_manager_machine_name

これは、デプロイメント・マネージャー・マシンの完全修飾ドメイン・ネームです。

deployment_manager_port

これは、デプロイメント・マネージャーが listen する対象のポートです。デプロイメント・マネージャーのデフォルト・ポートは 8879 です。

-includeapps

このパラメーターはオプションです。

以下の 1 つ以上の条件が当てはまる場合は、このパラメーターを指定します。

- デプロイメント・マネージャー・セルに組み込む WebSphere Commerce ノード上に WebSphere Commerce 以外のアプリケーションがある。
- WebSphere Commerce インスタンスが WebSphere Commerce ノード上に存在する。WebSphere Commerce インスタンスを作成していない場合は、このパラメーターは不要です。

WAS_instance_name

これは、アプリケーション・サーバーの開始場所の WebSphere Application Server インスタンスの名前です。デフォルトの WebSphere Application Server インスタンスは default です。

4. WebSphere Commerce インスタンスが入っている WebSphere Commerce ノードを連合してあり、これらの WebSphere Commerce インスタンスをデプロイメント・マネージャー・セルに連合する場合は、ノード上の WebSphere Commerce インスタンスごとに、WebSphere Commerce マシン上で次のコマンドを実行して、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーに必要な仮想ホストを作成します。

WC_installdir/bin/createVirtualHosts.sh instance_name

instance_name は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

注: このステップを実行する必要があるのは、連合するノード上に WebSphere Commerce インスタンスが存在する場合だけです — インスタンスは、セルに連合する 1 つのノードだけに含まれている必要があります。

追加の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに追加する場合や、ノード上に WebSphere Commerce インスタンスを作成していない場合は、このステップは不要です。

WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルに連合し終わったら、97 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのもとでのアプリケーション・サーバーの開始または停止』の説明に従って WebSphere Commerce を開始および停止することができます。

WebSphere Commerce Payments の連合

WebSphere Commerce Payments をデプロイメント・マネージャー・セルに連合するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、データベース、および Web サーバーのインストール先とは別のマシンに WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント製品をまだインストールしていなければ、ここでインストールします。

デプロイメント・マネージャーに対するホストとなるのは、1つのシステムだけです。そのシステムは、アプリケーション・サーバーへの連合時に、その管理下のセルを拡張します。デプロイメント・マネージャーと同じマシン上に他のアプリケーション・サーバーをインストールすることができますが、この2つの製品をホスティングするだけの容量を備えたマシンでない限り、通常はそのようなインストールは行いません。デプロイメント・マネージャーは、中央管理のマネージャーだからです。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストールに関する解説は、「*IBM WebSphere Application Server Network Deployment Getting started*」に述べられています。この資料は、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント CD の docs ディレクトリーに PDF ファイルで収められています。

重要: WebSphere Commerce README ファイルに説明されている WebSphere Application Server フィックスを、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのインストールに必ず適用してください。

README ファイルの詳細は、8ページの『README ファイルの確認』を参照してください。

これらのフィックスを適用しないと、連合後に WebSphere Commerce Payments が正しく機能しません。

2. WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのノードで、デプロイメント・マネージャー・アプリケーション・サーバーを開始します。詳しくは、95ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
3. 次のコマンドを実行して、WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連合します。

```
WAS_installdir/bin/addNode
  deployment_manager_machine_name deployment_manager_port [-includeapps]
  -instance WAS_instance_name
```

表示上の制限のためにコマンドは複数行に分けて示されていますが、このコマンドは1行に入力してください。

変数とパラメーターは、以下のように定義されています。

WAS_installdir

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

deployment_manager_machine_name

これは、デプロイメント・マネージャー・マシンの完全修飾ドメイン・ネームです。

deployment_manager_port

これは、デプロイメント・マネージャーが listen する対象のポートです。デプロイメント・マネージャーのデフォルト・ポートは 8879 です。

-includeapps

このパラメーターはオプションです。

以下の 1 つ以上の条件が当てはまる場合は、このパラメーターを指定します。

- デプロイメント・マネージャー・セルに組み込む WebSphere Commerce ノード上に WebSphere Commerce Payments 以外のアプリケーションがある。
- WebSphere Commerce Payments インスタンスが WebSphere Commerce Payments ノード上に存在する。WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成していない場合は、このパラメーターは不要です。

WAS_instance_name

これは、アプリケーション・サーバーの開始場所の WebSphere Application Server インスタンスの名前です。デフォルトの WebSphere Application Server インスタンスは default です。

4. WebSphere Commerce Payments インスタンスが入っている WebSphere Commerce Payments ノードを連合してある場合は、WebSphere Commerce Payments マシン上で次のコマンドを実行して、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーに必要な仮想ホストを作成します。

```
Payments_installdir/bin/createPaymentsVirtualHost.sh payments_instance_name
```

payments_instance_name は、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。デフォルトの WebSphere Commerce Payments インスタンス名は wpm です。

Payments_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

ノード上に WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成していない場合は、このステップは不要です。

WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルに連合し終わったら、97 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのもとでのアプリケーション・サーバーの開始または停止』の説明に従って WebSphere Commerce Payments を開始および停止することができます。

セルからのアプリケーション・サーバー・ノードの除去

アプリケーション・サーバー・ノードが、ノードのメンバーである場合、そのアプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルから除去するには、先にクラスターからそのアプリケーション・サーバー・ノードを除去する必要があります。

アプリケーション・サーバー・ノードをデプロイメント・マネージャー・セルから除去するには、次のようにします。

1. セル内の各ノードで、ノード・エージェントを開始します。詳しくは、95 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
2. WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのマシン上で、デプロイメント・マネージャーを開始します。詳しくは、95 ページの『WebSphere

Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。

3. アプリケーション・サーバー・ノード・マシンで、以下のコマンドを実行します。

```
WAS_installdir/bin/removeNode
```

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

`removeNode` コマンドだけが、ノード固有の構成をセルから除去します。このコマンドは、`addNode` コマンドの処理結果としてインストールされたアプリケーションをアンインストールすることはありません。そのようなアプリケーションは、インストール後、**Network Deployment** セル内の別のサーバー上でデプロイされている可能性があるからです。

`removeNode` コマンドの詳細は、**WebSphere Application Server** の資料を参照してください。

第 14 章 WebSphere Commerce のクラスター化

この章では、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのクラスター化メカニズムの使用方法を示します。

WebSphere Commerce は、WebSphere Commerce Server のインストール先として選ばれた各ノードに基本 WebSphere Application Server 製品をインストールします。WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント製品は、WebSphere Commerce のインストール後に別のマシンにインストールする必要があります。

この章では、WebSphere Commerce での以下のタイプのクラスター化について述べています。

- 73 ページの『水平複製のクラスター化』
- 74 ページの『垂直複製のクラスター化』

WebSphere Commerce Payments はクラスター化をサポートしないので、WebSphere Commerce のクラスター化の場合、クラスター内のどの WebSphere Commerce ノードでも、同じ WebSphere Commerce Payments インスタンスを使用しなければなりません。ただし、WebSphere Commerce クラスターと一緒に WebSphere Commerce Payments を管理する場合、67 ページの『WebSphere Commerce Payments の連合』の説明に従って、WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーを、WebSphere Commerce クラスターと同じデプロイメント・マネージャー・セルに連合することができます。

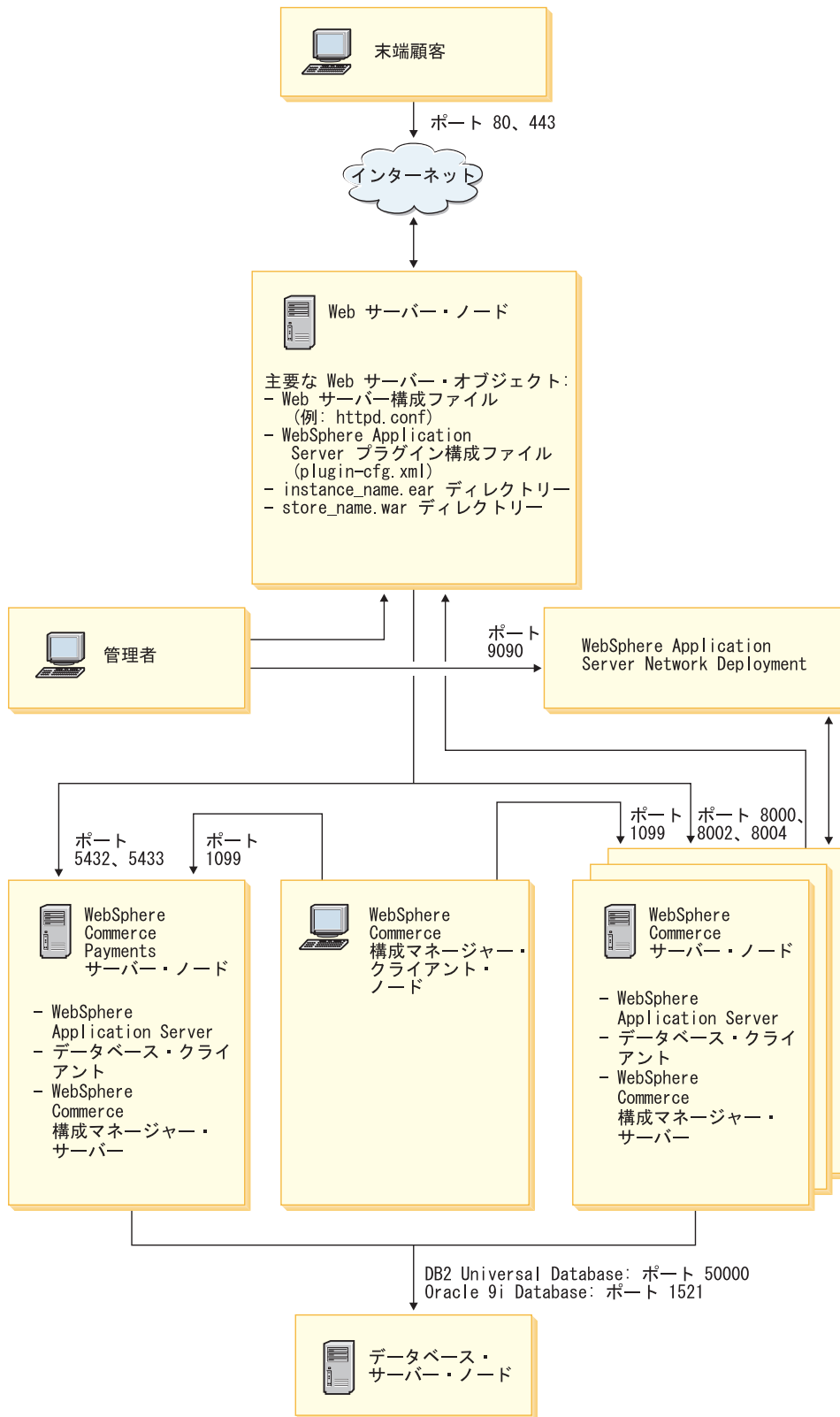
クラスター化の詳細は、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの資料を参照してください。

重要

WebSphere Commerce をクラスター化する前に、WebSphere Application Server 管理構成をバックアップするよう強くお勧めします。管理構成をバックアップしておくと、クラスター化の処理中にクラスター化に失敗した場合でも、元の構成を復元できます。詳細は、以下のアドレスの WebSphere Application Server InfoCenter の『Backing up and restoring administrative configurations』を参照してください。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

次のページの図は、WebSphere Commerce のカスタム 5 ノード・インストールでのクラスター化を示しています。



注: データベース・ノード上のデータベースに示されているポート番号は、@server iSeries ユーザーには適用されません。また、Oracle9i Databaseは、@server iSeries 上ではサポートされません。

図 8. クラスタ化されたカスタム 5 ノード・インストール

水平複製のクラスター化

水平複製を使用したクラスター化は、複数の物理マシン上のアプリケーション・サーバーのクラスター化を定義する伝統的な手法であり、これによって、1つのアプリケーションが1つのシステム・イメージを表しながら、複数のマシンにまたがって存在することができます。水平複製を使用したクラスター化は、スループットと高可用性を増進する手段になります。

水平複製を使用したクラスター化の場合は、リモート Web サーバーとリモート・データベースの両方を使用することをお勧めします。

水平複製を使用したクラスターを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce ノードのインストールを完了します。詳細は、15 ページの『第 2 部 WebSphere Commerce のインストール』を参照してください。
2. WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連合します。詳細は、65 ページの『WebSphere Commerce の連合』を参照してください。
3. WebSphere Commerce インスタンスを作成します。詳細は、35 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』を参照してください。
4. クラスターに追加しようとしている各ノードごとに、追加の水平複製を準備します。詳細は、74 ページの『水平複製の準備』を参照してください。
5. WebSphere Commerce クラスターを作成します。詳細は、75 ページの『WebSphere Commerce クラスターの作成』を参照してください。
6. 各クラスター・メンバーの JDBC プロバイダー・パスを検証します。詳細は、76 ページの『JDBC プロバイダー・パスの検証』を参照してください。
7. Web サーバー・プラグインを再生成します。詳細は、77 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成』を参照してください。
8. WebSphere Commerce インスタンス情報を元の WebSphere Commerce ノードから各水平複製にコピーします。詳細は、78 ページの『インスタンス情報のコピー』を参照してください。
9. WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報を元の WebSphere Commerce ノードから各水平複製にコピーします。詳細は、79 ページの『WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報のコピー』を参照してください。

重要

水平複製を使用したクラスターにストアを発行する前に、82 ページの『WebSphere Commerce クラスター内でのストアの発行』を確認してください。

垂直複製のクラスター化

垂直複製を使用したクラスター化とは、1つの物理マシン上に複数のアプリケーション・サーバーの複製を定義する手法をいいます。これまでの実績では、1つのJava仮想マシン(JVM)プロセスによってインプリメントされた1つのアプリケーション・サーバーは、必ずしも大型のマルチプロセッサ・マシンのCPU能力をすべて利用しているわけではないことが示されています。垂直複製を使用したクラスター化は、複数のJVMプロセスを作成するための手際の良いメカニズムとして機能するので、それらのプロセスがまとまってすべての処理能力を全面的に活用することができます。

垂直複製を使用したクラスターを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce ノードのインストールを完了します。詳細は、15ページの『第2部 WebSphere Commerce のインストール』を参照してください。
2. WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連合します。詳細は、65ページの『WebSphere Commerce の連合』を参照してください。
3. WebSphere Commerce インスタンスを作成します。詳細は、35ページの『第3部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』を参照してください。
4. WebSphere Commerce クラスターを作成します。詳細は、75ページの『WebSphere Commerce クラスターの作成』を参照してください。
5. Web サーバー・プラグインを再生成します。詳細は、77ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成』を参照してください。

水平複製の準備

この項は、水平複製を使用したクラスター化にのみ当てはまります。

水平複製を使用したクラスター化の一環として、各マシンごとに、水平複製を収容するクラスターの一部を成す WebSphere Commerce の WebSphere Commerce Server コンポーネントをインストールする必要があります。

水平複製を準備するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce の WebSphere Commerce Server コンポーネントを、水平複製をホスティングするマシン上にインストールします。それには、WebSphere Commerce インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使います。カスタム・インストールの実行に関する説明は、25ページの『第5章 カスタム・インストールの実行』に述べられています。
2. 新しい WebSphere Commerce ノードから WebSphere Commerce データベースにアクセスできることを確認します。

重要: 新しい WebSphere Commerce ノード上に WebSphere Commerce インスタンスを作成しないでください。

WebSphere Commerce クラスターの作成

この項の解説では、元の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの入った新規のクラスターを作成します。このクラスターを作成した後、そのクラスター内にさらに別のノードを作成できます。

新規の WebSphere Commerce クラスターを作成するには、次のようにします。

1. ノード・エージェントがまだ開始していなければ、クラスターに追加したい各ノードごとに開始します。詳細は、95 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
2. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、95 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。詳細は、96 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション・エリアの「サーバー」を拡張表示してから、「クラスター」をクリックします。「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページが表示されます。
5. 「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページの「新規」をクリックします。「新規クラスターの作成 (Create New Cluster)」ページが表示されます。
6. 「クラスター名 (Cluster Name)」フィールドにクラスターの名前を入力します。
7. 「既存のサーバー (Existing server)」フィールドで、「このクラスターに追加する既存のアプリケーション・サーバーの選択 (Select an existing application server to add to this cluster)」を選択して、既存のサーバーのリストで、WebSphere Commerce アプリケーションをプルダウン・リストから選択します。リスト中の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの名前が、以下の形式で一覧で示されます。

cell_name/machine_name/WC_instance_name

詳細は次のとおりです。

cell_name

WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーが所属するセルの名前です。

machine_name

WebSphere Commerce マシンの短いホスト名です。

instance_name

WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

8. 「次へ」をクリックします。「新規クラスター・サーバーの作成 (Create New Clustered Servers)」ページが表示されます。
9. 「メンバー名 (Member Name)」フィールドに、作成する新規の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードの名前を入力します。

10. 「メンバーの選択 (Select Member)」フィールドで、新規の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードの作成場所となるマシンの名前を選択します。
水平クラスター化の場合にはマシン名は、最初に WebSphere Commerce をインストールしたマシンの名前とは異なる名前になります。
垂直クラスター化の場合にはマシン名は、最初に WebSphere Commerce をインストールしたマシンの名前と同じ名前になります。
11. 「HTTP ポート (Http Ports)」フィールドで、「固有の HTTP ポートの生成 (Generate unique Http ports)」が選択されていることを確認します。
新規クラスター・メンバーの作成時に設定できるその他のパラメーターの詳細は、『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント』の資料を参照してください。
12. 「適用」をクリックします。
13. さらにクラスター・メンバーを追加したければ、追加するクラスター・メンバーごとにステップ 9 (75 ページ) から 12 までを繰り返します。
14. クラスター・メンバーを追加し終わったら、「次へ」をクリックします。
15. 「終了」をクリックします。
16. 管理コンソールのタスクバーの「保管」をクリックします。
17. 「保管」ページで「ノードでの変更内容の同期 (Synchronize changes with node)」を選択します。
18. 「保管」ページの「保管」をクリックします。
19. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。

JDBC プロバイダー・パスの検証

クラスター・メンバーごとに、JDBC プロバイダー・パスが正しく設定されていることを確認する必要があります。確認しないと、クラスターが正しく機能なくなる原因になることがあります。

各クラスター・メンバーの JDBC プロバイダー・パスを検証するには、次のようにします。

1. ノード・エージェントをまだ開始していなければ、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントによって管理されている各システムごとに開始します。詳細は、95 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
2. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、95 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。詳細は、96 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション・エリアの「リソース」を拡張表示してから、「JDBC プロバイダー (JDBC Providers)」をクリックします。「JDBC プロバイダー (JDBC Providers)」が表示されます。

5. 「ノード」フィールドで、クラスター・メンバーを置くマシンの名前を入力します。これは通常、アプリケーション・サーバーが稼働するマシンのもと同じ名前です。
使用可能なノードのリストは、「ブラウズ」をクリックすると表示されます。
6. 「サーバー」フィールドで、検証しようとしている JDBC プロバイダー・パスをもったアプリケーション・サーバーの名前を入力します。これは、クラスター・メンバーのメンバー名です。
使用可能なアプリケーション・サーバーのリストは、「ブラウズ」をクリックすると表示されます。
7. 「適用」をクリックします。 JDBC プロバイダーのリストが最新表示になります。
8. 以下の JDBC プロバイダーをクリックします。
`instance_name - WebSphere Commerce JDBC Provider`

`instance_name` は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。
9. 「クラスパス (Classpath)」フィールドに示されているパスは、クラスター・メンバーが置かれているマシン上の JDBC ドライバーの絶対パスであることを確認します。
示されたパスが正しければ、「キャンセル」をクリックします。
示されたパスが誤っていれば、次のようにします。
 - a. JDBC ドライバーの正しいパスを「クラスパス (Classpath)」フィールドに入力します。
 - b. 「OK」をクリックします。
 - c. 管理コンソールのタスクバーの「保管」をクリックします。
 - d. 「保管」ページで「ノードでの変更内容の同期 (Synchronize changes with node)」を選択します。
 - e. 「保管」ページの「保管」をクリックします。
10. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成

Web サーバー・プラグインを再生成するには、以下のようにします。

1. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを停止します。
2. ノード・エージェントをまだ開始していなければ、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントによって管理されている各システムごとに開始します。詳細は、95 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
3. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、95 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。

4. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。詳細は、96 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
5. ナビゲーション・エリアの「**環境 (Environment)**」を拡張表示してから、「**Web サーバー・プラグインの更新 (Update Web Server Plugin)**」をクリックします。
6. 「**OK**」をクリックすると、新規の plugin-cfg.xml ファイルが生成されます。
7. プラグインが更新されたら、メッセージ・ボックスに以下のエントリが表示されます。

The web server plugin configuration was updated successfully.

8. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
9. plugin-cfg.xml ファイルをテキスト・エディターでオープンします。
plugin-cfg.xml ファイルは、以下のディレクトリーに置かれています。

WAS_userdir/cells/config

plugin-cfg.xml ファイル内のすべての絶対パス情報を確認します。絶対パス情報はすべて、WebSphere Commerce ノード上の WebSphere Application Server の絶対パス情報に一致していなければなりません。

行ったすべての変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。

10. 再生成された plugin-cfg.xml ファイルを WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのマシンから Web サーバーにコピーします。詳細は、103 ページの『Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー』を参照してください。
11. WebSphere Commerce Payments を WebSphere Commerce クラスタと同じデプロイメント・マネージャー・セルに連合していない場合は、WebSphere Commerce Payments plugin-cfg.xml ファイルの内容を、Web サーバー上の新規の plugin-cfg.xml ファイルにマージします。詳細は、103 ページの『WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ』を参照してください。

注: WebSphere Commerce Payments とオリジナルの WebSphere Commerce ノードが別々のマシンにある場合は、このステップをスキップしてください。

12. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを開始します。

インスタンス情報のコピー

水平クラスタ内の各 WebSphere Commerce 複製ごとに、WebSphere Commerce インスタンス・ストア情報を、元の WebSphere Commerce ノードからクラスタ・メンバーにコピーしなければなりません。

ここで説明するステップは、新規の WebSphere Commerce インスタンスをクラスタ内に作成した後で実行する必要もあります。

インスタンス情報を水平複製にコピーするには、以下のようにします。

1. クラスターが稼働中の場合は、停止します。詳細は、81 ページの『WebSphere Commerce クラスターの開始または停止』を参照してください。
2. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを停止します。
3. 元の WebSphere Commerce ノード上の以下のディレクトリーの内容を、水平複製上の同じディレクトリーにコピーします。

WC_userdir/instances/instance_name

instance_name は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WC_userdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

4. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを開始します。
5. クラスターを始動します。詳細は、81 ページの『WebSphere Commerce クラスターの開始または停止』を参照してください。

WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報のコピー

水平クラスター内の各 WebSphere Commerce 複製ごとに、WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報を、元の WebSphere Commerce ノードからクラスター・メンバーにコピーしなければなりません。

ここで説明するステップは、クラスター内にストアを発行するたびに実行する必要があります。

アプリケーションおよびストア情報を水平複製にコピーするには、以下のようになります。

1. クラスターが稼働中の場合は、停止します。詳細は、81 ページの『WebSphere Commerce クラスターの開始または停止』を参照してください。
2. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを停止します。
3. 元の WebSphere Commerce ノード上の以下のディレクトリーの内容を、水平複製上の同じディレクトリーにコピーします。

WAS_userdir/installedApps/cell_name/WC_instance_name.ear

変数は以下のように定義されています。

WAS_userdir

WAS_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

cell_name

これは、デプロイメント・マネージャー・セルの名前です。

instance_name

これは、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

4. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを開始します。
5. クラスターを始動します。詳細は、81 ページの『WebSphere Commerce クラスターの開始または停止』を参照してください。

さらに別のクラスター・メンバーの追加

この項の解説では、75 ページの『WebSphere Commerce クラスターの作成』で作成したクラスターにさらにメンバーを追加する方法について説明します。

さらに別のクラスター・メンバーを追加するには、以下のようになります。

1. 水平複製をクラスターに追加したい場合、74 ページの『水平複製の準備』のタスクを完了します。
2. ノード・エージェントがまだ開始していなければ、クラスターに追加したい各ノードごとに開始します。詳細は、95 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
3. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、95 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
4. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。詳細は、96 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
5. ナビゲーション・エリアの「サーバー」を拡張表示してから、「クラスター」をクリックします。「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページが表示されず。
6. クラスターが停止していることを確認します。クラスターが停止していない場合、クラスター名を選択してから「停止」をクリックします。
7. クラスター名をクリックします。
8. 「追加プロパティ (Additional Properties)」テーブルの「クラスター・メンバー (Cluster Members)」をクリックします。
9. 「クラスター・メンバー (Cluster Members)」ページで「新規」をクリックします。
10. 「メンバー名 (Member Name)」フィールドに、作成する新規の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードの名前を入力します。
11. 「メンバーの選択 (Select Member)」フィールドで、新規の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードの作成場所となるマシンの名前を選択します。

水平クラスター化の場合にはマシン名は、もともと WebSphere Commerce をインストールしたマシンのものとは異なる名前になります。

垂直クラスター化の場合にはマシン名は、最初に WebSphere Commerce をインストールしたマシンの名前と同じ名前です。
12. 「HTTP ポート (Http Ports)」フィールドで、「固有の HTTP ポートの生成 (Generate unique Http ports)」が選択されていることを確認します。

新規クラスター・メンバーの作成時に設定できるその他のパラメーターの詳細は、『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント』の資料を参照してください。
13. 「適用」をクリックします。
14. クラスター内にさらに別の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードを作成するには、「メンバー名 (Member Name)」フィールドに新規ノード名を入力してから、「適用」をクリックします。

そのクラスター内に追加したい WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー・ノードの作成がすべて完了するまで、上記のステップを繰り返します。

15. 「次へ」をクリックします。
16. 「終了」をクリックします。
17. 管理コンソールの最上部にあるメニュー内の「保管」をクリックします。「保管」ページが表示されます。
18. 「保管」ページで「ノードでの変更内容の同期 (Synchronize changes with node)」を選択します。
19. 「保管」ページの「保管」をクリックします。
20. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
21. web サーバー・プラグイン構成ファイルを再生成します。詳細は、77 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成』を参照してください。
22. 再生成された plugin-cfg.xml ファイルを WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのマシンから Web サーバーにコピーします。詳細は、103 ページの『Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー』を参照してください。
23. 新規の水平複製をクラスターに追加する場合は、以下のようになります。
 - a. WebSphere Commerce インスタンス情報を元の WebSphere Commerce ノードから新規の各水平複製にコピーします。詳細は、78 ページの『インスタンス情報のコピー』を参照してください。
 - b. WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報を元の WebSphere Commerce ノードから新規の各水平複製にコピーします。詳細は、79 ページの『WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報のコピー』を参照してください。

WebSphere Commerce クラスターの開始または停止

WebSphere Commerce クラスターを開始または停止するには、以下のようになります。

1. ノード・エージェントがまだ開始していなければ、クラスター内の各ノードで開始します。詳細は、95 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
2. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、95 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールを開始して、このコンソールにログオンします。WebSphere Application Server 管理コンソールの開始に関する説明は、96 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション・エリアの「サーバー」を拡張表示してから、「クラスター」をクリックします。「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページが表示されません。
5. 開始または停止しようとしているクラスターの隣のチェック・ボックスを選択して、「開始」または「停止」をクリックします。

クラスター・メンバーの除去

アプリケーション・サーバー・ノードをクラスターから除去するには、次のようにします。

1. ノード・エージェントがまだ開始していなければ、クラスター内の各ノードで開始します。詳細は、95 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。
2. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、95 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。詳細は、96 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション・エリアの「サーバー」を拡張表示してから、「クラスター」をクリックします。「サーバー・クラスター (Server Cluster)」ページが表示されます。
5. クラスター・リストから、メンバーシップを変更したいクラスターを選択します。クラスターのプロパティ・ページが表示されます。
6. 「追加プロパティ (Additional Properties)」テーブルの「クラスター・メンバー (Cluster members)」をクリックします。「クラスター・メンバー (Cluster Members)」ページが表示されます。
7. クラスターから除去したいクラスター・メンバーを選択してから、「削除」をクリックします。
8. 管理コンソールのタスクバーの「保管」をクリックします。
9. 「保管」ページで「ノードでの変更内容の同期 (Synchronize changes with node)」を選択します。
10. 「保管」ページの「保管」をクリックします。
11. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
12. Web サーバー・プラグインを再生成し、そのプラグインを Web サーバーにコピーします。詳細は、77 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成』を参照してください。

WebSphere Commerce クラスター内でのストアの発行

水平複製を使用したクラスター内でのストアの発行

水平複製を使用したクラスター内にストアを発行するには、次のようにします。このステップの元の *WebSphere Commerce* ノード とは、発行するストアのすべての情報 (SAR ファイルを含む) が入っているノードのことです。

1. WebSphere Commerce インスタンス情報を元の WebSphere Commerce ノードから各水平複製にコピーします。詳細は、78 ページの『インスタンス情報のコピー』を参照してください。

2. WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報を元の WebSphere Commerce ノードから各水平複製にコピーします。詳細は、79 ページの『WebSphere Commerce アプリケーションおよびストア情報のコピー』を参照してください。

3. ストアを発行します。

WebSphere Commerce サンプル・ストアの発行に関する詳細は、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプの「ストア・アーカイブの発行」の項を参照してください。

WebSphere Commerce でのストアの開発の詳細は、「*WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド」を参照してください。この資料は、WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーから入手することができます。詳しくは、131 ページの『WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー』を参照してください。

垂直複製を使用したクラスター内でのストアの発行

垂直複製を使用したクラスター内でストアを発行する場合は、追加のステップは不要です。

WebSphere Commerce サンプル・ストアの発行に関する詳細は、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプの「ストア・アーカイブの発行」の項を参照してください。

WebSphere Commerce でのストアの開発の詳細は、「*WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド」を参照してください。この資料は、WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーから入手することができます。詳しくは、131 ページの『WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー』を参照してください。

第 6 部 インストールと管理のタスク

第 6 部では、WebSphere Commerce のインストールと管理において実行する必要のあるさまざまなタスクについて説明しています。

第 15 章 WebSphere Commerce のタスク

この章では、WebSphere Commerce のインストールと管理の際に実行する必要があると思われる WebSphere Commerce タスクに関する指示を述べています。

WebSphere Commerce インスタンスの開始または停止

WebSphere Commerce インスタンスを開始または停止するには、以下のようになります。

1. データベース管理システムが開始されていることを確認します。
2. Web サーバーが開始されていることを確認します。
3. 開始しようとしている WebSphere Commerce インスタンスのアプリケーション・サーバーを開始、停止、または再始動します。アプリケーション・サーバーの開始および停止の説明は、93 ページの『アプリケーション・サーバーの開始または停止』に記載されています。

注: インスタンスを初めて開始するときには、開始までに長い時間がかかります。この遅延は、Java プログラムに関する情報のキャッシュによるものです。遅延が長引くとしても、それ以降の試行では始動時間が改善されます。

以下の節では、iSeries のコマンド行から、WebSphere Commerce インスタンスを開始または停止する方法について説明します。

WebSphere Commerce インスタンスの開始

WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、ユーザー・プロファイルに *JOBCTL 権限がなければなりません。

OS/400 プラットフォームで WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、次のようになります。

1. 次のようにして、WebSphere Application Server サブシステムが開始済みであることを確認します。
 - a. OS/400 コマンド・セッションを開始します。
 - b. 以下のコマンドを実行します。

WRKSBS

- c. 実行中のサブシステムのリストに、以下のサブシステムが示されていることを確認します。

QEJBAS5

実行中のサブシステムのリストに QEJBAS5 サブシステムが示されていない場合、サブシステムを開始してから WebSphere Commerce インスタンスを開始しなければなりません。QEJBAS5 サブシステムの開始に関する説明は、99 ページの『QEJBAS5 サブシステムの開始』を参照してください。

2. 次のコマンドを入力して QShell セッションを開始します。

STRQSH

次に、デフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーで WebSphere Commerce インスタンスを開始する予定の場合は、QShell セッションで次のコマンドを入力します。

```
WAS_installdir/bin/startServer WC_instance_name  
[-instance WAS_instance_name]
```

このコマンドでは、`-instance WAS_instance_name` パラメーターはオプションです。

たとえば、デフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーで `demo1` WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、次のように入力します。

```
WAS_installdir/bin/startServer WC_demo1
```

たとえば、デフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーで `server1` インスタンスを開始するには、次のように入力します。

```
WAS_installdir/bin/startServer server1
```

(`server1` は、QEJBAS5 サブシステムの開始時に自動的に開始することに注意してください。)

たとえば、`demo2was` WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーで `demo2` WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、次のように入力します。

```
WAS_installdir/bin/startServer WC_demo2 -instance demo2was
```

WebSphere Commerce インスタンスの停止

WebSphere Commerce インスタンスを停止するには、ユーザー・プロファイルに `*JOBCTL` 権限がなければなりません。

OS/400 上で WebSphere Commerce を停止するには、次のようにします。

1. 次のコマンドを入力して QShell セッションを開始します。

```
STRQSH
```

2. 以下の例は、QShell セッションにおいて WebSphere Application Server `stopServer` コマンドを使用して、WebSphere Commerce インスタンスを停止する方法を示しています。

- デフォルトの WebSphere Application Server インスタンスで WebSphere Commerce インスタンスを停止したい場合、次のように入力します。

```
WAS_installdir/bin/stopServer WC_instance_name [-instance WAS_instance_name]
```

このコマンドでは、`-instance WAS_instance_name` パラメーターはオプションです。

- 以下の例は、デフォルトの WebSphere Application Server 内で `demo1` WebSphere Commerce インスタンスを停止します。

```
WAS_installdir/bin/stopServer WC_demo1
```

- 以下の例は、デフォルトの WebSphere Application Server 内で `server1` インスタンスを停止します。(Server1 は、QEJBAS5 サブシステムの開始時に自動的に開始します。)

```
WAS_installdir/bin/stopServer server1
```

- 以下の例は、demo2was WebSphere Application Server アプリケーション・サーバー内で demo2 WebSphere Commerce インスタンスを停止します。

```
WAS_installdir/bin/stopServer WC_demo2 -instance demo2was
```

WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始または停止

WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始または停止するには、以下のようになります。

1. Payments Web サーバーが開始されていることを確認します。
2. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する指示は、40ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
3. 構成マネージャーで、「**WebSphere Commerce**」→「ホスト名」→「**Payments**」→「**インスタンス・リスト**」を拡張表示します。
4. 開始または停止したい WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前を右マウス・ボタンでクリックしてから、以下のいずれかを行います。
 - WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始するには、ポップアップ・メニューの「**Payments インスタンスの開始**」を選択します。インスタンスの開始の正常完了のダイアログが表示されたら、「**OK**」をクリックしてダイアログを終了します。
 - WebSphere Commerce Payments インスタンスを停止するには、ポップアップ・メニューの「**Payments インスタンスの停止**」を選択します。

注: インスタンスを初めて開始するときには、開始までに長い時間がかかります。この遅延は、Java プログラムに関する情報のキャッシュによるものです。遅延が長引くとしても、それ以降の試行では始動時間が改善されます。

QShell セッションからの WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始または停止

WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始または停止するには、以下の2つ代替メソッドがあります。どちらのメソッドにおいても、WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始する前に WebSphere Commerce Payments Web サーバーが開始されていることを確認してください。

パスワードが提供されない場合

この場合、「不在再始動 (*Unattended Restart*)」がオンに設定されており、パスワードは必要ありません。インスタンスを開始するには、以下のようになります。

1. QShell セッションから、`WAS_installdir/bin` ディレクトリーへトラバースします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
startServer payments_instance_name_Commerce_Payments_Server  
-instance WAS_instance_name
```

インスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. QShell セッションから、`WAS_installdir/bin` ディレクトリーへトラバースします。

2. 次のコマンドを実行します。

```
stopServer payments_instance_name_Commerce_Payments_Server  
-instance WAS_instance_name
```

パスワードが提供される場合

この場合、「不在再始動 (*Unattended Restart*)」 がオフに設定されており、パスワードが必要です。インスタンスを開始するには、以下のようにします。

1. QShell セッションから、*Payments_installdir/bin* ディレクトリーヘトラバースします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
IBMPayServer payments_instance_name password
```

payments_instance は Payments インスタンス名であり、*password* は、対応する Payments インスタンス・パスワードです。

インスタンスを停止するには、以下のようにします。

1. QSH から、*Payments_installdir/bin* ディレクトリーヘトラバースします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
StopIBMPayServer payments_instance_name password
```

WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更

WebSphere Commerce インスタンスの構成設定を変更する場合は、構成マネージャーから実行できます。

構成マネージャーを使用して WebSphere Commerce インスタンスを更新するには、以下のようにします。

1. データベース管理システムが開始されていることを確認します。
2. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する指示は、40 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
3. インスタンスのリストから、構成するインスタンスを選択し、設定を変更するノードを選択します。構成マネージャーの各種子のフィールドとパネルの詳細は、構成マネージャーのオンライン・ヘルプを参照してください。
4. インスタンスを更新したら、「適用」をクリックして変更内容を適用します。
5. 変更が正常に適用されたら、構成マネージャー・クライアントを終了します。これによって、構成マネージャー・サーバーも終了します。
6. 変更したインスタンスを再始動します。

WebSphere Commerce インスタンスの削除

WebSphere Commerce インスタンスを削除するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce が停止していることを確認します。WebSphere Commerce の停止の詳細は、87 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始または停止』を参照してください。

2. デプロイメント・マネージャー・セルから WebSphere Commerce インスタンスを削除する場合、デプロイメント・マネージャー・セルから WebSphere Commerce インスタンスを除去します。詳細は、69 ページの『セルからのアプリケーション・サーバー・ノードの除去』を参照してください。
3. QShell セッションから以下のコマンドを実行して、 WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーを削除します。

```
WC_installdir/bin/rmCommerceServer.sh instance_name
```

instance_name は、削除する WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WC_installdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

重要

WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの名前ではなく、必ず、 WebSphere Commerce インスタンスの名前を入力してください。

WebSphere Commerce インスタンスの名前が *instance_name* である場合、 WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの名前は **WC_instance_name** です。

WC_instance_name を使用すると、エラー・メッセージを受け取ります。

4. 次のようにして、構成マネージャーから WebSphere Commerce インスタンスを削除します。
 - a. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する指示は、40 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
 - b. 構成マネージャーで、「**WebSphere Commerce**」の下で「**ホスト名**」→「**Commerce**」→「**インスタンス・リスト**」を拡張表示します。
 - c. 削除するインスタンスを右マウス・ボタンでクリックして、「**インスタンスの削除**」を選択します。
 - d. プロセスが完了したら、構成マネージャーを終了します。
5. 削除したい WebSphere Commerce インスタンスに関連した WebSphere Commerce スキーマを除去します。 WebSphere Commerce スキーマを除去するには、QShell セッションから以下のコマンドを実行します。

```
db2 "drop schema instance_name"
```

instance_name は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

注: 別の OS/400 セッションから、 QShell セッション用にポストされるメッセージをモニターします。 OS/400 コマンド WRKSBSJOB QINTER を使用できません。

6. 以下のディレクトリーを削除します。

```
WC_userdir/instances/instance_name  
WAS_userdir/logs/WC_instance_name
```

instance_name は、削除する WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

7. WebSphere Commerce インスタンスの削除後に他の WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーを使用する予定の場合、WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルを再生成しなければなりません。WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルの再生成の詳細は、100 ページの『WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除

WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce Payments が停止していることを確認します。詳細は、89 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始または停止』を参照してください。
2. 次のようにして、構成マネージャーから WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除します。
 - a. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する指示は、40 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
 - b. 構成マネージャーで、「**WebSphere Commerce**」の下で「**ホスト名**」→「**Payments**」→「**インスタンス・リスト**」を拡張表示します。
 - c. 削除するインスタンスを右マウス・ボタンでクリックして、「**Payments インスタンスの削除**」を選択します。
 - d. プロセスが完了したら、構成マネージャーを終了します。

このステップでは、WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーも削除されます。

3. 削除したい WebSphere Commerce Payments インスタンスに関連した WebSphere Commerce Payments スキーマを除去します。WebSphere Commerce Payments スキーマを除去するには、QShell セッションから以下のコマンドを実行します。

```
db2 "drop schema payments_instance_name"
```

payments_instance_name は、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

4. 以下のディレクトリーを削除します。

```
WC_userdir/instances/payments_instance_name  
WAS_userdir/logs/payments_instance_name_Commerce_Payments_Server  
Payments_userdir/instances/payments_instance_name
```

payments_instance_name は、削除する WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

5. WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除後に他の WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーを使用する予定の場合、WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルを再生成しなければなりません。WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルの再生成の詳細は、100 ページの『WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成』を参照してください。

第 16 章 WebSphere Application Server のタスク

この章では、WebSphere Commerce のインストールと管理の際に実行する必要があると思われる WebSphere Application Server タスクに関する指示を述べています。

アプリケーション・サーバーの開始または停止

iSeries 上のアプリケーション・サーバーを開始または停止するには、次のようになります。

1. 次のようにして、WebSphere Application Server サブシステムが開始済みであることを確認します。

- a. OS/400 コマンド・セッションを開始します。
- b. 以下のコマンドを実行します。

```
WRKSBS
```

- c. 表示された実行中のサブシステムのリストに、以下のサブシステムが示されていることを確認します。

```
QEJBAS5
```

実行中のサブシステムのリストに QEJBAS5 サブシステムが示されていない場合、サブシステムを開始してからアプリケーション・サーバーを開始しなければなりません。サブシステムの開始に関する指示は、98 ページの『WebSphere Application Server のサブシステムの開始』を参照してください。

2. OS/400 コマンド行に次のコマンドを入力して QShell セッションを開始します。

```
QSH
```

3. 以下のいずれかを行います。

- 次のコマンドを実行して、アプリケーション・サーバーを開始します。

```
WAS_installdir/bin/startServer application_server_name  
-instance WAS_instance_name
```

- 次のコマンドを実行して、アプリケーション・サーバーを停止します。

```
WAS_installdir/bin/stopServer application_server_name  
-instance WAS_instance_name
```

application_server_name

開始しようとしているアプリケーション・サーバーの名前です。

アプリケーション・サーバー名	説明
<i>WC_instance_name</i>	WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー
<i>payments_instance_name_Commerce_Payments_Server</i>	WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバー

instance_name は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

注: WebSphere Commerce ノードが WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのセルに連合されている場合、このコマンドを使用して WebSphere Commerce を開始することはできません。WebSphere Commerce が WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのセルに連合されている場合の開始方法に関する詳細は、97 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのもとでのアプリケーション・サーバーの開始または停止』を参照してください。

WAS_*instance_name*

アプリケーション・サーバーの開始場所の WebSphere Application Server インスタンスの名前です。デフォルトの WebSphere Application Server インスタンスは *default* です。

デフォルトの WebSphere Application Server インスタンス内でアプリケーション・サーバーを開始したい場合は、`-instance server_name` パラメーターはこのコマンドではオプションになります。たとえば、次のコマンドを入力します。

`WAS_installdir/startServer application_server_name`

application_server_name

開始しようとしているアプリケーション・サーバーの名前です。いくつかの共通アプリケーション・サーバー

アプリケーション・サーバー名	説明
<i>WC_commerce_instance_name</i>	WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー
<i>payments_instance_name</i> _Commerce_Payments_Server	WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバー

commerce_instance_name は WebSphere Commerce インスタンスの名前、*payments_instance_name* は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

注: WebSphere Commerce ノードまたは WebSphere Commerce Payments ノードが WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのセルに連合されている場合、このコマンドを使用して WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments を開始することはできません。WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments が WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのセルに連合されている場合の開始方法に関する詳細は、97 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのもとでのアプリケーション・サーバーの開始または停止』を参照してください。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーを開始するには、以下のようにします。

1. 次のようにして、WebSphere Application Server サブシステムが開始済みであることを確認します。

- a. OS/400 コマンド・セッションを開始します。

- b. 以下のコマンドを実行します。

```
WRKSBS
```

- c. 表示された実行中のサブシステムのリストに、以下のサブシステムが示されていることを確認します。

```
QEJBASND5
```

実行中のサブシステムのリストに QEJBASND5 サブシステムが示されていない場合、サブシステムを開始してからアプリケーション・サーバーを開始しなければなりません。サブシステムの開始に関する指示は、100 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント のサブシステムの開始』を参照してください。

2. OS/400 コマンド行に次のコマンドを入力して QShell セッションを開始します。

```
QSH
```

3. 以下のいずれかを行います。

- デプロイメント・マネージャーを開始するには、以下のコマンドを実行します。

```
/QIBM/ProdData/WebAS5/ND/bin/startManager  
-instance WAS_instance_name
```

- デプロイメント・マネージャーを停止するには、以下のコマンドを実行します。

```
/QIBM/ProdData/WebAS5/ND/bin/stopManager  
-instance WAS_instance_name
```

WAS_instance_name

アプリケーション・サーバーの開始場所の WebSphere Application Server インスタンスの名前です。デフォルトの WebSphere Application Server インスタンスは *default* です。

デフォルトの WebSphere Application Server インスタンス内でデプロイメント・マネージャーを開始したい場合は、`-instance server_name` パラメーターはこのコマンドではオプションになります。たとえば、次のコマンドを入力します。

```
/QIBM/ProdData/WebAS5/ND/bin/startManager
```

WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止

WebSphere Application Server ノード・エージェントを開始または停止するには、以下のようにします。

1. 次のようにして、WebSphere Application Server サブシステムが開始済みであることを確認します。

- a. OS/400 コマンド・セッションを開始します。
- b. 以下のコマンドを実行します。

```
WRKSBS
```

- c. 表示された実行中のサブシステムのリストに、以下のサブシステムが示されていることを確認します。

```
QEJBAS5
```

実行中のサブシステムのリストに QEJBAS5 サブシステムが示されていない場合、サブシステムを開始してからアプリケーション・サーバーを開始しなければなりません。サブシステムの開始に関する指示は、98 ページの『WebSphere Application Server のサブシステムの開始』を参照してください。

2. OS/400 コマンド行に次のコマンドを入力して QShell セッションを開始します。

```
QSH
```

3. 以下のいずれかを行います。

- ノード・エージェントを開始するには、以下のコマンドを実行します。

```
/QIBM/ProdData/WebAS5/Base/bin/startNode  
-instance WAS_instance_name
```

- ノード・エージェントを停止するには、以下のコマンドを実行します。

```
/QIBM/ProdData/WebAS5/Base/bin/stopNode  
-instance WAS_instance_name
```

WAS_instance_name

ノード・エージェントの開始場所の WebSphere Application Server インスタンスの名前です。デフォルトの WebSphere Application Server インスタンスは *default* です。

デフォルトの WebSphere Application Server インスタンス内でデプロイメント・マネージャーを開始したい場合は、`-instance server_name` パラメーターはこのコマンドではオプションになります。たとえば、次のコマンドを入力します。

```
/QIBM/ProdData/WebAS5/Base/bin/startNode
```

WebSphere Application Server 管理コンソールの開始

以下の条件の下で、WebSphere Application Server 管理コンソールを開始することができます。

連合アプリケーション・サーバー

WebSphere Application Server 管理コンソールを開始する前に、以下を開始する必要があります。

- それぞれの連合ノードの WebSphere Application Server ノード・エージェント。詳細は、95 ページの『WebSphere Application Server ノード・エージェントの開始と停止』を参照してください。

- WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャー。詳細は、95 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。

スタンドアロン (連合ではない) アプリケーション・サーバー

WebSphere Application Server 管理コンソールを開始する前に、デフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバー (server1) を開始する必要があります。詳細は、93 ページの『アプリケーション・サーバーの開始または停止』を参照してください。

これらの開始に関する指示は、以下の項に述べられています。

Web ブラウザーを開いて以下の URL を入力し、WebSphere Application Server 管理コンソールを開きます。

`http://hostname:port/admin`

または

`https://hostname:port/admin`

hostname は、WebSphere Application Server を実行しているマシンの完全修飾 TCP/IP 名、*port* は、WebSphere Application Server 管理コンソールの TCP/IP ポートです。

WebSphere Application Server 管理コンソールのデフォルト・ポートは、URL に指定するプロトコルによって異なります。HTTP プロトコルの場合のデフォルト・ポートは 9090 です。Https プロトコルの場合のデフォルト・ポートは 9043 です。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのもとのアプリケーション・サーバーの開始または停止

ここでの説明は、セルに連合されたアプリケーション・サーバーにのみ当てはまります。セルへのアプリケーション・サーバー・ノードの連合に関する詳細は、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの資料を参照してください。

以下の解説は、アプリケーション・サーバーのクラスターの開始または停止の際の参考にはできません。アプリケーション・サーバーのクラスターの開始または停止に関する詳細は、81 ページの『WebSphere Commerce クラスターの開始または停止』を参照してください。

WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーと WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーをデプロイメント・マネージャー・セルに連合する方法の詳細は、65 ページの『第 13 章 WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments の連合』を参照してください。

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのもとでアプリケーション・サーバーを開始するには、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのマシン上で次のようにします。

1. 次のようにして、WebSphere Application Server サブシステムが開始済みであることを確認します。

- a. OS/400 コマンド・セッションを開始します。
- b. 以下のコマンドを実行します。

WRKSBS

- c. 表示された実行中のサブシステムのリストに、以下のサブシステムが示されていることを確認します。

QEJBAS5

実行中のサブシステムのリストに QEJBAS5 サブシステムが示されていない場合、サブシステムを開始してからアプリケーション・サーバーを開始しなければなりません。サブシステムの開始に関する指示は、『WebSphere Application Server のサブシステムの開始』を参照してください。

2. ノード・エージェントをまだ開始していなければ、WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントによって管理されている各システムごとに開始します。
3. デプロイメント・マネージャーがまだ開始していなければ、開始します。詳しくは、95 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのデプロイメント・マネージャーの開始および停止』を参照してください。
4. WebSphere Application Server 管理コンソールを開始して、このコンソールにログオンします。WebSphere Application Server 管理コンソールの開始に関する説明は、96 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
5. ナビゲーション・エリアの「サーバー」を拡張表示してから、「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」をクリックします。「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」ページが表示されます。
6. 開始または停止しようとしているアプリケーション・サーバーの隣のチェック・ボックスを選択して、「開始」または「停止」をクリックします。以下の表は、利用可能な WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーを一覧で示しています。

アプリケーション・サーバー名	説明
<i>WC_commerce_instance_name</i>	WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー
<i>payments_instance_name_Commerce_Payments_Server</i>	WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバー

WebSphere Application Server のサブシステムの開始

WebSphere Application Server のサブシステムを開始するには、ユーザー・プロファイルに *JOBCTL 権限がなければなりません。

iSeries 上で WebSphere Application Server サブシステムを開始するには、次のようにします。

1. TCP/IP を開始します。 OS/400 コマンド行で以下のコマンドを実行します。
STRTCP
2. OS/400 コマンド行で以下のコマンドを実行して、QEJBAS5 サブシステムを開始します。
STRSBS SBSD(QEJBAS5/QEJBAS5)

デフォルトの WebSphere Application Server インスタンスが自動的に開始されます。デフォルト・アプリケーション・サーバー・インスタンスのジョブは *server1* です。

詳しくは、『QEJBAS5 サブシステムの開始』および『QEJBAS5 サブシステムの終了』を参照してください。

QEJBAS5 サブシステムの開始

どの WebSphere Commerce インスタンスを開始するにも、iSeries マシン上で WebSphere Application Server サブシステムが稼働していなければなりません。QEJBAS5 サブシステムが稼働中かどうかを確認するには、次のようなステップを行います。

1. iSeries サーバーにログオンします。
2. OS/400 コマンド行で、以下のように入力します。
WRKSBS
3. QEJBAS5 サブシステムが稼働中であることを確認します。稼働していなければ、OS/400 コマンド行から次のコマンドを実行します。
STRSBS QEJBAS5/QEJBAS5
4. サブシステムが開始したことを確認するには、OS/400 コマンド行に、次のように入力します。
WRKACTJOB SBS(QEJBAS5)

ジョブ SERVER1 が実行されていることを示したサブシステムが表示されます。

次に、87 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始』に説明されているとおりに、WebSphere Commerce インスタンスを開始することができます。

QEJBAS5 サブシステムの終了

QEJBAS5 サブシステムを終了するには、WebSphere Commerce インスタンス、WebSphere Commerce Payments インスタンス、およびデフォルト以外の WebSphere Application Server アプリケーションをすべて停止しなければなりません。システム上で実行されているインスタンスを停止する際は、この後の該当する項を参照してください。すべてのジョブが停止したことを確認するには、OS/400 コマンド行に次のように入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QEJBAS5)
```

サブシステムが表示されますが、サブシステム内の他のジョブは何もアクティブになっていないはずで

次に、OS/400 コマンド行に以下のように入力して QEJBAS5 サブシステムの末尾に進むことができます。

```
ENDSBS QEJBAS5
```

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント のサブシステムの開始

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメント のサブシステムを開始するには、ユーザー・プロファイルに *JOBCTL 権限がなければなりません。

iSeries 上で WebSphere Application Server サブシステムを開始するには、次のようにします。

1. TCP/IP を開始します。 OS/400 コマンド行で以下のコマンドを実行します。
STRTCP
2. OS/400 コマンド行で以下のコマンドを実行して、QEJBASND5 サブシステムを開始します。
STRSBS SBS(D(QEJBAS5/QEJBASND5))

デフォルトの WebSphere Application Server インスタンスが自動的に開始されます。デフォルト・アプリケーション・サーバー・インスタンスのジョブは *dmgr* です。

WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成

以下の指示は、 WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での連合またはクラスター化の環境で WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments を操作する時には当てはまりません。そのような環境での Web サーバー・プラグインの生成に関する詳細は、 77 ページの『WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントの下での Web サーバー・プラグインの再生成』を参照してください。

Web サーバー・プラグインを再生成するには、WebSphere Commerce ノードで以下のようにします。

1. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを停止します。
2. デフォルト・アプリケーション・サーバー — *server1* がまだ開始していなければ、開始してください。詳しくは、93 ページの『アプリケーション・サーバーの開始または停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。詳細は、96 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション・エリアの「**環境 (Environment)**」を拡張表示してから、「**Web サーバー・プラグインの更新 (Update Web Server Plugin)**」をクリックします。
5. 「**OK**」をクリックすると、新規の *plugin-cfg.xml* ファイルが生成されます。
6. プラグインが更新されたら、メッセージ・ボックスに以下のエントリーが表示されます。

The web server plugin configuration was updated successfully

7. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。

8. WebSphere Commerce Payments が別のノードにある場合、WebSphere Commerce Payments ノードでこれらのステップをすべて繰り返します。

Web サーバー・ノードが WebSphere Commerce ノードまたは WebSphere Commerce Payments ノードに対してリモート・ノードである場合、以下を行う必要があります。

1. プラグインを WebSphere Commerce ノードから、Web サーバー・ノードにコピーします。詳細は、103 ページの『Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー』を参照してください。
2. WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments がそれぞれ別々のノード上にある場合、WebSphere Commerce Payments プラグインを WebSphere Commerce プラグインにマージします。詳細は、103 ページの『WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ』を参照してください。

第 17 章 リモート Web サーバーのタスク

この章では、WebSphere Commerce とは別のノードで Web サーバーを使用している場合に実行する必要があるタスクについて説明します。

注: WebSphere Application Server 5.0 製品は、Web サーバーが稼働しているノードと同じノード上にインストールされる必要があります。

Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー

plugin-cfg.xml ファイルをリモート Web サーバーにコピーするには、次のようにします。

1. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを停止します。
2. WebSphere Commerce ノード上の以下のファイルを、Web サーバー・ノード上の同じ位置にコピーします。

`WAS_userdir/config/cells/plugin-cfg.xml`

`WAS_userdir` のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

重要: plugin-cfg.xml ファイルには、ディレクトリー固有の情報が入っています。このファイルを Web サーバー・ノード上のまったく同じディレクトリー構造にコピーしないと、Web サーバーは正しく機能しなくなり、WebSphere Commerce にはアクセスできなくなります。

3. WebSphere Application Server プラグインのパスが、Web サーバー・ノード上の `httpd.conf` ファイルに正しく示されていることを確認します。

パスを調べるには、`httpd.conf` ファイルをテキスト・エディターでオープンして、以下を探します。

```
WebSpherePluginConfig
```

このエントリーには、Web サーバー・ノード上の plugin-cfg.xml ファイルの絶対パスが入っているはずですが、パスが誤っている場合、パスを変更してから `httpd.conf` ファイルを保管します。

4. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを開始します。

別々のノード上で WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments のカスタム・インストールを処理する場合、『WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ』に進みます。

WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ

WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルを Web サーバーの plugin-cfg.xml ファイルにマージするには、次のようにします。

1. Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを停止します。

2. Web サーバー・ノードで、plugin-cfg.xml ファイルをテキスト・エディターでオープンします。 plugin-cfg.xml ファイルの絶対パスは以下のとおりです。

WAS_userdir/config/cells/plugin-cfg.xml

WAS_userdir のデフォルト値は、 v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

3. WebSphere Commerce Payments ノードから plugin-cfg.xml ファイルをテキスト・エディターでオープンします。 plugin-cfg.xml ファイルの絶対パスは以下のとおりです。

WAS_userdir/config/cells/plugin-cfg.xml

4. WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイル内で以下のテキストを見つけ出します。

```
<VirtualHostGroup Name="VH_PYM_instance_name">
  <VirtualHost Name="short_host_name:5432"/>
  <VirtualHost Name="host_name:5432"/>
</VirtualHostGroup>
```

変数の詳細は次のとおりです。

instance_name

これは、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは、WebSphere Commerce Payments ノードの短いホスト名です。

host_name

これは、WebSphere Commerce Payments ノードの完全修飾ホスト名です。

5. このセクションを Web サーバーの plugin-cfg.xml ファイルにコピーします。このセクションは、必ず同一タイプの既存のエントリーの下に挿入してください。
6. WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイル内で以下のテキストを見つけ出します。

```
<ServerCluster Name="instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster">
  <Server Name="instance_name_Commerce_Payments_Server">
    <Transport Hostname="IP_address" Port="9081" Protocol="http">
    <Transport Hostname="IP_address" Port="9091" Protocol="http">
  </Server>
  <PrimaryServers>
    <Server Name="instance_name_Commerce_Payments_Server">
  </PrimaryServers>
</ServerCluster>
```

変数は以下のように定義されています。

instance_name

これは、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは、WebSphere Commerce Payments ノードの短いホスト名です。

IP_address

これは、WebSphere Commerce Payments ノードの TCP/IP アドレスです。

- このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションは、必ず同一タイプの既存のエントリーの下に挿入してください。
- WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイル内で以下のテキストを見つけ出します。

```
<UriGroup Name="VH_PYM_instance_name_instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster_URIs">  
  <Uri AffinityCookie="JSESSIONID" Name="/webapp/SampleCheckout/*">  
  <Uri AffinityCookie="JSESSIONID" Name="/webapp/PaymentManager/*">  
</UriGroup>
```

変数は以下のように定義されています。

instance_name

これは、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは、WebSphere Commerce Payments マシンの短い (または完全修飾) ホスト名です。

- このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションは、必ず同一タイプの既存のエントリーの下に挿入してください。
- WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイル内で以下のテキストを見つけ出します。

```
<Route ServerCluster="instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster"  
  UriGroup="VH_PYM_instance_name_instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster_URIs"  
  VirtualHostGroup="VH_PYM_instance_name"/>
```

変数は以下のように定義されています。

instance_name

これは、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは、WebSphere Commerce Payments マシンの短い (または完全修飾) ホスト名です。

- このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションは、必ず同一タイプの既存のエントリーの下に挿入してください。
- 行った変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。
- Web サーバーに付属している資料を参考に、Web サーバーを開始します。

ストアの発行後のタスク

リモート Web サーバーを使用している場合、WebSphere Commerce でストアを発行するたびに以下を行う必要があります。

- Web サーバー・ノード上の `Stores.war` ディレクトリーの内容を、WebSphere Commerce 上の `Stores.war` ディレクトリーの内容に置き換えます。
両方のノードの `Stores.war` ディレクトリーの絶対パスは以下のとおりです。
`WAS_userdir/installedapps/cell_name/WC_instance_name.ear/Stores.war`

変数は v ページの『パス変数』 および v ページの『本書の使用変数』 に定義されます。 WebSphere Commerce インスタンスの作成後に、`WC_instance_name.ear` ディレクトリーは、 Web サーバー・ノードにコピーされているはずですが。

第 18 章 パスワードの設定と変更

WebSphere Commerce のほとんどのコンポーネントでは、オペレーティング・システムによって検証されるユーザー ID とパスワードを使用します。これらのパスワードの変更については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。この章では、オペレーティング・システムを使用してユーザー ID やパスワードの検証を行わない WebSphere Commerce コンポーネント用のパスワードの設定および変更する方法について述べています。

構成マネージャー・パスワードの変更

構成マネージャー・パスワードを変更するには、構成マネージャーを立ち上げてから、ユーザー ID とパスワードを入力するウィンドウで「変更」をクリックします。

あるいは、構成マネージャー・パスワードを変更するには、QShell セッションで以下のコマンドを実行します。

1. 以下のように `wcs_encrypt` ユーティリティーを実行します。

```
cd WC_installdir/bin  
  
wcs_encrypt.sh new_password
```

`new_password` は、構成マネージャーの新規パスワードです。コマンドを上記のように実行することにより、新規パスワードの暗号化されたバージョンが生成されます。

2. `WC_userdir/instances` ディレクトリーにある `PwdMgr.xml` ファイルをオープンします。
3. 上記のステップ 1 で生成された暗号化されたパスワードで、「LoginPassword」フィールドを変更します。
4. 変更を保管します。

WebSphere Commerce サイト管理者パスワードの変更

パスワードは、WebSphere Commerce 管理コンソールで変更できます。

WebSphere Commerce 管理コンソールでパスワードを変更するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce 管理コンソールを始動します。
2. WebSphere Commerce インスタンスの作成時に作成されたサイト管理者の ID とパスワードでログオンします。
3. 「パスワード変更」チェック・ボックスを選択し、「ログオン」をクリックします。「パスワード変更」ページが表示されます。
4. 「旧パスワード」フィールドに、現在の管理コンソールのログオン・パスワードを入力します。このフィールドには、最大 128 文字の英数字を入力できます。

5. 「新規パスワード」フィールドに、新しいログオン・パスワードを入力できます。このフィールドには、最大 128 文字の英数字を入力できます。
6. 「確認パスワード」フィールドに、パスワードをもう一度入力します。
7. 新しいパスワードを保管する場合は、「変更」をクリックします。「ストアおよび言語の選択」ページが表示されます。
8. WebSphere Commerce 管理コンソールを終了します。

サイト管理者パスワードのリセット

サイト管理者パスワードを忘れて、パスワードをリセットしたい場合は、以下のようになります。

1. QShell セッションを開始します。
2. QShell セッションから、以下のコマンドを実行します。

```
WC_installdir/bin/chgwcpwd.sh -database WC_database_name  
-schema WC_schema_name -instance WC_instance_profile_name  
-instancePwd WC_instance_profile_pwd -merKey WC_merchant_key  
-wcsUser site_admin_ID -wcsUserPwd new_site_admin_pwd  
[-oneWayHash true_or_false]
```

変数とパラメーターは以下のように定義されています。

WC_installdir

この変数のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

-database WC_database_name

このパラメーターは、WebSphere Commerce リレーショナル・データベースの名前を指定します。

-schema WC_schema_name

このパラメーターは、WebSphere Commerce インスタンスが常駐するスキーマの名前を指定します。これは、WebSphere Commerce インスタンスの名前と同じにすることができます。

-instance WC_instance_profile_name

このパラメーターは、WebSphere Commerce に関連した iSeries ユーザー・プロファイルの名前を指定します。このプロファイル名は通常、WebSphere Commerce インスタンスと同じ名前になります。

-instancePwd WC_instance_profile_pwd

これは、WebSphere Commerce インスタンス・ユーザー・プロファイルに関連したパスワードです。

-merKey WC_merchant_key

このパラメーターは、WebSphere Commerce インスタンスの作成時に入力された WebSphere Commerce マーチャント鍵を指定します。

-wcsUser site_admin_ID

このパラメーターは、WebSphere Commerce サイト管理者の ID を指定します。

-wcsUserPwd new_site_admin_pwd

このパラメーターは、WebSphere Commerce サイト管理者に割り当てたい新規パスワードを指定します。

`-oneWayHash true_or_false`

このパラメーターはオプションです。このパラメーターが指定されない場合、`-oneWayHash` は `true` の値であると見なされます。

WebSphere Commerce 5.5 は、パスワードの暗号化で一方向ハッシュを使用します。このパラメーターにはデフォルト値を使用することをお勧めします。

サイト管理者 ID のリカバリー

WebSphere Commerce インスタンスが作成されたときに定義されたサイト管理者 ID を忘れてしまい、サイト管理者として権限が付与された ID が他にない場合、以下のようにしてサイト管理者 ID をリカバリーすることができます。

1. インストール先の Windows システムから iSeries ナビゲーターを開始します。
2. 「データベース (Databases)」を拡張表示します。
3. WebSphere Commerce インスタンスのスキーマが常駐するリレーショナル・データベースの名前を右マウス・ボタンでクリックし、「SQL スクリプトの実行 (Run SQL Scripts)」を選択します。「SQL スクリプトの実行 (Run SQL Scripts)」ウィンドウがオープンします。
4. ウィンドウに以下の SQL ステートメントを入力します。

```
SELECT LOGONID FROM schema_name.USERREG WHERE USERS_ID=-1000
```

schema_name は、WebSphere Commerce インスタンスが常駐するスキーマの名前です。

このステートメントは、サイト管理者 ID を戻します。

第 19 章 Web サーバーのタスク

この章では、iSeries で Web サーバーを開始および停止する方法を説明します。WebSphere Commerce Configuration Manager などの他のコンポーネントを開始および停止する方法については、40 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。WebSphere Commerce インスタンスや WebSphere Commerce Payments など、他の WebSphere Commerce コンポーネントを開始および停止する方法については、87 ページの『第 15 章 WebSphere Commerce のタスク』を参照してください。

IBM HTTP Server の開始および停止

IBM HTTP Server インスタンスの開始

WebSphere Commerce インスタンスに関連した 1 つの IBM HTTP Server インスタンスがあります。IBM HTTP Server 名は、WebSphere Commerce インスタンスと同じ名前になります。たとえば、WebSphere Commerce インスタンスが demo1 であると、IBM HTTP Server 名も demo1 になります。

IBM HTTP Server インスタンスは、OS/400 コマンド行と Web ブラウザーのどちらからでも開始することができます。

OS/400 コマンド行から IBM HTTP Server インスタンスを開始するには、次のようにします。

1. QSECOFR クラス権限をもったユーザーとして iSeries マシンにログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(instance_name)
```

Web ブラウザーから IBM HTTP Server インスタンスを開始するには、次のようにします。

1. OS/400 コマンド行に以下を入力して、HTTP Administrator サーバー・インスタンスが実行中であることを確認します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTPSVR)
```

サブシステムに ADMIN ジョブがあることを確認してください。HTTP Administrator サーバー・インスタンスが実行中でない場合、OS/400 コマンド行に以下を入力して開始します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ADMIN)
```

2. HTTP Administrator サーバー・インスタンスがアクティブになったら、以下の URL に進みます。

```
https://iSeries_host_name:2010
```

ただし 2010 は Web 構成サーバーのポート、iSeries_host_name は iSeries マシンの完全修飾ホスト名です。非セキュア HTTP Administrator サーバーをポート 2001 で実行している場合、この URL を以下の URL で置き換えます。

```
http://iSeries_host_name:2001
```

非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードおよびその他の情報は暗号化されません。

3. 「**IBM HTTP Server for iSeries**」をクリックします。
4. 「**管理 (Manage)**」タブをクリックします。
5. 処理する特定のサーバーを選択します。
6. 「**スタート**」 (画面の下にあります) をクリックします。
7. メッセージ領域を調べて、インスタンスの開始で問題がないことを確認します。
8. 確認するには、OS/400 コマンド行に以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTSPVR)
```

そして、**Subsystem/Job** ヘッダーの下の Web サーバー・インスタンスのエントリーと、**User** ヘッダーの下の QTMHHTTP のエントリーを見つけます。

IBM HTTP Web サーバー・インスタンスの停止

IBM HTTP Server インスタンスは、OS/400 コマンド行と Web ブラウザーのどちらからでも停止することができます。

OS/400 コマンド行から IBM HTTP Server インスタンスを停止するには、次のようにします。

1. QSECOFR クラス権限をもったユーザーとして iSeries マシンにログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(instance_name)
```

Web ブラウザーからいずれかのインスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. 以下の URL を入力します。

```
https://iSeries_host_name:2010
```

注: 非セキュア HTTP Administrator サーバーをポート 2001 で実行している場合、この URL を以下の URL で置き換えます。

```
http://iSeries_host_name:2001
```

非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードおよびその他の情報は暗号化されません。

2. 「**IBM HTTP Server for iSeries**」をクリックします。
3. 「**管理 (Manage)**」タブをクリックします。
4. 処理する特定のサーバーを選択します。
5. 「**停止**」 (画面の下にあります) をクリックします。
6. メッセージ領域を調べて、インスタンスの停止で問題がないことを確認します。
7. 確認するには、OS/400 コマンド行に以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTSPVR)
```

そして、**Subsystem/Job** ヘッダーの下に Web サーバー・インスタンスのエントリーがないことと、**User** ヘッダーの下に QTMHHTTP がないことを確認します。

IBM HTTP administrator の開始および停止

HTTP Administrator サーバー・インスタンスを開始するには、以下のようにします。

1. QSECOFR クラス権限をもったユーザーとして iSeries マシンにログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ADMIN)
```

3. 確認するには、OS/400 コマンド行に以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTPSVR)
```

サーバーの開始が正常に完了したかどうかを確認するには、**Subsystem/Job** ヘッダーの下の ADMIN エントリーと、**User** ヘッダーの下の QTMHHTTP エントリーを調べます。

HTTP Administrator サーバーのポート番号は 2010 です。

注: さらに、HTTP Administrator サーバー・インスタンスの非セキュア接続用にポート 2001 も使用できます。非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードおよびその他の情報は暗号化されません。

HTTP Administrator サーバー・インスタンスを停止するには、以下のようにします。

1. QSECOFR クラス権限をもったユーザーとして iSeries マシンにログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ADMIN)
```

3. 確認するには、OS/400 コマンド行に以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTPSVR)
```

そして、**Subsystem/Job** ヘッダーの下に ADMIN のエントリーがないことと、**User** ヘッダーの下に QTMHHTTP がないことを確認します。

HTTP Administrator サーバーのポート番号は 2010 です。

注: さらに、HTTP Administrator サーバー・インスタンスの非セキュア接続用にポート 2001 も使用できます。非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードおよびその他の情報は暗号化されません。

第 20 章 WebSphere Commerce の管理に必要なユーザー ID

WebSphere Commerce 環境での管理には、さまざまなユーザー ID が必要です。それらのユーザー ID と、それに必要な権限のリストを、次の表に示します。

WebSphere Commerce のユーザー ID に対して、デフォルトのパスワードが識別されます。

iSeries ユーザー・プロファイル

WebSphere Commerce をインストールして構成するとき、以下の 2 つの iSeries ユーザー・プロファイルが頻繁に使用および参照されます。

- WebSphere Commerce をインストールし、構成マネージャーにアクセスするために作成および使用するユーザー・プロファイル。WebSphere Commerce をインストールして構成するためには、USRCLS(*SECOFR) の iSeries ユーザー・プロファイルを使用するか、または QSECOFR ユーザー・プロファイルを使用する必要があります。ユーザー・プロファイルを作成する必要がある場合は、116 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』を参照してください。
- WebSphere Commerce のインスタンスを作成する時点で構成マネージャーによって作成されるユーザー・プロファイル。このユーザー・プロファイルは「インスタンス・ユーザー・プロファイル」とも呼ばれます。
WebSphere Commerce のインスタンスを作成するたびに、構成マネージャーによって USRCLS(*USER) のユーザー・プロファイルが作成されます。

構成マネージャーのユーザー ID

構成マネージャー・ツールのグラフィカル・インターフェースを使用すれば、WebSphere Commerce の構成方法を変更できます。構成マネージャーのデフォルト・ユーザー ID およびパスワードは、webadmin および webibm です。

構成マネージャーには、構成マネージャー クライアントがインストールされた、WebSphere Commerce と同じネットワーク上のマシンからアクセスできます。

WebSphere Commerce のサイト管理者

サイト管理者のユーザー ID とパスワードは、以下の WebSphere Commerce ツールに対して適用されます。

WebSphere Commerce アクセラレーター

Windows オペレーティング・システムが実行されているマシンから WebSphere Commerce アクセラレーター にアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開いてから、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8000/accelerator`

WebSphere Commerce 管理コンソール

Windows オペレーティング・システムが実行されているマシンから

WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開いてから、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8002/adminconsole`

WebSphere Commerce 組織管理コンソール

Windows オペレーティング・システムが実行されているマシンから WebSphere Commerce 組織管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開いてから、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8004/orgadminconsole`

サイト管理者の初期ユーザー ID とパスワードは、WebSphere Commerce インスタンスの作成中に指定されます。WebSphere Commerce では、サイト管理者のユーザー ID とパスワードは次の規則を順守していなければなりません。

- パスワードの長さは少なくとも 8 文字でなければなりません。
- パスワードには少なくとも 1 つの数値を使用しなければなりません。
- パスワードでは 1 つの文字を 5 つ以上使用してはなりません。
- パスワードでは同じ文字を 4 回以上繰り返してはなりません。

iSeries ユーザー・プロファイルの作成

WebSphere Commerce をインストールする前に、QSECOFR ユーザー・プロファイルまたは USRCLS(*SECOFR) の iSeries ユーザー・プロファイルがアクセス可能であることを確認してください。ユーザー・プロファイルの CCSID は 65535 以外でなければならず、言語設定は英語か、インスタンスに選択したデフォルトの言語と同じでなければなりません。

iSeries ユーザー・プロファイルを作成する必要がある場合は、OS/400 コマンド行または iSeries Access を使用することができます。コマンド行を使用してユーザー・プロファイルを作成する場合は、以下のようになります。

1. CRTUSRPRF を入力します。
2. プロンプトに対して PF4 キーを押します。
3. 必要なパラメーターの値を指定してから Enter キーを押すと、ユーザー・プロファイルが作成されます。

iSeries Access を使用している場合にユーザー・プロファイルを作成するには、以下のようになります。

1. ナビゲーション・ツリーの中で、新規ユーザーを作成する iSeries サーバーをダブルクリックします。
2. 「ユーザーとグループ (Users and Groups)」をダブルクリックします。
3. 「全ユーザー (All Users)」をクリックします。右側のパネルに、iSeries 上のすべてのユーザーのリストが表示されます。
4. 「全ユーザー (All Users)」を右マウス・ボタン・クリックしてから、「新規ユーザー」を選択します。「新規ユーザー」ウィンドウが表示されます。

5. 必要な情報を入力してから「追加」キーを押すと、ユーザー・プロファイルが作成されます。

iSeries のユーザー・プロファイルは、以下のローカライズされた設定で作成してください。

表 2. iSeries ユーザー・プロファイルのローカライズ設定

言語	CCSID	LangID	CountryID
英語	37	ENU	US
フランス語	297	FRA	FR
ドイツ語	273	DEU	DE
イタリア語	280	ITA	IT
スペイン語	284	ESP	ES
ブラジル・ポルトガル語	37	PTB	BR
日本語	5035	JPN	JP
韓国語	933	KOR	KR
中国語 (繁体字)	937	CHT	TW
中国語 (簡体字)	935	CHS	CN

上記以外の iSeries ユーザー・プロファイルを使用しても作業はできますが、テストされているわけではありません。

第 7 部 付録

付録 A. 確認済みの問題と制限事項

ここでは、WebSphere Commerce における確認済みの問題と制限事項について述べています。最新の問題と制限事項の詳細は、README ファイルを参照してください。

追加のトラブルシューティング情報は、WebSphere Application Server にある WebSphere Commerce のトレース・フィーチャーをオンにすることによって収集できます。トレース・フィーチャーについて詳しくは、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」を参照してください。

Web サーバーの問題と制限事項

セキュア (HTTPS) URL が機能しない

WebSphere Commerce のセキュア URL のいずれかが機能しない場合、Web サーバーの SSL 証明書が欠落しているか期限が切れている可能性があります。

SSL 証明書のインストールまたは更新について詳しくは、Web サーバーの資料を参照してください。

WebSphere Commerce インスタンスの問題と制限事項

WebSphere Commerce インスタンスを正しく開始できない

WebSphere Commerce インスタンスの始動の試みが失敗する理由はいくつかあります。このインスタンスは QShell セッション内の iSeries システムで開始されるので、インスタンスが正常に始動されないときに以下のエラーが出される場合があります。

```
EJB6121: Application server did not start.
```

WebSphere Commerce インスタンスの始動に関する主な問題のいくつかを以下にリストします。

- インスタンス名が正しく入力されていない場合があります。

大文字小文字の両方をサポートする iSeries システムでは、`startServer` コマンドを呼び出す際、大文字小文字の区別に注意して、`instance_name` または `payments_instance_name` を正しく入力する必要があります。たとえば、`instance_name` が `demostore` として定義されていて、以下のコマンドを入力するとします。

```
startServer WC_DEMOSTORE
```

この場合、インスタンスは始動しません。

ログ・ファイル `WAS_userdir/logs/WC_demostore/native_stdout.log` に、以下のエラーが表示されます。

WSVR0004E: The server name, WC_DEMOSTORE, is not a valid name.
WSVR0009E: Error occurred during startup.

QShell セッションに戻り、startServer で、正しく大文字小文字が区別された *instance_name* が指定されていることを確認します。

- ポートの競合が存在する場合があります。 *WAS_userdir/logs/WC_instance_name* ディレクトリーに置かれている SystemOut.log ファイルを調べてください。

ポートの競合が存在することを示す以下のようなメッセージが記録されている場合があります。

SRVE0146E: Failed to Start Transport on host, port 9093.
The most likely cause is that the port is already in use.

NMSV0011E: Unable to start bootstrap server using port 9810.
Verify that no servers or other processes are already using the bootstrap server port.

ADMC0015W: SOAP connector failed to start with exception: Address already in use.

ポートの競合の問題を訂正するには、iSeries システム上ですでに実行されているポート番号と競合しない別のポート番号を選択する必要があります。 OS/400 コマンド行で以下のコマンドを実行してください。

```
NETSTAT *CNN
```

コマンドは、現在システム上でアクティブになっているポートのリストを戻します。選択したポート番号が現在、iSeries システム上の別のアプリケーションによって使用されていないことを確認してください。

注: WebSphere Commerce によってすでに予約されている可能性のあるポートを選択しないようにするには、4 ページの『WebSphere Commerce で使用されるポート番号』を参照してください。

いったん新規のポート番号を決定したら、以下のようにします。

1. Web ブラウザーから、WebSphere Application Server 管理コンソールにナビゲートします。詳細は、96 ページの『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
2. ユーザー ID を入力し、「OK」をクリックします。
3. 左側にある「サーバー」を拡張表示してから、「アプリケーション・サーバー (Application Servers)」をクリックします。
4. ポートの競合が起きているアプリケーション・サーバーのリンクをクリックします。
5. 次のページに「一般プロパティ (General Properties)」と「追加プロパティ (Additional Properties)」が表示されます。「追加プロパティ (Additional Properties)」のリストをスクロールダウンします。
6. SystemOut.log ファイルに表示されたメッセージに応じて、トランスポートのポート、またはエンドポイントのポートの変更の必要が生じる場合があります。

メッセージがトランスポートのポートに関する問題を示す場合、「Web コンテナ (Web Container)」→「HTTP トランスポート (HTTP transports)」をクリックします。

メッセージがブートストラップ、SOAP コネクタ、または他のポートに関する問題を示す場合、「**エンドポイント (End Points)**」をクリックします。

7. HTTP トランスポートの場合、「**ホスト (Host)**」列の下の該当するリンクをクリックします。

エンドポイントの場合、「**エンドポイント名 (End Point Name)**」列の下の該当するリンクをクリックします。

8. ポート番号を新規ポート番号に変更します。「**適用**」をクリックします。
9. メッセージ・ボックスに以下のメッセージが表示されます。

Changes have been made to your local configuration. Click Save to apply changes to the master configuration.

10. メッセージ・ボックスで「**保管**」をクリックします。
11. 「**マスター構成に保管 (Save to Master Configuration)**」メッセージ・ボックスが表示されます。このメッセージ・ボックス内の「**保管**」ボタンをクリックします。
12. 保管が完了したら、管理コンソールのホーム・ページが表示されます。
13. 左側にある「**環境 (Environment)**」を拡張表示してから、「**Web サーバー・プラグインの更新 (Update Web Server Plugin)**」をクリックします。
14. 「**OK**」をクリックして、プラグイン構成ファイルを更新します。
15. プラグインが更新されたら、メッセージ・ボックスに以下のエントリが表示されます。

The web server plugin configuration was updated successfully.

16. 管理コンソールからログアウトし、WebSphere Commerce インスタンスを再始動します。

コンソール・インストールの使用上の注意

WebSphere Commerce をインストールする際に、コンソール・インストール方式を使用する予定の場合、以下の点に注意してください。

- 大半の選択行の末尾に、 $[n]$ と表示されます。この n は、選択項目のデフォルト選択を表します。たとえば、以下の行は、デフォルトの選択は次のパネルであることを示します。

Press 1 for Next panel, 3 to Cancel or 4 to Redisplay [1]

Enter キーを押してその選択を受け入れてから、次のパネルに進むことができます。パネルを取り消すかまたは再表示したければ、有効な選択番号を入力して、**Enter** キーを押します。

- 選択項目の番号を入力するときは、カーソルの位置を変えないでください。番号の前に余分のスペースを挿入すると、エラー・メッセージが表示されます。
- インストールを先に進めていくと、5250 画面上で一部の情報がスクロールオフしてしまいます。その場合、ページを元に戻れば、その情報を表示することができます。スクロールする情報のあるセクションは次のとおりです。

- 「ウェルカム」ページ
- ソフトウェア供与条件
- インストール・タイプの選択
- インストール・オプションの確認ページ

- 画面の左端のより大記号 (>) によって、選択を行ったことが示されます。
- パネルによっては、複数の選択を行うことができます。該当する選択番号を入力すれば、選んだとおりの選択内容が示されます。同じ選択項目を再度選択すると、その項目は選択リストから除去されます。すべての選択を完了したら、次のパネルへの移動を選択します。
- WebSphere Application Server と WebSphere Commerce をともにインストールする場合、WebSphere Application Server 製品の CD を挿入するよう求められます。その場合のメッセージは次のようなものです。

Insert the IBM WebSphere Application Server CD into the CD-ROM drive and specify the location of the CD-ROM drive in the field below.

CD-ROM ドライブの場所の指定は不要です。 WebSphere Commerce のインストールを開始したのと同じ CD-ROM ドライブに CD を挿入してください。

- WebSphere Application Server 製品をインストールしている場合、完了のパーセンテージ ("%") を示したステータス・バーが表示されます。 2 枚目の WebSphere Application Server CD を挿入すると、元のステータス・バーは完了状態ではなくなります。その代わりに、左側から始まる別の行上に追加の垂直線が表示されます。
- 各国言語でインストールしている場合には、 WebSphere Commerce と WebSphere Application Server の両方のインストール・システムのステータス・バーが垂直線で表示されます。
- WebSphere Commerce のインストールが完了した後、F3 キーを使用して PASE セッションを終了します。

WebSphere Commerce Payments インスタンスの問題と制限事項

リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが機能しない

リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが機能しない場合、WebSphere Commerce Payments インスタンスの構成が正しくない可能性があります。

WebSphere Commerce Payments の構成を検査するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce ノードで、以下のファイルをテキスト・エディターでオープンします。

```
WC_userdir/instances/WC_instance_name/xml/  
WC_instance_name.xml
```

WC_instance_name は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WC_userdir のデフォルト値は、 v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

2. 以下のテキストを検索します。

```
<PaymentManager
```

3. 見つかったテキストの下の Hostname エントリーが、 WebSphere Commerce Payments によって使用される Web サーバー・ノードを指し示すようにします。

エントリーには、Web サーバー・ノードの完全修飾ホスト名が含まれている必要があります。

- 行ったすべての変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。
- WebSphere Commerce Payments ノードで、以下のファイルをテキスト・エディターでオープンします。

```
Payments_userdir/instances/payments_instance_name/xml/  
Payments_instance_name.xml
```

payments_instance_name は、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

Payments_userdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

- 以下のテキストを検索します。

```
<PMWCSRealm
```

- 見つかったテキストの下の Hostname エントリーが、WebSphere Commerce によって使用される Web サーバー・ノードを指し示すようにします。

エントリーには、Web サーバー・ノードの完全修飾ホスト名が含まれている必要があります。

- 行ったすべての変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。
- WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments を再始動します。詳細は、87 ページの『第 15 章 WebSphere Commerce のタスク』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスが始動しない

ポート 9090 以外のポートを使用するように WebSphere Application Server が構成されていると、WebSphere Commerce Payments インスタンスは始動しません。

それが問題の原因であることを確認するには、次のようにします。

- テキスト・エディターで以下を開きます。

```
WAS_userdir/logs/payments_instance_name_Commerce_Payments_Server/  
SystemOut.log
```

payments_instance_name は、WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

WAS_userdir のデフォルト値は、v ページの『パス変数』に一覧で示されています。

- 以下のメッセージを求めてファイルを検索します。

```
SRVE0146E: Failed to Start Transport on host *, port 9090.
```

このエラー・メッセージが出たら、WebSphere Commerce Payments ポートを変更します。詳細は、47 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成時の考慮事項』を参照してください。

このエラー・メッセージが示されていない場合、IBM サポート担当員に連絡してください。

WebSphere Commerce Payments のポートを変更するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。詳細は、を参照してください。
2. **WebSphere Commerce** の下の *hostname* を拡張表示します。
3. 「**Payments**」 → 「**インスタンス・リスト**」 → 「*payments_instance_name*」 → 「**インスタンス・プロパティ**」を拡張表示します。
4. 「**Web サーバー (Webserver)**」タブをクリックします。
5. 希望するポートを更新します。
6. 「**適用**」をクリックして、変更を適用します。

注: Payments のポートを変更する場合は、WebSphere Application Server 管理コンソールを使用するのではなく、37 ページの『第 7 章 構成マネージャーを使用したインスタンスの作成または変更の前に』の説明に従って、構成マネージャーを使用してください。これで、すべてのプロパティとファイルが同じ情報で更新されるようになります。

付録 B. WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール

この章では、さまざまな WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール方法について説明します。

WebSphere Commerce のアンインストール

注: WebSphere Commerce を iSeries システムからアンインストールすると、Payments 製品が同じ iSeries システム上にインストールされている場合、WebSphere Commerce Payments もアンインストールすることになります。

WebSphere Commerce をアンインストールするには、以下のようになります。

1. 次のコマンドを入力して QShell セッションを開始します。

```
STRQSH
```

2. 現行ディレクトリーを WebSphere Commerce uninstall ディレクトリーに変更します。

```
cd WC_installdir/_uninst
```

3. 以下のアンインストール・コマンドを実行します。

```
uninstall.qsh
```

4. ウェルカム・メッセージが表示されたら、「**1**」を押して次の画面に進みます。
5. WebSphere Commerce ディレクトリーにはアンインストールされるフィーチャーが表示されます。**Enter** を押してアンインストールを開始します。

注: リストには OS/400 に特有ではないフィーチャーや、OS/400 エントリーと重複するフィーチャーが多く含まれています。これらの余分のエントリーは無視することができ、アンインストール中は問題を引き起こすことはありません。

6. WebSphere Commerce のアンインストールは「Uninstalling product...」というメッセージで開始されます。
7. アンインストールが完了すると、次のメッセージが表示されます。「The InstallShield Wizard has successfully uninstalled IBM WebSphere Commerce. Choose Finish to exit the wizard.」

Enter を押してウィザードを終了します。

8. **F3** ファンクション・キーを押して QShell セッションを終了します。

`WC_installdir` のデフォルト値は、`v` ページの『パス変数』に一覧で示されています。

WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントのアンインストール

構成マネージャー・クライアントがインストールされている Windows PC 上で構成マネージャー・クライアントをアンインストールするには、次のようにします。

1. *cfgmgr_installdir* ディレクトリーへとナビゲートします。 *cfgmgr_installdir* は構成マネージャー・クライアントがインストールされているディレクトリーです。
2. *cfgmgr_installdir* ディレクトリーで、 *_uninst* ディレクトリーへナビゲートします。
3. *uninstall.exe* ファイルをダブルクリックします。
4. WebSphere Commerce ウィンドウが表示されます。希望する言語を選択してから、「OK」をクリックします。
5. ウェルカム・ページで、「次へ」をクリックします。
6. 次の画面で *cfgmgr_installdir* ディレクトリーが表示されます。
7. 「次へ」をクリックして、構成マネージャー・クライアント・コードのアンインストールを開始します。
8. InstallShield ウィザードで「終了」をクリックしてウィザードをクローズします。

この方法以外に、Windows PC の「コントロール パネル」から「アプリケーションの追加と削除」オプションを使用することもできます。「変更と削除」をクリックすると、プログラムのアンインストールが始まります。上記のステップ 4 から 8 を続けて実行してください。

注: *cfgmgr_installdir* ディレクトリーはアンインストール完了後も残ります。この時点で、Windows PC 上でこのディレクトリーを削除できます。

WebSphere Application Server のアンインストール

WebSphere Application Server のアンインストールに関して詳しくは、以下の @server iSeries WebSphere Application Server のライブラリーに用意されているインストールと初期構成に関する資料を参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/software/websphere/wsappserver/docs/docws50.html>

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのアンインストール

WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのアンインストールに関して詳しくは、以下の @server iSeries WebSphere Application Server ネットワーク・デプロイメントのライブラリーに用意されているインストールと初期構成に関する資料を参照してください。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/software/websphere/wsappserver/docs/docnd50.html>

WebSphere Commerce とそのコンポーネントの再インストール

WebSphere Commerce パッケージ全体を再インストールする場合は、15 ページの『第 2 部 WebSphere Commerce のインストール』の指示に従ってください。

WebSphere Commerce の一部を再インストールする場合は、25 ページの『第 5 章 カスタム・インストールの実行』を参照してください。35 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』の指示に従って、インスタンスを削除してから再作成する必要があります。

付録 C. 詳細情報の入手方法

WebSphere Commerce システムとそのコンポーネントに関するさらに詳しい情報は、さまざまな形式でさまざまな情報源から入手できます。この部分では、利用できる情報と利用方法を示します。

WebSphere Commerce に関する情報

WebSphere Commerce の情報源は、以下のとおりです。

- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ

WebSphere Commerce のオンライン情報は、WebSphere Commerce のカスタマイズ、管理、および再構成に関する主要な情報源です。WebSphere Commerce のインストールが完了したら、以下に示す URL に移動してオンライン情報内のトピックにアクセスすることができます。

`https://host_name:8000/wchelp/`

ただし `host_name` は、v ページの『本書の使用変数』に定義されているとおりの WebSphere Commerce インスタンスの完全修飾ホスト名です。

WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー

WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーは、以下の URL に掲載されています。

`http://www.ibm.com/software/commerce/library/`

このマニュアルのコピー、およびこのマニュアルの更新済みバージョンは、WebSphere Commerce Web サイトの Library のセクションから PDF ファイルの形式で入手できます。さらに、この Web サイトから、新規および更新された文書を手入することができます。

WebSphere Commerce Payments に関する情報

WebSphere Commerce Payments のヘルプを表示するには、以下の「ヘルプ」アイコンをクリックします。



この「ヘルプ」アイコンは、WebSphere Commerce 管理コンソールと WebSphere Commerce アクセラレーター内の WebSphere Commerce Payments ユーザー・インターフェースに表示され、また、以下の URL のスタンドアロン WebSphere Commerce Payments ユーザー・インターフェースにも表示されます。

`http://host_name:http_port/webapp/PaymentManager`

または

`https://host_name:ssl_port/webapp/PaymentManager`

変数は以下のように定義されています。

host_name

WebSphere Commerce Payments に関連付けられた Web サーバーの完全修飾 TCP/IP ホスト名。

http_port

WebSphere Commerce Payments によって使用される HTTP ポート。デフォルト HTTP ポートは、5432 です。

ssl_port

WebSphere Commerce Payments によって使用される SSL ポート。デフォルト SSL ポートは、5433 です。

WebSphere Commerce Payments が SSL 対応の場合、セキュア URL (HTTPS) を使用してください。SSL 対応でない場合、非セキュア URL (HTTP) を使用してください。

以下の URL にも「ヘルプ」が用意されています。

`http://host_name:http_port/webapp/PaymentManager/language/docenter.html`

または

`https://host_name:ssl_port/webapp/PaymentManager/language/docenter.html`

変数は以下のように定義されています。

host_name

WebSphere Commerce Payments に関連付けられた Web サーバーの完全修飾 TCP/IP ホスト名。

http_port

WebSphere Commerce Payments によって使用される HTTP ポート。デフォルト HTTP ポートは、5432 です。

ssl_port

WebSphere Commerce Payments によって使用される SSL ポート。デフォルト SSL ポートは、5433 です。

language

ヘルプ・ページの表示に使われる言語の言語コード。大半の言語の場合、これは 2 文字です。言語コードは以下のとおりです。

言語	コード
ドイツ語	de
英語	en
スペイン語	es
フランス語	fr
イタリア語	it
日本語	ja

言語	コード
韓国語	ko
ブラジル・ポルトガル語	pt
中国語 (簡体字)	zh
中国語 (繁体字)	zh_TW

WebSphere Commerce Payments と Payments Cassettes に関する詳細は、WebSphere Commerce Technical Library に記載されています。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

IBM HTTP Server に関する情報

IBM HTTP Server に関する情報は、IBM HTTP Server Web サイトから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/>

資料は、HTML 形式、PDF ファイル、あるいはその両方で入手できます。

WebSphere Application Server に関する情報

WebSphere Application Server に関する情報は、WebSphere Application Server InfoCenter から入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

DB2 Universal Database に関する情報

DB2 資料は、以下の DB2 Technical Library で入手できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/library/>

その他の IBM 資料

ほとんどの IBM 資料は IBM 特約店あるいは営業担当員から購入することができます。

特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Ltd.
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

400	AS/400	AS/400e
DB2	DB2 Universal Database	@server
IBM	iSeries	Lotus
Notes	OS/2	OS/400
QuickPlace	Sametime	WebSphere

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。